長 野 遺 跡

九州新幹線(八代~西鹿児島)建設に伴う埋蔵文化財調査

2000 熊本県教育委員会

なが の い せき **長 野 遺 跡**

- 熊本県水俣市長野町に所在する埋蔵文化財調査報告-



2000.3 熊本県教育委員会

序 文

熊本県教育委員会では、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局の委託を受け、九州 新幹線(八代~西鹿児島)建設事業に伴い埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

ここに報告する長野遺跡は、熊本県水俣市長野町に所在する遺跡で、平成9年度 に発掘調査を実施し、平成10、11年度に報告書作成を行ったものであります。

この発掘調査では、縄文時代から中世にかけての多くの資料を得ることができました。特に、中世の建物遺構からは、中国産の陶磁器類を多数検出するなど、この地域の中世文化を考える際の貴重な資料となりました。

この報告書が広く活用され、文化財保護と研究資料の一助になれば幸いです。

なお、発掘調査に際しては、専門調査員の先生方からは多大な御指導・御助言を 賜わり、感謝いたしております。また多方面で御配慮いただいた日本鉄道建設公 団九州新幹線建設局、水俣市教育委員会をはじめ、御協力いただいた関係各位に、 心から厚くお礼を申しあげます。

平成 12 年 3 月 31 日

熊本県教育長 佐々木正典

例 言

- 1 本書は、平成9年度に熊本県教育委員会が日本鉄道建設公団九州新幹線建設局の委託を受けて実施した、 九州新幹線(八代~西鹿児島)建設事業に伴う埋蔵文化財「長野遺跡」発掘調査の記録である。
- 2 本書に掲載した「長野遺跡」は、熊本県水俣市長野町に所在する。
- 3 現地調査は平成9年12月より実施し、村崎孝宏・中川裕二が担当した。
- 4 本書で使用した地図は、建設省国土地理院発行の地形図 (1:25,000・1:50,000) をもとに作成した。
- 5 国土座標軸による測量基準杭の設定は、街埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
- 6 発掘調査での遺物取り上げ作業は、何埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
- 7 遺物の整理作業は、平成10,11年度に熊本県文化財収蔵庫で行った。
- 8 遺物の実測は、土器及び磁器を制埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に、また石器を㈱エーティックに 委託し、一部を村田百合子が行った。
- 9 遺構及び遺物実測図の製図は、杉井涼子・知名石揚子・田上瑞恵・村田が行った。
- 10 遺物分布図の作成は、杉井・知名石・田上・村田が行った。
- 11 遺物の写真撮影は、村田が行った。
- 12 本書の編集は、熊本県教育委員会が行い、村崎が担当した。
- 13 出土遺物及び調査に関する記録類は、一括して熊本県教育委員会が保管している。

凡 例

- 1 本書に使用した地形図の一部は、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局から提供を受けたものを基礎にしている。
- 2 遺構の深さは、断りがないものは検出面からの深さである。
- 3 現地での遺構実測は、1/10 又は 1/20 の縮尺で行い、本書収録の際には、1/15 および 1/20、1/40、1/60 の縮尺となっている。
- 4 遺物の実測は、1/1 で行った。本書収録の際には、石器が 1/1,1/3、土器・土製品及び磁器が $2/3\cdot1/3$ の縮尺となっている。
- 5 遺構を個別に説明する際用いた「東西南北」については、各々の遺構での任意方向である。

本 文 目 次

序	文	
例	言	
凡	例	
第 I	章	調査の概要
第	51節	i 調査に至る経緯
第	52節	ī 調査の方法と経過
第]]	[章	遺跡の立地と環境
第	51節	i 地理的環境4
第	52節	
	1	
	2	, = , , ,
	3	VI — VI VI
第	3節	i 基本土層7
第Ⅲ	[章	調査の成果
第	51節	「縄文時代の遺物
	1	土器8
	2	
	3	まとめ13
第	82節	う 弥生時代の遺物
	1	出土遺物57
	2	まとめ57
第	3節	「中世の遺構と遺物
	1	遺構と遺物62
	2	まとめ67
第IV	/章	総 括68
図	版	
却生	:) 싫

挿 図 目 次

第1図	地形図	第 28 図	石器実測図
第2図	遺跡分布図	第 29 図	石器実測図
第3図	基本土層図	第 30 図	石器実測図
第4図	·I · Ⅱ 区遺物分布図(土器、Ⅲ層)①	第31図	石器実測図.
第5図	Ⅲ・Ⅳ区遺物分布図(土器、Ⅲ層)②	第32図	石器実測図
第6図	I・II 区遺物分布図 (土器、IV・V層)①	第33図	石器実測図
第7図	Ⅲ·Ⅳ区遺物分布図(土器、IV·V層)②	第 34 図	石器実測図
第8図	土器実測図	第 35 図	石器実測図
第9図	土器実測図	第36図	石器実測図
第 10 図	土器実測図	第 37 図	石器実測図 .
第11図	土器実測図	第38図	石器実測図
第 12 図	土器実測図	第 39 図	石器実測図
第 13 図	土器実測図	第 40 図	石器実測図
第 14 図	土器実測図	第41図	石器実測図
第 15 図	土器実測図	第 42 図	石器実測図
第 16 図	土器実測図	第 43 図	石器実測図
第 17 図	土器実測図	第 44 図	石器実測図
第 18 図	土器実測図	第 45 図	石器実測図
第 19 図	Ⅰ・Ⅱ 区遺物分布図(石器、Ⅲ層)①	第46図	石器実測図
第 20 図	Ⅲ・Ⅳ区遺物分布図(石器、Ⅲ層)②	第 47 図	土器実測図
第 21 図	I・II 区遺物分布図(石器、IV・V層)①	第 48 図	土器実測図
第 22 図	Ⅲ·Ⅳ区遺物分布図(石器、IV·V層)②	第 49 図	土器実測図
第 23 図	石器実測図	第 50 図	磁器実測図
第 24 図	石器実測図	第51図	遺物分布図・柱穴断面図①
第 25 図	石器実測図	第 52 図	遺物分布図・柱穴断面図②
第 26 図	石器実測図	第 53 図	遺構分布図
第 27 図	石器実測図		

表目次

第1表長野遺跡発掘調査の経過第6表石器計測表②第2表遺跡地名表第7表石器計測表③第3表土器観察表①第8表土器観察表第4表土器観察表②第9表磁器観察表

第5表 石器計測表①

図 版 目 次

図版 1	①遺跡遠景	図版 11	縄文時代土器
	②Ⅱ区完掘状況	図版 12	縄文時代土器
図版 2	①Ⅲ区完掘状况	図版 13	縄文時代土器
	②Ⅳ区完掘状况	図版 14	縄文時代土器
図版 3	縄文時代土器	図版 15	縄文時代土器
図版 4	縄文時代土器	図版 16	縄文時代土器
図版 5	縄文時代土器	図版 17	縄文時代土器
図版 6	縄文時代土器	図版 18	弥生時代土器
図版 7	縄文時代土器	図版 19	弥生時代土器
図版 8	縄文時代土器	図版 20	弥生時代土器
図版 9	縄文時代土器	図版 21	弥生時代土器
図版 10	縄文時代土器	図版 22	磁器

第 | 章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

平成4年度、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局の事業計画が示され熊本県教育委員会は事前調査として、 八代水俣間の踏査を実施しその結果を報告した。埋蔵文化財については、可能性のある地点を含めて 12 ヶ 所を確認し通知した。

本調査は、九州新幹線建設事業の具体化に伴い、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局から提示された、事業の実施計画を受けて、埋蔵文化財に影響を及ぼす地区について実施した。その目的は埋蔵文化財の破壊に 係わる記録保存である。

熊本県文化課では、九州新幹線建設事業の本格化に伴い、平成4年度より、前述の予備調査報告を踏まえて埋蔵文化財の滅失の恐れがある地点について、現地踏査及び試掘・確認調査を開始した。

水俣市長野町においては、平成8年度熊本県教育庁文化課学芸員長谷部善一により試掘調査を実施し、「縄 文時代及び弥生時代の遺物包含層が検出され、本調査が必要である」との報告がなされた。

これを受けて協議を重ね、平成9年12月より「長野遺跡」の発掘調査を開始し、翌年3月終了した。

遺物整理、報告書作成については、年度内に遺跡全体を取りまとめることはできないと判断し、平成 10 年度に遺物の整理を行い、報告書印刷は平成 11 年度に行うこととした。

調査の組織

[平成9年度本調査]

調査責任者 豊田貞二 (文化課長)

調査総括 島津義昭 (主幹・文化財調査第2係長)

調査担当 村崎孝宏(文化財保護主事),中川裕二(嘱託、現嘉島町教育委員会)

[平成10年度整理・報告書作成]

調査責任者 豊田貞二 (文化課長)

調査総括 島津義昭 (課長補佐·文化財調査第2係担当)

江本 直(主幹)

報告書作成 村崎孝宏 (文化財保護主事), 村田百合子 (臨時)

[平成11年度整理・報告書作成]

調查責任者 豊田 貞二 (首席教育審議員兼文化課長)

調査総括 島津義昭 (課長補佐)

江本 直 (主幹兼文化財調査第2係長)

報告書作成 村崎孝宏 (文化財保護主事), 杉井涼子 (嘱託), 知名石揚子 (嘱託), 村田百合子 (臨時) 田上瑞恵 (臨時)

調査指導及び協力者 (順不同)

片岡英治(水俣市立葛渡中学校教諭) 和田好史(人吉市教育委員会) 野田拓治(県立装飾古墳館学芸課長) 長谷部善一(県立装飾古墳館主任学芸員) 水俣市教育委員会 水俣市の歴史を語る会 日本鉄道建設公団

第2節 調査の方法と経過

九州新幹線は、遺跡の立地する平坦地の西端をほぼ南北に縦断し建設される計画である。その路線幅は、約11m程度である。調査区の設定は、路線内に設定されていた幅杭と中央杭を利用し任意に行った。

まず、2区に存在する中央杭から幅杭を見通し基準線とし、それに直行させ 10 m× 10 mの区画を設定した。

この区画は、北一南へ $A\sim I$ 、東一西へ $1\sim 2$ として設定を行った。このようにして設定した区画を基本として調査を実施した。なお、当該調査範囲は、畦畔により4つに区画される。調査の便宜上、この区画を北一南へI区 $\sim I$ V区に区分した。

調査の手順と方法は、以下のとおりである。

まず、重機による表土除去を行い、その清掃の後トランシットを利用して $10 \text{ m} \times 10 \text{ m}$ の区画を設定し、路線幅は 11 m程度であるため、東西軸は両端に便宜的に杭を設定した。

調査は、遺構の検出と遺物の検出を中心に実施した。

柱穴遺構は、平面形の確認を行った後に、約5cm 程度掘り下げ柱痕を確認した。その観察後半裁し、土層 堆積の観察を行い記録を行った。その記録の後、残りを掘り下げ完掘し、全体像を確認する。

この作業の途中で、検出された柱穴群から建物の復元が可能であるかの検討を行った。

これらの作業の際に作成される資料には、1/10, 1/

がある。

遺物の検出は、上記した遺構調査の完了後に実施した。検出遺物は、区画別、基本土層別、遺物の種類別に台帳を作成し遺物番号を付した。この台帳に記載する事項には、土器型式、文様、石器器種、石材などがある。

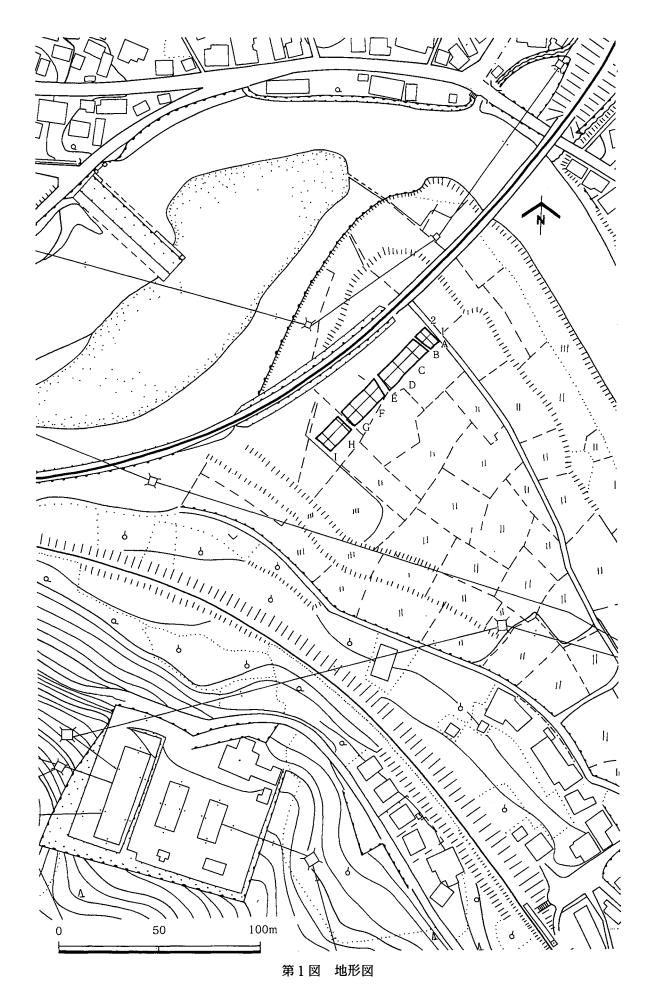
こうした発掘作業のほか、関連遺跡として周辺に分布する遺跡の所在確認調査を実施した。その成果は、 第II章第2節の歴史的環境の項に示している。

また、併せて水俣市内及び芦北郡津奈木町における九州新幹線(新八代~西鹿児島)建設予定地で、試掘・確認調査の必要な箇所の調査を実施した。

調査の経過は、下表のとおりである。

第1表 長野遺跡発掘調査の経過

月	内容
	・現地において発掘調査範囲の確認と廃土仮置きのための場所の検討を行う。
11	・調査事務所の建設及び表土除去作業の準備を行う。
	・水俣市教育委員会の協力を得て、発掘調査作業員の募集を行う。
	・8日、表土除去作業を行い発掘調査を開始する。
12	・調査区内を清掃し、遺構の検出作業を行う。
12	・調査区画の設定。
}	・基本土層の確認。
	・II区の遺構検出と精査及び記録。
1	・I~II区の掘り下げ、遺物の検出、取り上げ。
	・遺構検出状況の写真撮影。
	・II~IV区の遺構検出と精査及び記録。
2	・II~IV区の掘り下げ、遺物の検出、取り上げ。
	・遺構検出状況の写真撮影。
	・Ⅱ~Ⅳ区の掘り下げ、遺物の検出、取り上げ。
3	一造跡遠景写真撮影。
	・調査終了、器材搬出、埋め戻し作業。



- 3 **-**

第11章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

長野遺跡の所在する水俣市は、熊本県の最南端に位置し、南は鹿児島県出水市、大口市と境を接する。北には山塊が海岸部まで迫り、急峻な三太郎峠は交通の難所として知られる。

当該地域は多くが山間部で、肥薩山地に源を発し西流する水俣川や湯出川が刻み込んだ渓谷がみられ、下流域には同河川によって形成された扇状地がみられる。

また、海岸部には複雑に入り組んだいわゆる「リアス式海岸」がみられ、鮮新世から洪積世にかけて形成された古い地層がみられる。

水俣の地質は、大きく2つに区分される。大阪間(仏像)構造線上にみられる四万十層が確認される地域と、肥薩火山群に属する矢筈岳(標高 687 m)や鬼岳(標高 735 m)起源の火山岩や噴出物の堆積がみられる地域である。四万十層は、水俣市の東部水俣川及び湯出川上流域を中心に分布し、明瞭な砂岩、頁岩の互層の露頭は少ないが、礫岩、砂岩、頁岩、チャート、石灰岩、凝灰岩等の堆積岩が認められる。

また、肥薩火山群に属する矢筈岳、鬼岳、大関山(標高901 m)等に伴う安山岩質岩石は、四万十層の分布域以外に広く分布している。この安山岩質岩石には、輝石安山岩、紫蘇輝石安山岩、複輝石安山岩、角閃石安山岩、紫蘇輝石角閃石安山岩等がある。また、多孔質の安山岩質の溶岩や火砕流堆積物、火山角礫岩、火山礫凝灰岩、軽石シラス等も産する。姶良カルデラを起源とする入戸火砕流(シラス)は、古城~長野~初野にかけて分布し、比高差約40 mの丘陵を形成している。

第2節 歴史的環境

1 旧石器時代

現在まで確認されている旧石器時代の遺跡は、7ヶ所である。その多くは、水俣川の支流である石坂川上流に広がる高原地帯に、所在することが知られている。なかでも、石飛分校遺跡(池水 1969)、石飛東遺跡(江本 1985)といった遺跡では早くからその存在が知られ、発掘調査が実施されている。これらの遺跡では、AT(姶良Tn火山灰)を挟んで複数の石器文化層が確認され、多くの成果を上げている。また、同地域から鹿児島県出水市に連なる高原には、著名な上場遺跡(池水 1964)が所在する。

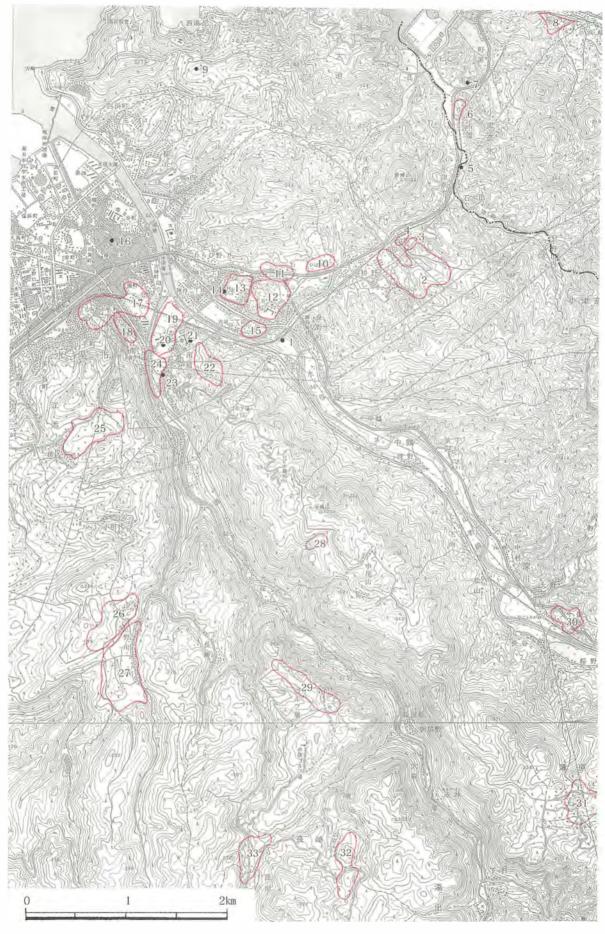
当該地域において確認されている旧石器時代遺跡は、前述した石飛遺跡、石飛東遺跡のほかに五目木遺跡 やぐみの木だん遺跡、鬼嶽遺跡、侍遺跡、田の頭遺跡等で遺物が採集されている。

2 縄文時代

当該地域において、現在まで確認されている縄文時代の遺跡は、48ヶ所である。早期の押型文土器が出土した遺跡は、金山遺跡、日当野遺跡、吉小場遺跡、字土前平遺跡、石飛東遺跡、鬼嶽遺跡、前平遺跡、石飛分校遺跡等がある。このように、縄文時代に入っても古い時期の遺跡は、旧石器時代の遺跡の立地と同様に高原地帯や山間部に集中する傾向がみられる。前期以降では、野川遺跡や茶ノ木平遺跡で轟式土器が、また平野遺跡や鬼嶽遺跡では曽畑式土器が出土している。石神遺跡においては、並木式土器の出土もみられ、当該地域ではほぼ全時期の遺跡が確認されている。その分布は、前述したように古い時期では高原地帯に偏在する傾向が認められ、時期が新しくなるに従って、河岸段丘上や海岸部近くにその立地がみられるようになる。しかし、後期中葉以降に属する遺跡は、さほど多くなく不明な点が多い。

水俣市久木野西木戸遺跡においては、昭和53年に久木野小学校改築工事に伴って発掘調査が実施され、 早期の押型文、前期の並木式、中期の阿高式等の土器や石器が検出されている。

また、市街地には南福寺式土器の標識遺跡として有名な南福寺貝塚があり、水俣市在住の斉藤俊三氏によっ



第2図 遺跡分布図

て発見され、寺師見国氏や小林久雄氏等によって調査が行われた。その後昭和 47 年に、水俣市教育委員会が主体となり発掘調査が実施されたが、詳細については未報告であるため不明である。当該貝塚は、現在一部を市教育委員会によって保存・保護されているが、周辺は宅地化が進み遺跡の広がり等の把握は困難となっている。

3 弥生時代以降

現在まで確認されている弥生時代の遺跡は、21ヶ所である。その分布は、水俣川流域沿いに多くみられ、特に陣内のシラス台地上の陣内遺跡は、北園地下式板石積石室墓群を含む遺跡で、弥生期から古墳期までの遺物が出土している。また、陣内台地では、地下式板石積石室墓の発掘調査も実施されているが、未報告であるため詳細については不明である。初野貝塚や平貝塚では免田式土器が、北園貝塚では黒髪式土器が検出されている。このように、当該地域においては、中期~後期に属する遺跡が確認されているが、それ以前の時期に所属する遺跡は未発見である。

古墳時代の遺跡は、9ヶ所確認されている。このうち、北園上野古墳群では発掘調査が実施され直刀、鉄鏃、釶等が出土している。新村古墳では、家形石室が確認されている。しかし、調査例が少なく、詳細については不明な点が多い。

第2表 遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	備考
1	長野	長野	縄文後晩期~中世		
2	初野台地	初野	弥生・古墳	包蔵地	縄文後・弥生・古墳期遺物出土
3	初野貝塚	初野 川内	弥生	貝塚	弥生中・後期、免田式・野辺田式
4	初野古墳群・オツカ古墳群	初野	弥生・古墳	古墳	初野古墳群は地下式板石積石室墓、「御塚」か
5	瀬戸眼鏡橋	小津奈木 (通称前田)	近世	建造物	
6	慧浄院廃寺跡	小津奈木 小津奈木	中世	寺社	碑 1 基
7	越中次郎兵衛平盛継の墓	小津奈木 小津奈木		墓	
8	浜崎貝塚	.岩城 浜崎	弥生	貝塚	御手洗式・南福寺式・御領式・弥生土器、石器
9	湯の児製鉄跡	西湯の児台地	古代・中世	生産	製鉄滓やふいご火口等
10	北圍上野古墳群	陣内 北園・上野	古墳	古墳	1 基発掘、直刀・鉄鏃・ヤリガンナ
11	北園貝塚	陣内 北園	弥生	貝塚	黒髪式、土器
12	陣内台地	陣内 上野・北園	弥生・古墳	包蔵地	縄文・弥生・古墳、須恵器堤瓶、
13	水俣城跡	陣内 古城	中世	城	陣内城ともいう
14	陣内官軍墓地	陣内 古城 1 丁目	近代	墓地	明治 10 年西南の役、戦死者を葬むる
15	古城	陣内 古城	弥生	包蔵地	弥生土器
16	徳富蘇峰・蘆花の生家	浜町	近代	建造物	
17	権現	江添 権現	縄文	包蔵地	土器片・黒耀石片
18	平貝塚	江添 平	弥生	貝塚	重孤文
19	南福寺貝塚	南福寺 柿の木丸	縄文	貝塚	人・獣骨、縄文南福寺式の原拠、各種土器出土
20	榎谷古墳	南福寺 (通称複谷)	古墳	古墳	鉄器出土、古老談
21	榎谷黄金仏	南福寺 (通称榎谷)	歷史	石造物	戦跡より出土、髙さは5分位の金銅観音像
22	松尾山	南福寺 (通称松尾山)	奈良・平安	包蔵地	奈良・平安期、土師器・須恵器・土器出土
23	新村古墳	南福寺 前田	古墳	古墳	3基、家形・木棺
24	前田	南福寺 前田	弥生	包蔵地	弥生後期土器出土
25	侍	江添 侍	旧石器・縄文	包蔵地	細刃器・剥片・縄文土器
	馬頭観音	長崎 (通称野川)	古墳	包蔵地	馬頭観音台地、須恵器・鉱滓
27	野川	長崎 (通称野川)	縄文・弥生	包蔵地	- 本式・南福寺式、弥生、須恵器・土師器
	中尾山	長野 松尾平	縄文・弥生	包蔵地	土師・須恵 (平安)・縄文・石鏃・黒耀石片
	余費 .	長崎 余貴	縄文	包蔵地	石鏃・石匙・縄文土器
	平野	深川 平野	縄文	包蔵地	曽畑式・遠川式、多量に包含
	犬鹿倉	薄原 菅原	縄文	包蔵地	石鏃・石匙・土器片
	にが水	長崎 苦水	縄文	包蔵地	湧泉地、縄文土器・石器
33	茂川	長崎 (通称茂川)	縄文~古墳	包蔵地	須恵器・土師器・石器

第3節 基本十層

今回発掘調査を実施した長野遺跡は、山地から平地への変化する水俣川左岸に位置し、その氾濫による土砂の堆積が認められた。当該遺跡においては、第8層を礫層として8枚の土層が確認された。

以下、各層ごとに説明を行う。

第1層 表土層 (耕作土)

第2層 暗灰褐色土層

旧耕作土であると考えられ、赤褐色の細かな粒子を含む。また、この粒子は同層の下位で多量に観察され、色調も暗くなる傾向が認められた。層厚は、 $20\sim25\,\mathrm{cm}$ である。

第3層 暗褐色砂質土層

微細な砂粒を多く含む土層で、水俣川の反乱に起因する堆積層であると考えられる。乾燥すると硬くしまる。上層との層理面で中世に属する遺構を検出した。また、中位面~下位にかけては弥生時代中期後半から後期前半に属する遺物を多量に包含する。層厚は、25~30cmである。

第4層 暗褐色弱粘質土層

上層に比べて粒子が細かく、やや粘性を帯びる。層厚は、15~20cm である。縄文時代晩期前半から後半に属する遺物を多量に包含する。

第5層 褐色土層

やや明るい色調を呈し、上層に比して粘性は弱い。層厚は、30~40cmである。上位~中位にかけて縄文 時代晩期前半から後半に属する遺物を包含する。

第6層 暗褐色土層

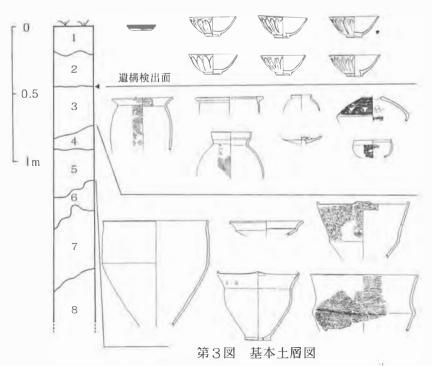
土質は、上層と類似するが色調がやや暗く、遺物の包含は認められなかった。層厚は、20~25cmである。

第7層 褐色砂質土層

小石等は、含まず均質である。ジャリジャリとした土質である。層厚は、 $40\sim50\,\mathrm{cm}$ である。遺物等の包含は認められなかった。

第8層 礫層

10cm 大程度の円礫を多量に含む。



第Ⅲ章 調査の成果

第1節 縄文時代の遺物

1 土器

長野遺跡では、縄文時代に属する土器が大量に出土した。その大半は、胴部中央部に屈曲をもち内湾しながら外反ぎみに立ち上がる深鉢形の器形が主体を占める。このように器種組成は、深鉢を主体としながら浅鉢等を含み、形態的にもバラエティーが認められる。

掲載した資料については、第3表~第4表にグリッド、出土層位、器種、部位と残存高、復元した口径、内外器面の色調、胎土混入物、調整、特徴等詳細について記載した。

以下、分類ごとに説明を行う。

1) 精製浅鉢形土器

第 11 図 21, 第 14 図 47, 50 \sim 56 は、内外器面ともよく研磨されたいわゆる黒色磨研土器と呼称される資料である。 口縁部から口唇部にかけての立ち上がりは短く、 $1\sim2$ 状の沈線が横位に施されるもの (第 14 図 50 \sim 56) と胴部中 央部で屈曲し外反しながら立ち上がり、最大径が口縁部に認められるもの (第 11 図 21) がみられる。

数量的には、粗製深鉢形土器に比して少ない。

2) 粗製深鉢形土器

外器面の調整は、工具を用い粗く施すものが多い。口縁部の形状は、平縁のものが多く認められるが、中には波状を呈するもの (第11 図 15, 第12 図 23) や口唇部に部分的に張り出し状の粘土帯を張り付けるもの (第11 図 12) も認められる。全体の器形は、胴部中央部に屈曲をもち内湾しながら外反ぎみに立ち上がるもの (第8 図 1, 第10 図 11, 第12 図 29, 第13 図 40) があり、このなかで屈曲の緩やかなもの (第12 図 29, 第13 図 40) もみられる。66 は、胴部に刻み目のある突帯を施すものである。

3) 組織痕文土器

81,82 は、外器面に組織痕が押圧された資料であり、いわゆる組織痕文土器と呼称されるものである。確認された組織痕は織布と考えられ、その織目は細かい。両者は、比較的近接した範囲で検出された。

これらの土器の大半は、その特徴から無刻目突帯文1期~無刻目突帯文2期(清田 1998)に比定できる資料であろう。つまり、所属時期は晩期前半~後半に位置づけられるものであろう。

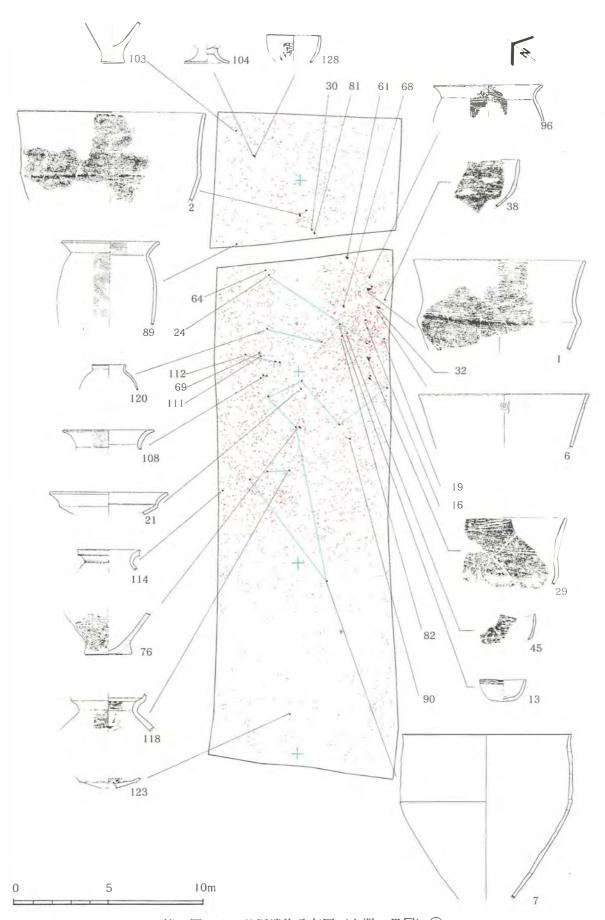
2 石器

長野遺跡では、多量の石器が出土した。層位別では、第 II 層~第 IV 層にかけて出土している。しかし、その中心は第 II 層下部から第 IV 層にかけて認められる。

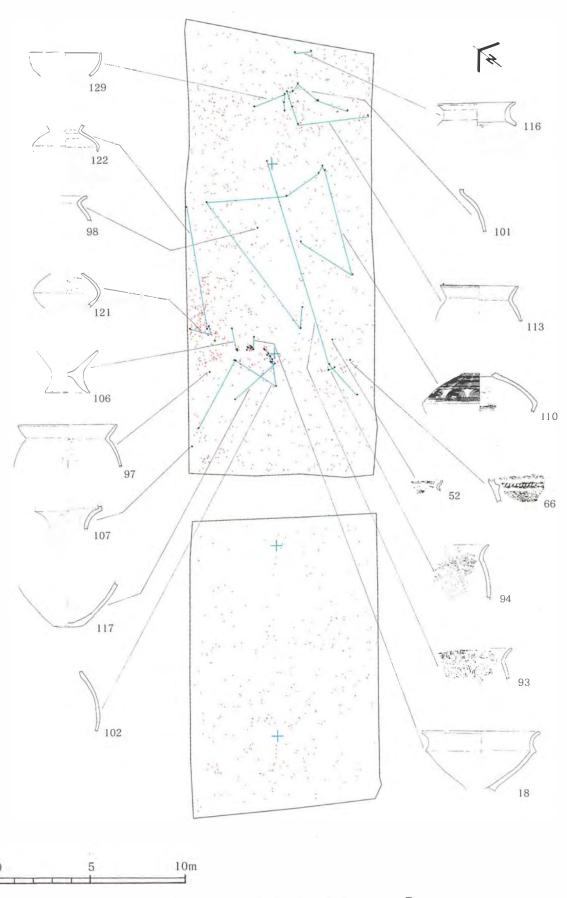
検出された石器に利用されている石材は、黒耀石が圧倒的に多く、その他では安山岩、サヌカイト、珪岩等があり、石 材選択にはバラエティーが認められるが、その利用の在り方には偏りがみられる。また、利用される黒耀石の大半は、県 境~大口周辺で産するもので、挟雑物を多く含んだ「日東系」が主体を占める。このように、当該期の石材利用の在り方 は、近距離で獲得できるものを多用する傾向が窺える。

図示した石器の器種は、石鏃(第 23 図 1 ~ 15)、楔形石器(第 24 図 16 ~ 第 26 図 31)、二次加工ある石器(第 27 図 32 ~ 第 30 図 66)、使用痕ある剥片(第 31 図 68 ~ 第 37 図 106)、磨石・敲石(第 38 図 107 ~ 第 39 図 117)、剥片・砕片、石核(第 40 図 118 ~ 第 46 図 137)、異形石器(第 30 図 67)である。これらの石器のうち二次加工ある石器として分類を行ったものの中には、素材剥片の側辺部に粗い調整課工を連続的に施したものも認められ、削器として分類することも可能であろうか。

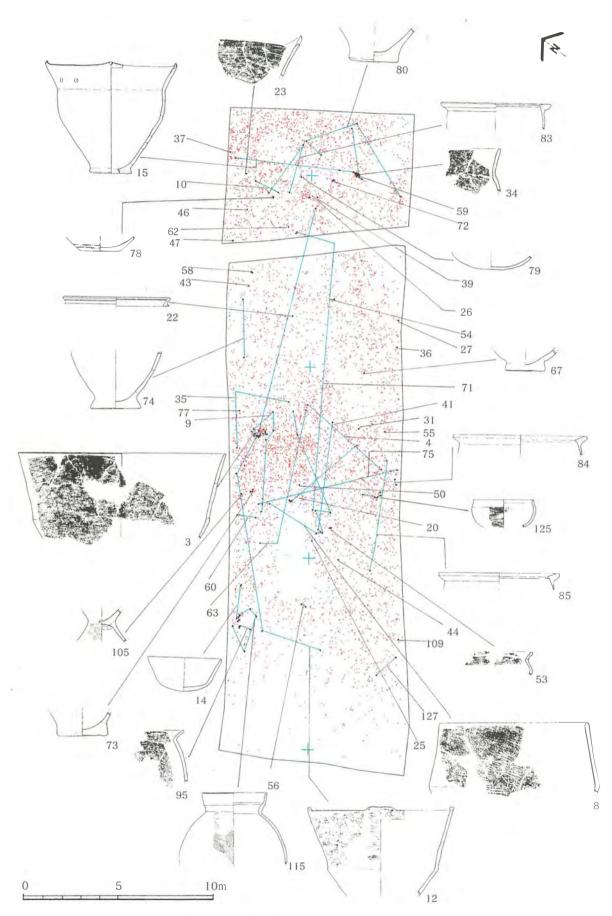
また、出土した石器の組成からは打製石斧が認められず、楔形石器や石核・剥片類が多い点は留意が必要であろう。 さらに、検出された黒耀石製の石核は、その表面に一部礫面を残す資料が多く、当該遺跡に持ち込まれた原石の形状を



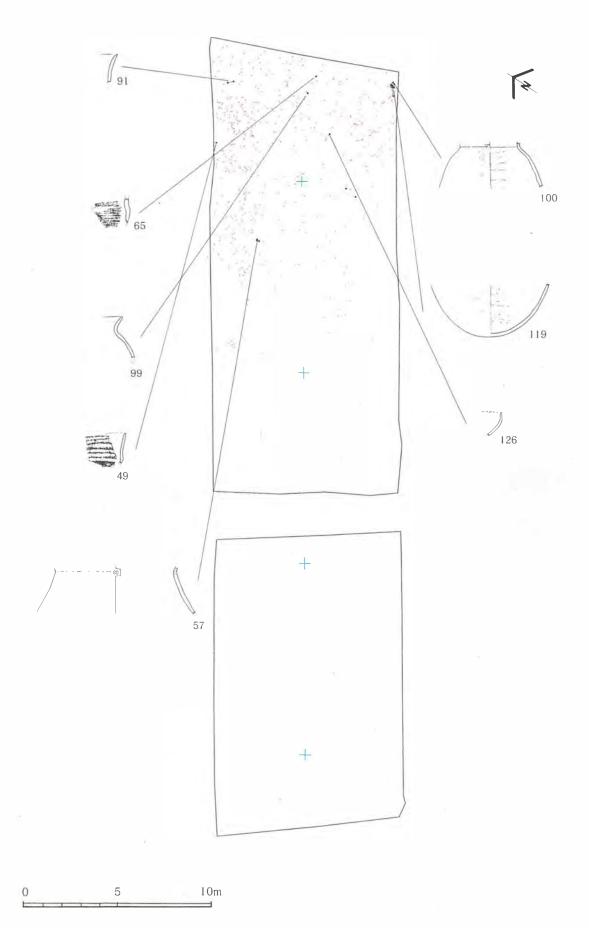
第4図 [・][区遺物分布図(土器・Ⅲ層)①



第5図 Ⅲ・Ⅳ区遺物分布図 (土器・Ⅲ層) ②



第6図 Ⅰ・Ⅱ区遺物分布図 (土器・Ⅳ・Ⅴ層) ①



第7図 Ⅲ·Ⅳ区遺物分布図 (土器·Ⅳ·Ⅴ層) ②

類推するのに十分な情報を与えるものである。原石の形状は円礫状を呈し、その大きさは拳大程度である。これらの原石を分割し、分割面を打面とし、剥離作業が行われている。中には、打面と剥離作業面を頻繁に転移するものもみられ、結果的に賽子状を呈する残核が残されている。このような剥離作業により生産された剥片の形状には画一性は認められないが、概して幅広の不定形剥片が生産されたものと考えられ、その中で石器製作に適した形状のものが選択的に利用されたものと考えられよう。

調査区から当該期構築された遺構等が確認されず、本来形成された遺跡の中心部とは考えにくく、むしろ縁辺部と考えられよう。そのため、この組成の在り方が遺跡の全容を表しているとは言えない。

また、遺跡の中心部は、調査区の東側にある平坦地に位置するものと考えられる。調査区南端においては、近年客土によって埋められている状況が確認された。このことから、当該地に幾分か存在した地形状の起伏を、押しならす状態で農地の基盤が整備されているものと考えられた。

当該遺跡においては、縄文時代晩期後半に所属する土器資料が大量に出土していることから、検出されている石器の大半は当該期に所属するものと考えられる。このように、高い比率で黒耀石を選択し利用され、器種組成の在り方はバラエティーに富みながら、やや偏りを示している。これらの資料の存在は、当該遺跡が「日東系」黒耀石との強い結びつきの中で、生活の場として利用されていたことを示すものであろう。また、この事実は当該地方における当該期の様相を検討する上で、重要な資料となろう。

掲載した資料については、第5表~第7表にグリッド、出土層位、器種、石材、長さ、幅、厚さ、重さ等詳細について 記載した。

3 まとめ

長野遺跡において検出された当該期の資料は、出土した全資料のなかで数量的に最も多い。その所属時期については、 出土した土器の観察から晩期前半~後半にかけての資料が主体を占めるものと考えられる。しかし、発掘調査において、 同時期の遺構等が検出されず、出土した土器についても接合による個体復元の割合が低い。このことは、調査区に残され た遺物の在り方を考える上で重要な示唆を与えるものと考えられよう。

つまり、遺跡全体のエリアの中での「場の機能」を推察する材料になるものといえ、当該調査区が東側から続く平坦面 の西側端に位置し、水俣川の現河道に近い位置に立地していることと併せて考えると、集落の主体部は東側に存在する可 能性が高く、廃棄の場としての機能が想定できようか。

また、出土した石器の組成からは打製石斧が認められず、楔形石器や石核・剥片類が多い点は留意

さらに、検出された黒耀石製の石核は、その表面に一部礫面を残す資料が多く、当該遺跡に持ち込まれた原石の形状を 類推するのに十分な情報を与えるものである。原石の形状は円礫状を呈し、その大きさは拳大程度である。これらの原石 を分割し、分割面を打面とし、剥離作業が行われている。中には、打面と剥離作業面が頻繁に転移するものもみられ、結 果的に賽子状を呈する残核が残されている。

【参考文献】

水俣市教育委員会 1990 『水俣市埋蔵文化財調査報告書』第1集

清田 純一 1998 「縄文後・晩期考―中九州の縄文後・晩期土器とその並行型式について―」『肥後考古』11

泉 拓良 1989 「西日本磨研土器様式」『縄文土器大観』第4巻

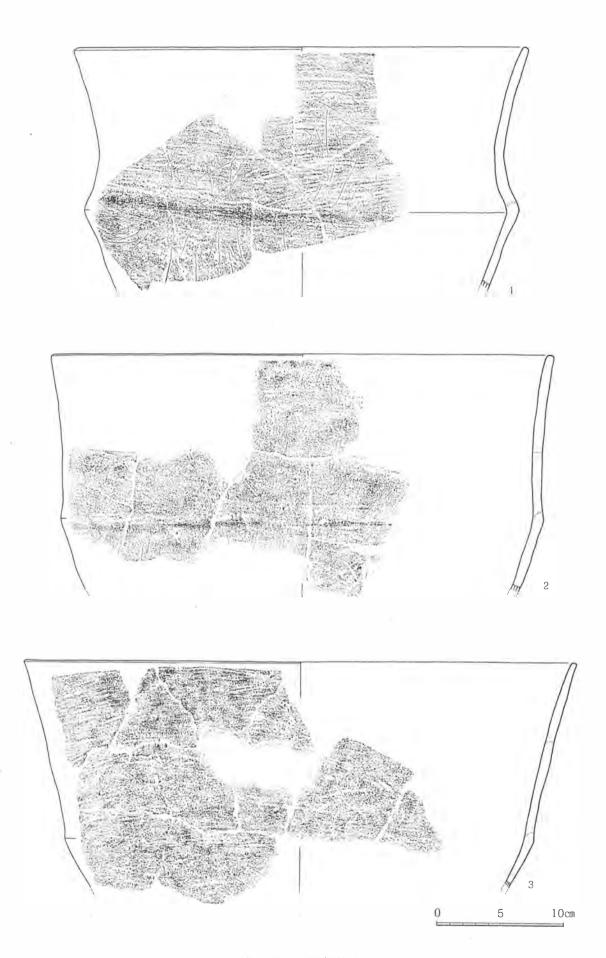
乙益 重隆 1965 「縄文文化の発展と地域性 九州西北部」『日本の考古学』第11巻

賀川 光夫 1965 「縄文文化の発展と地域性 九州東南部」『日本の考古学』第11巻

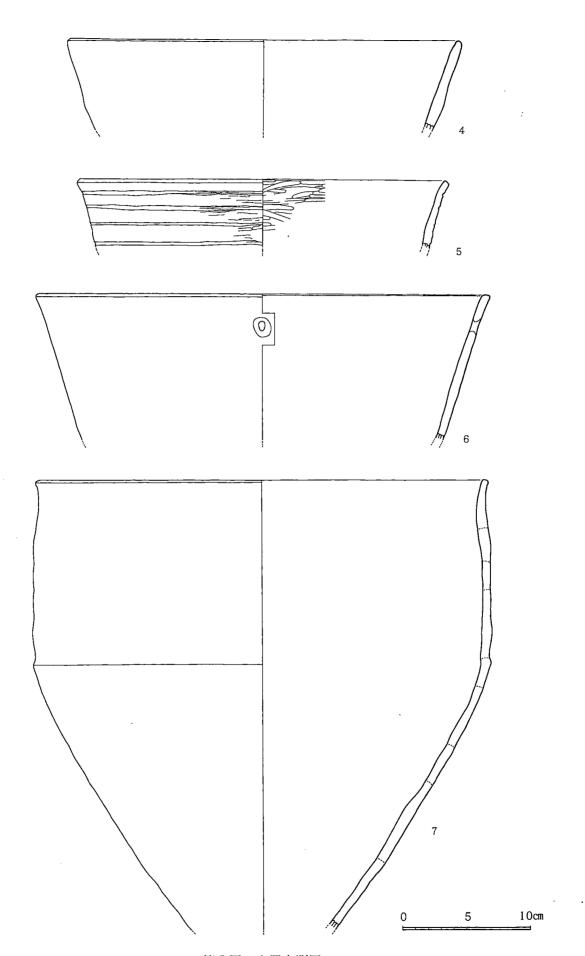
河口 貞徳 1952 「黒川洞窟発掘報告」『鹿児島県考古学会紀要』

島津 義昭 1989 「黒色磨研土器様式」『縄文土器大観』第4巻

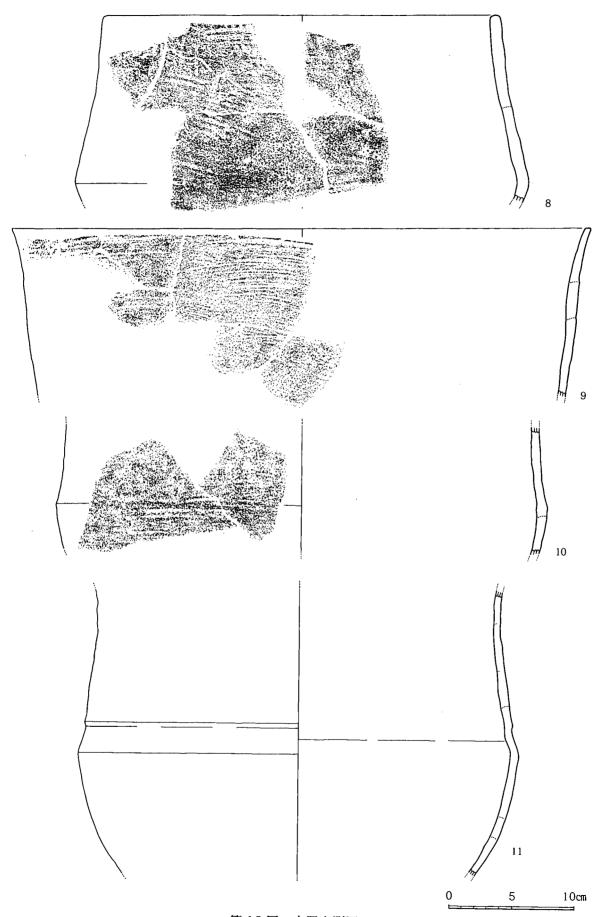
古森 政次 1994 『ワクド石遺跡』熊本県文化財調査報告第144集 熊本県教育委員会



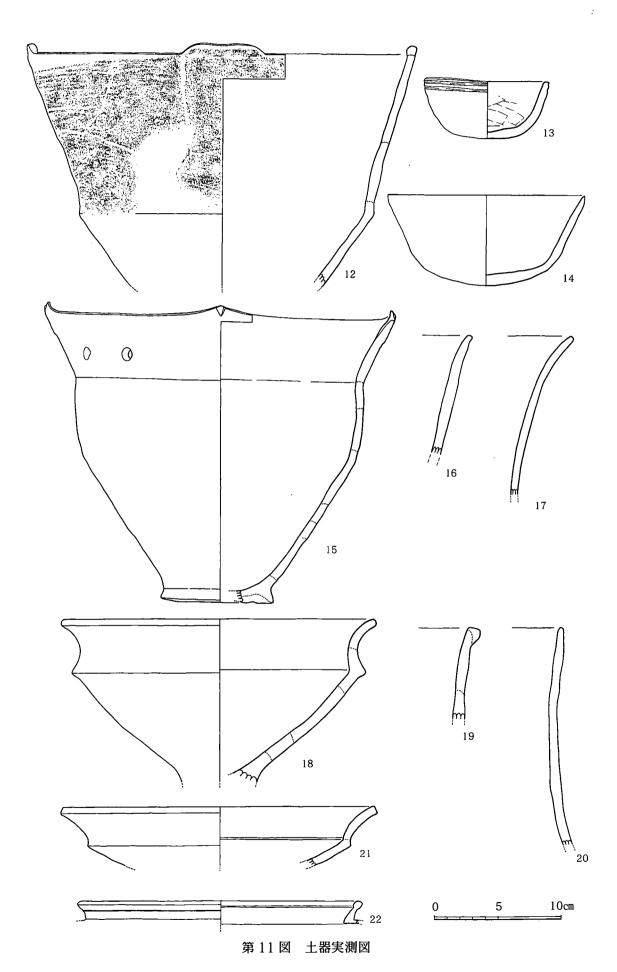
第8図 土器実測図

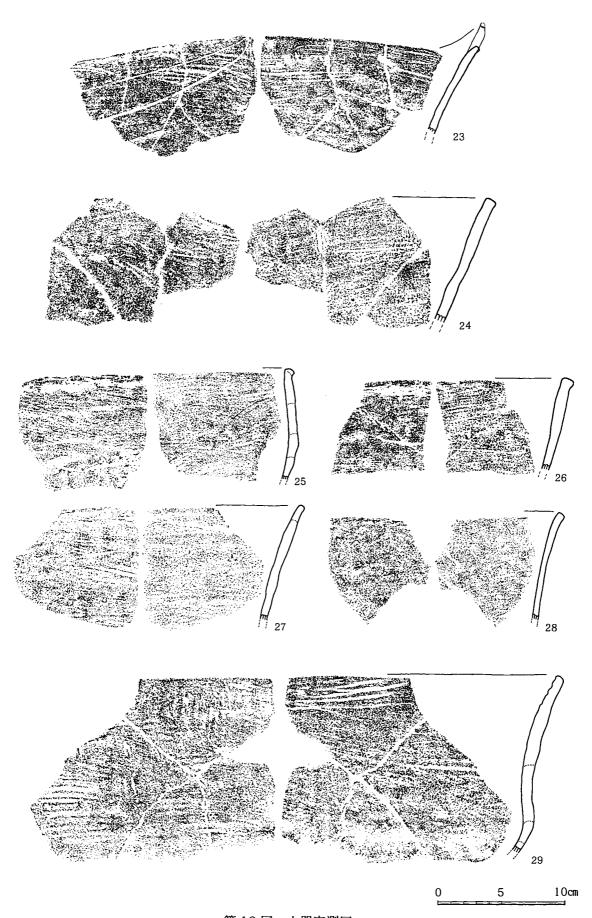


第9図 土器実測図

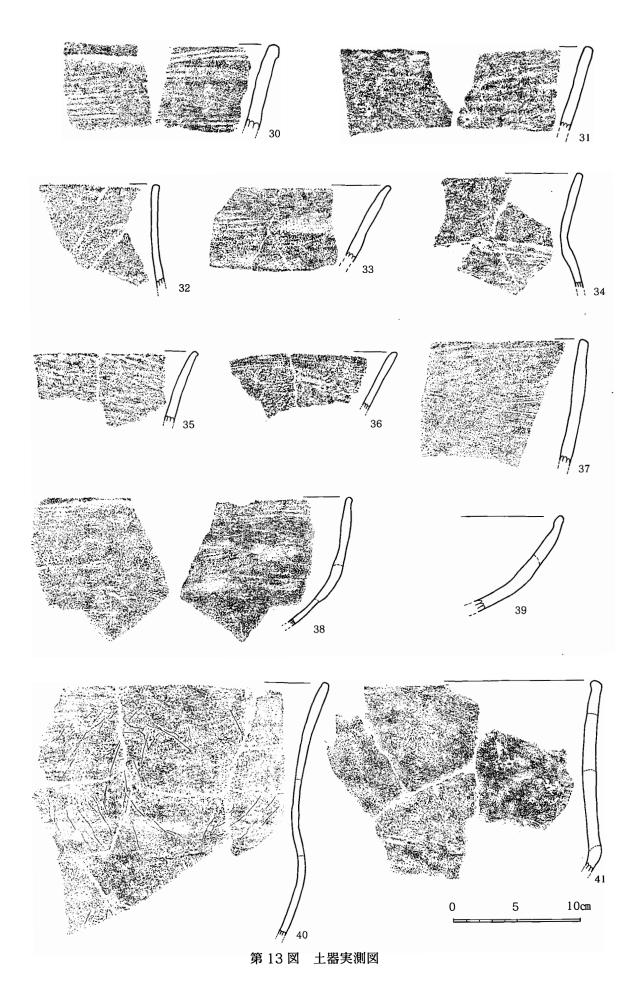


第10図 土器実測図

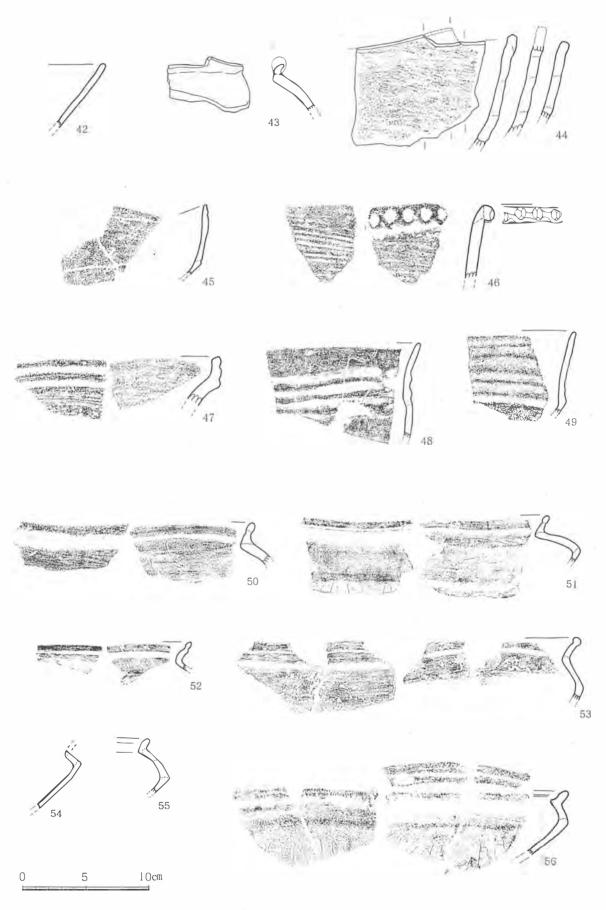




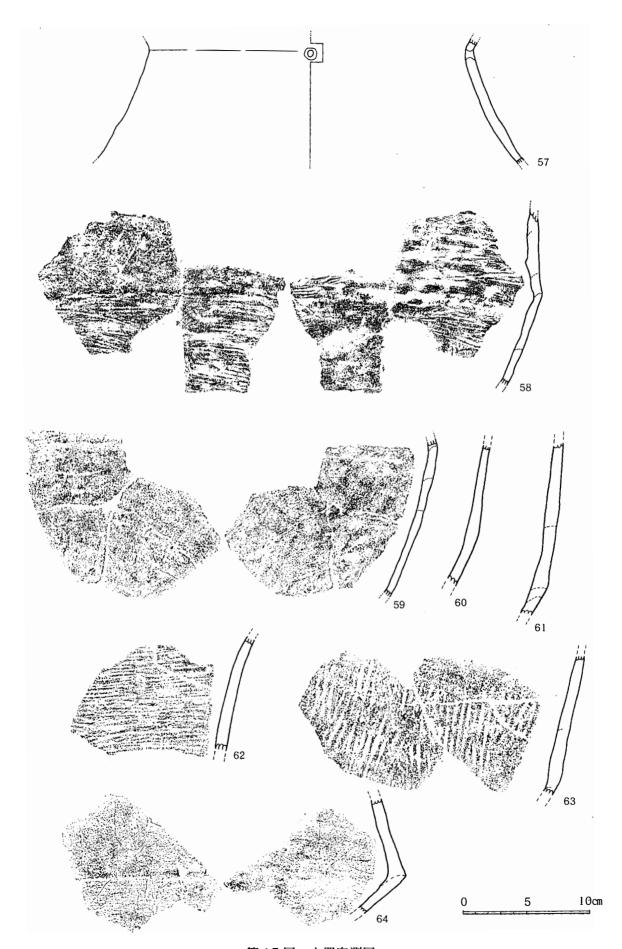
第12図 土器実測図



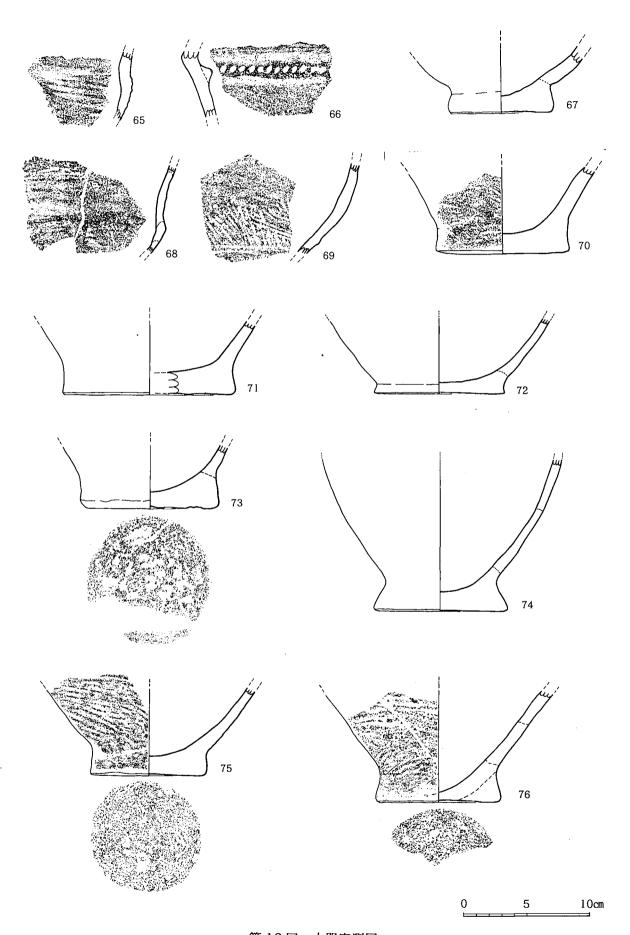
- 19 **-**



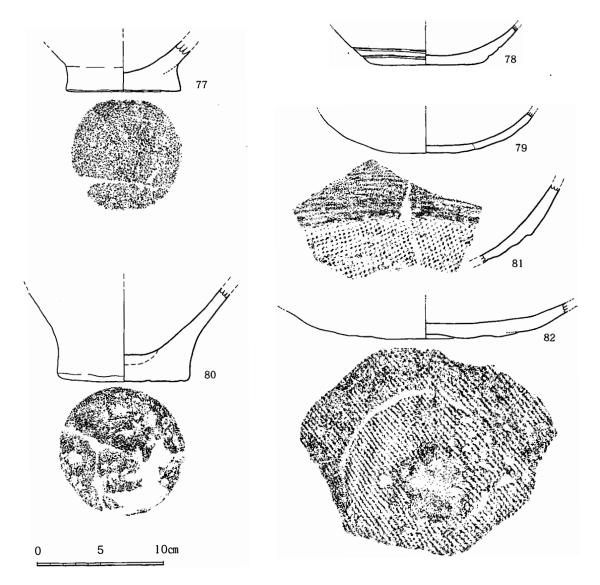
第14図 土器実測図



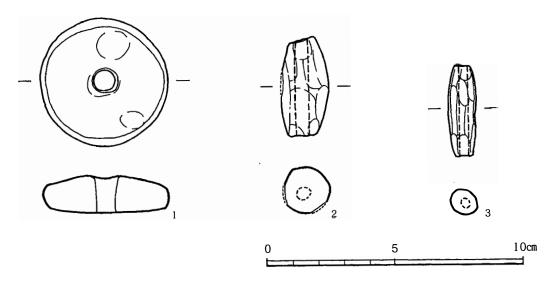
第15図 土器実測図



第16図 土器実測図



第17図 土器実測図



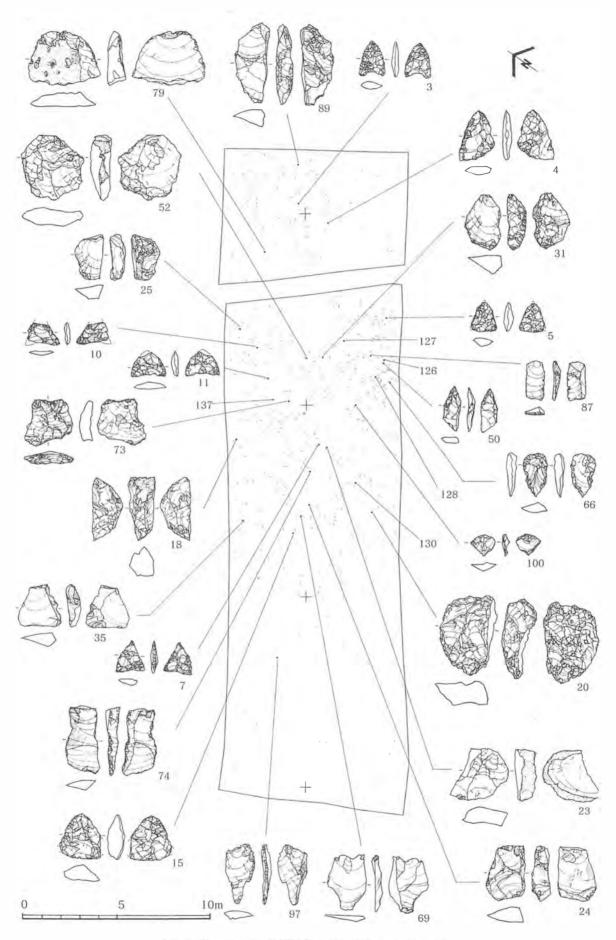
第18図 土錘実測図

図版	爼物	グリッド	層位	器租	部位	現存髙	口径	色源	4	胎土混入物	焼成	調整・文	*	伽考
番号	掛号					(cm)	(cm)	外面	内面			外面	内面	
ı	1	B-1	Ш	深躰	口縁部	(19.0)	(36.4)	橙色~褐色	にぶい褐色~褐灰色	角閃石・姇母・石英	普通	条痕後ナデ	条痕	内器面上部にスス付着
1	2	B-1·B-2	ш ⋅ №	深鉢	口穀部	(19.5)	(40.2)	にぶい黄橙色〜黄灰色	黄灰色	角閃石・微砂粒・砂粒	普通	条痕	条痕	
ı	3	C-2	IV	深鉢	口級部	(17.9)	(44.0)	明赤褐色~灰褐色	明赤褐色	角閃石・姇母・石英	普通	条痕後ナデ	条痕	内器面にスス付着
2	4	C-2	IV	深鉢	口級部	(7.2)	(31.4)	にぶい黄褐色~暗褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英・銀母・砂粒	普通	条痕後ナデ	ナデ	口唇部にスス付着
2	_	E-1(一括)		深鉢	口級部	(5.4)	(29.6)	褐色~黒褐色	にぶい黄褐色	望母・角閃石・砂粒	普通	ヘラミガキ後ナデ	ミガキ	
2	6	B-1	Ш	深鉢	口級部	(11.4)	(36.2)	にぶい黄褐色~暗灰褐色	にぶい褐色	石英・角閃石・砂粒・小石粒	普通	不明	不明	補修孔あり
2	7	C-1 · C-2	III • IV	深鉢	口縁部~閼部	(34.7)	(36.0)	明褐色・明赤褐色	明赤褐色・赤褐色	角閃石・石英・砂粒・小石粒	普通	条痕後ナデ	条痕後ナデ	外器面にスス付着
3	8	C-1-C-2	□ - Ⅳ	深鉢	口録部	(14.7)	(31.6)	にぶい黄橙色~にぶい黄褐色	にぶい黄根色~暗灰黄色	角閃石・石英・微砂粒	普通	条痕後ナデ		口唇部にスス付着
3		C-2	IV	深鉢	口級部	(13.3)	(46.0)	明赤褐色~明褐色	明赤褐色	角閃石・微砂粒・砂粒・小石粒	普通	条痕	条痕	
3	10	B-2	V	深鉢	胴部	(10.0)		オリーブ黒	橙色~灰褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	条痕	条痕	
3	11	H-1(一括)		深鉢	胴部	(22.6)		にぶい黄橙色・明黄褐色	にぶい橙色・にぶい黄橙色	石英・角閃石・砂粒	普通	ナデ	ナデ	
4	12	C-2	ш - №	深鉢	口録部~阴部	(18.9)	(31.2)	褐色	明黄褐色・暗灰黄色	角閃石・石英・砂粒	普通	条痕	条痕	内器面上部より外器面にススイ
4	13	B-1	Ш	鉢	口級部~底部	4.8	9.9	にぶい黄橙色~明赤褐色	灰褐色~灰黄褐色	雲母・角閃石・砂粒	普通	ナデ・上部に二条の細い沈線	ナデ	復元底径 5.6cm
4	14	D-1-D-2	□·I V	鉢	口級部~底部	(7.2)	(15.6)	浅黄橙色	浅黄橙色	角閃石・石英・玺母・砂粒	普通	不明	不明	底部外面に工具痕
4	15	A-1-A-2	IV	深鉢	口級部~底部	23.2	(28.0)	にぶい橙色・にぶい褐色	にぶい赤褐色・明赤褐色	石英·砂粒	普通	ナデ	ナデ	外器面上部・内器面下部にス
4	16	B-I		深鉢	口縁部	(9.4)		にぶい黄橙色~にぶい黄褐色	暗灰黄色	角閃石・石英・茶褐色粒	普通	条痕	不明	口唇部にスス付着
4	17	H-1(一括)		深鉢	口級部	(12.5)		にぶい黄橙色~にぶい黄褐色	明黄褐色~灰黄褐色	角閃石・石英・微砂粒	普通	ナデ	ナデ	内器面にスス付着
4	18	F-2	Ш	浅鉢	口縁部~辟部	(12.8)	(25.2)	黄灰色~にぶい黄褐色	にぶい黄檀色~黒褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	不明	不明	内器面にスス付着
4	19	B-1		深鉢	口級部	(7.3)		にぶい黄橙色~橙色	橙色	角閃石・石英・微砂粒・小石粒	普通	不明	不明	
4	20	C-2	IV	稗緊	口録部	(17.2)		明黄褐色~明褐色	橙色~明赤褐色	角閃石・石英・砂粒・小石粒	普通	不明	不明	外器面上部にスス付着
4	21	C-1 · C-2	ш ⋅ №	沒鉢	口録部	(4.8)	(25.2)	にぶい黄褐色~にぶい黄橙色	にぶい黄橙色~にぶい赤褐色	角閃石・石英・雲母・砂粒・小石粒	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
4	22	B-2	IV	沒躰	口級部	(1.8)	(22.8)	にぶい黄橙色~褐灰色	にぶい黄橙色~黄灰色	角閃石・石英・微砂粒・砂粒	普通	ミガキ	ミガキ	
5	23	A-2	IV	深鉢	口穀部	(8.6)		にぶい橙色~明赤褐色	にぶい黄橙色~にぶい黄色	石英・姇母・砂粒	普通	条痕後一部ナデ・二条の沈線	条痕後一部ナデ	波状口録
5	24	B-1	Ш	深鉢	口級部	(9.8)		にぶい橙色・にぶい黄橙色	暗灰黄色・黄灰色	角閃石・石英・砂粒・小石粒	普通	条痕後ナデ	条痕後ナデ	波状口録
5	25	C-1	IV	神祭 かんりょう かんりょう かんりょう かんりょう かんしょ しょう かんしょ しゅう かんしょ しゅう	口級部	(8.7)		にぶい黄橙色~にぶい黄褐色	黄褐色	角閃石・石英・姇母・微砂粒	普通	条痕	条痕	
5	26	B-2	IV	深鉢	口級部	(7.3)		明黄褐色~にぶい黄褐色	にぶい黄褐色〜明褐色	角閃石・石英・銀母・砂粒・小石粒	普通	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
5	27	B-1	IV	深鉢	口級部	(9.1)		にぶい黄橙色~明赤褐色	橙色	角閃石・石英・茶褐色粒・小石粒	普通	条痕	条痕	
5	28	H-1 一括		深鉢	口録部	(8.5)		にぶい黄橙色	灰黄褐色~明黄褐色	角閃石・石英・銀母・赤褐色粒・微砂粒	普通	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
5	29	B-1	Ш	深鉢	口録部~뗅部	(14.2)		明赤褐色・にぶい黄褐色	暗灰黄色・灰黄褐色	角閃石・石英・砂粒・小石粒	普通	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
6	30	B-1	Ш	禅幹	口級部	(6.8)		橙色~にぶい黄褐色	橙色~褐灰色	角閃石・石英・姇母・微砂粒・砂粒	普通	条痕	条痕	
6	31	C-1	IV	深鉢	口録部	(6.7)		にぶい黄褐色~にぶい褐色	黄灰色~暗灰黄色	角閃石・石英・微砂粒・小石粒	普通	不明	不明	
6	32	B-I	Ш	深鉢	口級部	(8.2)		にぶい黄褐色~黒褐色	黄灰色~にぶい黄橙色	角閃石・石英・微砂粒・砂粒	普通	不明	不明	外器面にスス付着
6	33	田区	II(一括)	不明	口級部	(6.1)		にぶい黄橙色〜明褐色	にぶい黄橙色~明褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	条痕	不明	外器面にスス付着
6	34	A-1	IV	深鉢	口級部	(9.1)		黒褐色	橙色~にぶい褐色	角閃石・石英・微砂粒・砂粒	普通	条痕	不明	
6	35	C-2	IV	深鉢	口級部	(5.7)		黒褐色	明褐色~褐色	角閃石・姇母・石英・赤褐色砂粒	普通	条痕後ナデ	ナデ	
6	36	B-1	ш	鉢	口級部	(4.7)		にぶい褐色~黒褐色	にぶい黄褐色~灰黄褐色	角関石・石英・銀母	普通	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
6	37	A-2	IV	深鉢	口録部	(10.1)		にぶい黄橙色~にぶい黄褐色	灰黄褐色	角閃石・姇母・石英	普通	条痕後ナデ	ナデ	口唇部にスス付着
6	38	B-1	ш	不明	口録部	(10.1)		橙色~にぶい黄褐色	明褐色~にぶい黄褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	条痕・ナデ	条痕・ナデ	
6	39	B-I	IV	鉢	口級部	(7.5)		にぶい黄褐色~褐灰色	黄褐色~黄灰色	角閃石・石英・微砂粒・砂粒	普通	不明	不明	
6	40	H-1(一括)		深鉢	口縁部~胴部	(20.0)		にぶい黄橙色~暗灰黄色	橙色~にぶい黄橙色	角閃石・茲母・石英・赤褐色砂粒・微砂粒	普通	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
6	41	C-1	Ш	深鉢	口線部	(15.2)		明赤褐色~にぶい褐色	黄褐色~黄灰色	角閃石・石英・微砂粒・小石粒	普通	不明	条痕後ナデ	内器面にスス付剤
7	42	D-1	ピット 25	不明	口鞣部	(5.0)		灰黄褐色	灰黄褐色	角閃石・石英・狐母・微砂粒	普通	不明	不明	
7	43	B-2	IV	鉢	口録部	(4.4)		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	角閃石・石英・赤褐色砂粒・微砂粒	普通	ナデ	ナデ	
7	44	C-1	IV	不明	口縁部・	(8.6)		灰黄褐色・褐色	褐色・暗褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	条痕後ナア	条痕	
7	45	B-1	Ш	不明	口級部	(5.5)		橙色	黄褐色	雲母・石英・砂粒	普通	ナデ・細い二条の沈線	ナデ	
7	46	B-2	IV	深鉢	口級部	(5.8)		にぶい黄橙色~にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	角閃石・石英・赤褐色砂粒・微砂粒・砂粒	普通	口唇部に外側から押捺文	条痕後ナデ	
7	47	B-2	V	鉢	口級部	(3.8)		にぶい黄褐色~明赤褐色	にぶい黄褐色〜明赤褐色	石英・角閃石・微砂粒・砂粒	普通	ヨコナテ	ヨコナデ	内閣面下部に黒斑
7	48	F-1(一括)	IV	浅鉢	口録部	(7.5)		にぶい黄褐色~黄灰色	にぶい黄色~にぶい黄橙色	角閃石・雲母・石英・微砂粒・砂粒	普通	ミガキ	不明	外器面に上部にスス付着
7	49	E-2	IV	鉢	口粶部	(6.4)		にぶい黄橙色~橙色	橙色~にぶい黄褐色	石英・奴母・微砂粒・砂粒	普通	不明	不明	
7	50	C-2	N	浅鉢	口縁部	(3.3)		明赤褐色~赤褐色	灰黄褐色	角閃石・金銀母・石英・微砂粒・砂粒	普通	ミガキ	ミガキ・細い汁は	象 外器面にスス付着

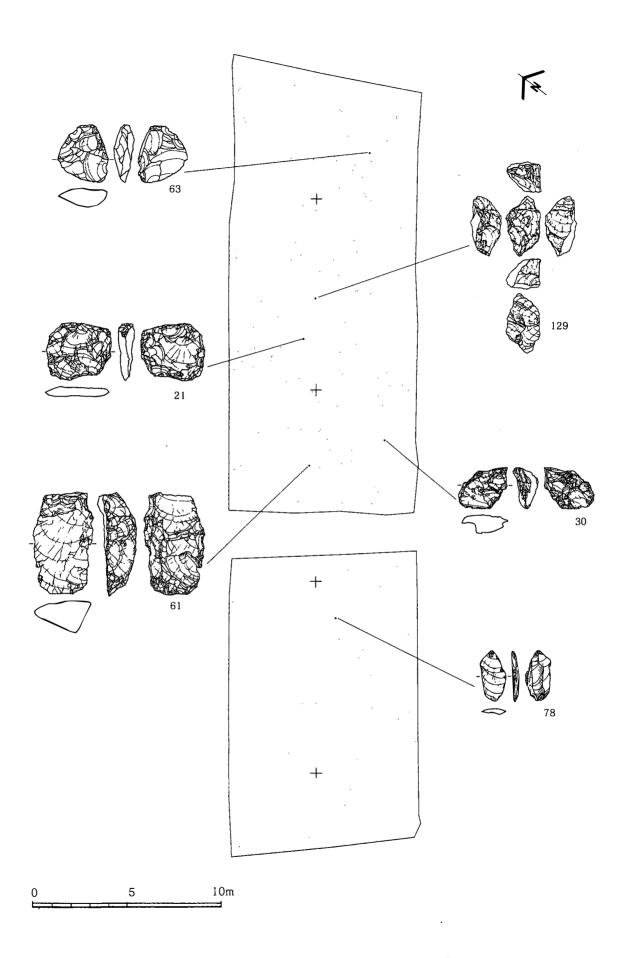
- 24 -

第4表 土器観察表(2)

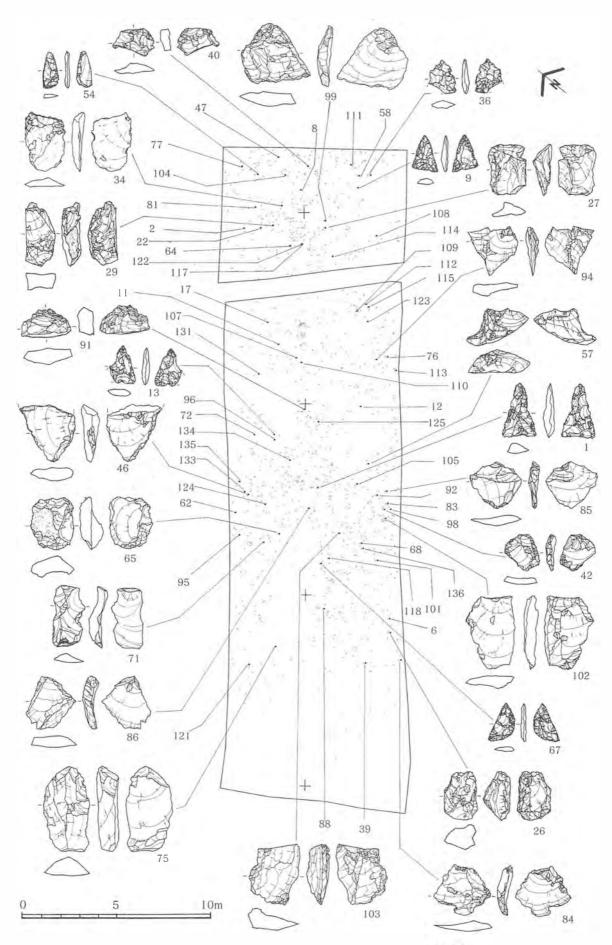
図版	迫物	グリッド	周位	器植	部位	現存高	口径	色源	1	胎土混入物	焼成	調整・	文楼	備考
番号	番号	Í				(cm)	(cm)	外面	内面			外面	内面	Ne -3
7	51	D-I	Ⅳ(一括)	没鉢	口穀部	(3.6)		にぶい黄橙色~褐灰色	灰黄褐色~褐灰色	角閃石·雲母·石英·赤褐色砂粒·微砂粒	普通	ミガキ・一条の細い沈線	ミガキ・ヨコナデ・細い一条の沈鏡	
7	52	F-1	Ш	没鉢	口録部	(2.3)		暗灰黄色~黄灰色	黄灰色	角閃石・石英・砂粒	普通	不明・一条の沈線	不明	
7	53	C-1	IV	没鉢	口穀部	(5.0)		にぶい赤褐色~赤褐色	にぶい赤褐色	角閃石 赤褐色粒 砂粒	良	ミガキ・一条の沈線	ミガキ	
7	54	B-1	IV	沒鉢	胴部	(4.7)		暗灰黄色~にぶい黄橙色	黄灰色~暗灰黄色	角閃石・石英・銀母・微砂粒	良	ミガキ・ナデ	ミガキ	外器面中央にスス付着
7	55	C-1	IV	浅鉢	口穀部	(4.4)		浅黄色~暗灰黄色	浅黄色~黑褐色	角閃石・雲母・石英・微砂粒・砂粒	普通	ヨコナテ	ヨコナテ	7月間面 17人に 70人174
7	56	D-2	IV	浅鉢	口穀部	(5.2)		浅黄色	灰黄褐色~黑褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	ミガキ	ミガキ	
8	57	F-2	IV	深鉢	胴部	(9.9)		褐色~赤褐色	褐色~赤褐色	角閃石・石英・茶褐色粒・砂粒・小石粒	普通	不明	不明	補修孔あり
8	58	B-2	IV	深鉢	關部	(14.1)		橙色~にぶい黄褐色	橙色~にぶい褐色	角関石・雲母・微砂粒・砂粒	普通	ナデ・条痕	条復後ナア・ナア	111197009
8	59	A-1	IV	深鉢	胴部	(12.6)		明赤褐色~にぶい赤褐色	褐色~明赤褐色	角閃石・石英・茶褐色粒・砂粒	普通	不明	不明	
8	60	B-1 · C-2	ш - №	深鉢	胸部	(11.3)		にぶい黄橙色・にぶい黄褐色	黄褐色・にぶい黄橙色	石英・砂粒・小石粒	普通	不明		外器面にスス付着
8	61	B-1	Ш	深鉢	關部	(13.7)		にぶい黄橙色・明黄褐色	暗灰黄色·黄褐色	石英・砂粒	普通	工具ナテ	エ具ナデ	71 mm(c)(7)(17)
8	62	B-2	IV	深鉢	脚部	(9.0)		にぶい黄褐色~橙色	橙色	角閃石・石英・雲母・微砂粒・砂粒・小石粒	普通	条痕		外器面下部にスス付着
8	63	C-2	IV	深鉢	胸部	(11.0)		にぶい黄橙色・にぶい褐色	にぶい黄橙色・黄褐色	石英・砂粒・小石粒	普通	条痕	工具ナデ	7 E E I E E C C I E
8	64	B-2	Ш	鉢	胴部	(9.2)		橙色・にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	条痕後ナデ	ナデ	
9	65	E-1	IV	深鉢	胴部	(5.5)		橙色・によい橙色	にぶい橙色・橙色	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒・砂粒	普通	条痕後ナデ	不明	
9	66	G-1	0	鉢	胴部	(5.3)		灰褐色~灰黄褐色	にぶい黄橙色~橙色	角閃石・石英・赤褐色粒・砂粒	普通	ナデ	ナデ	貼り付け突帯に刻み目
9	67	C-1	IV	深鉢	底部	(5.2)		橙色~にぶい黄褐色	黒 褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	不明		底部完存・離れ砂圧痕・底径 8.4cm
9	68	B-I	Ш	深鉢	胸部	(6.9)		明黄褐色~にぶい褐色	にぶい黄橙色~灰黄褐色	角関石・石英・雲母	普通	ナデ	条痕後ナデ	ELIPSON RECOVER EXECUTED
9	69	B-2	III	深鉢	胴部	(7.2)		にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	ナア・条痕後ナア	ナテ	
9	70	II IX	□~ I V	深鉢	底部	(6.7)		橙色~明黄褐色	橙色~明黄褐色	角閃石・赤褐色粒・雲母・石英・砂粒	普通	条痕	ナデ	底部完存・底径 10.6cm
9	71	B-2-C-1	N· A	深鉢	底部	(5.8)		橙色~赤褐色	橙色~赤褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	ナデ		底部離れ砂圧痕・復元底径 13.8cm
9	72	B-1	V	深鉢	底部	(6.0)		橙色~にぶい橙色	にぶい黄橙色	角閃石・石英・砂粒	普通	不明		底部完存・離れ砂圧痕・底径 10 4cm
9	73	C-2	IV	深鉢	底部	(5.1)		にぶい褐色〜明赤褐色	明赤褐色	角閃石・石英・微砂粒・砂粒・小石粒	普通	不明	不明	底部圧痕・復元底径 11.0cm
9	74	B-1·B-2	ш ⋅ №	深鉢	底部	(12.0)		灰黄褐色~橙色	にぶい黄橙色~明褐色	角閃石・石英・微砂粒・砂粒	普通	不明		底部完存·底径 10.7cm
9	75	C-1-C-2	IV	深鉢	底部	(7.0)		明赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英・赤褐色粒・砂粒・小石粒	普通	条痕	ナテ	底部完存・離れ砂圧痕・底径 9.4cm
9	76	C-1	Ш	深鉢	底部	(8.8)		明赤褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英・砂粒・小石粒	普通	条痕後ナデ	ナデ	離れ砂圧痕・復元底径 10.0cm
10	77	C-2	ш - №	深鉢	底部	(4.0)		明赤褐色~灰黄褐色	にぶい黄褐色〜黒褐色	角閃石・石英・赤褐色粒・砂粒	普通	条痕		底部完存・離れ砂圧痕・底径 9.1cm
10	78	B-2	IV	深鉢	底部	(3.2)		にぶい黄橙色~明赤褐色	にぶい黄橙色	角閃石・石英・雲母・赤褐色粒	普通	不明・細い二条の沈線		復元底径 9.1cm
10	79		IV	不明	底部	(3.2)		橙色・にぷい黄褐色	灰黄褐色・褐灰色	石英・砂粒	普通	ナデ		復元底径 5.5cm
10	80	A-1-A-2	IV	深鉢	底部	(7.3)		橙色	褐灰 色~黑褐色	角閃石・石英・微砂粒・砂粒	普通	不明	不明	陸れ砂圧痕・復元底径 10.2cm
10	81	B-1	Ш	不明	底部	(6.1)		明赤褐色~にぶい黄褐色	明赤褐色	角閃石・石英・砂粒・小石粒	良	条痕・織物状圧痕		外器面にスス付着
10	82	B-1	Ш	不明	底部	(2.8)		橙色	灰黄褐色·黑褐色	角閃石・石英・砂粒	普通	植物状圧痕		復元底径 7.4㎝・内器面にスス付着



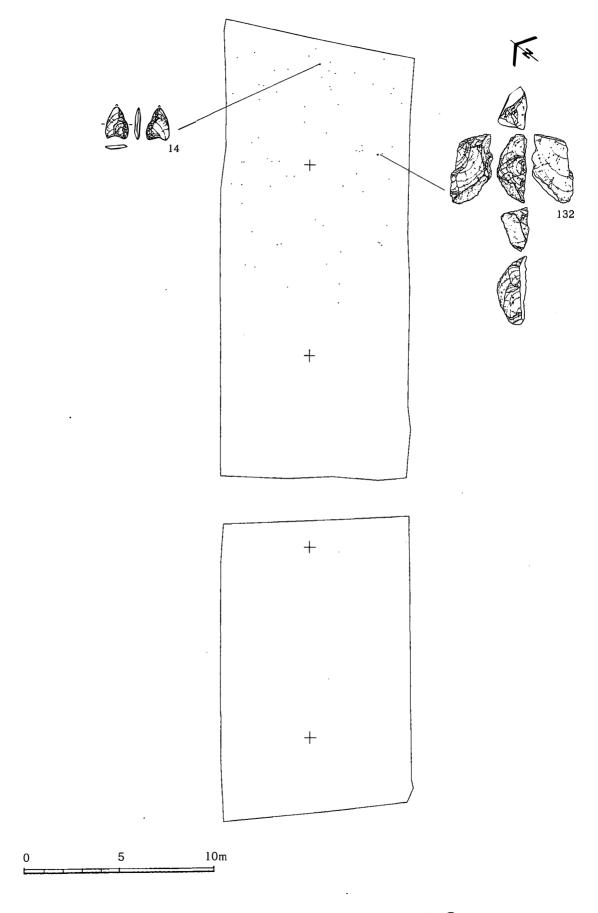
第19図 1・廿区遺物分布図(石器・Ⅲ層)①



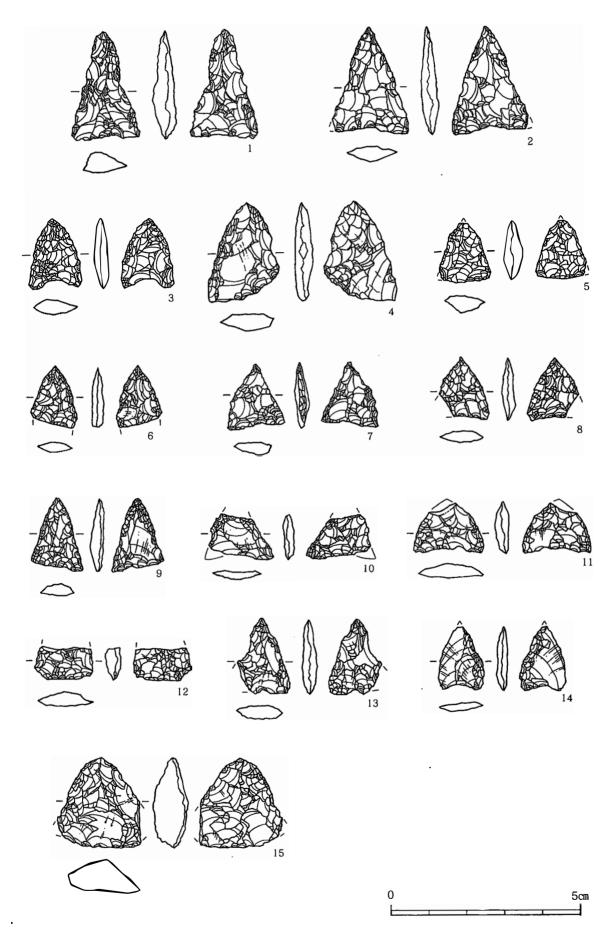
第20図 Ⅲ・Ⅳ区遺物分布図 (石器・Ⅲ層) ②



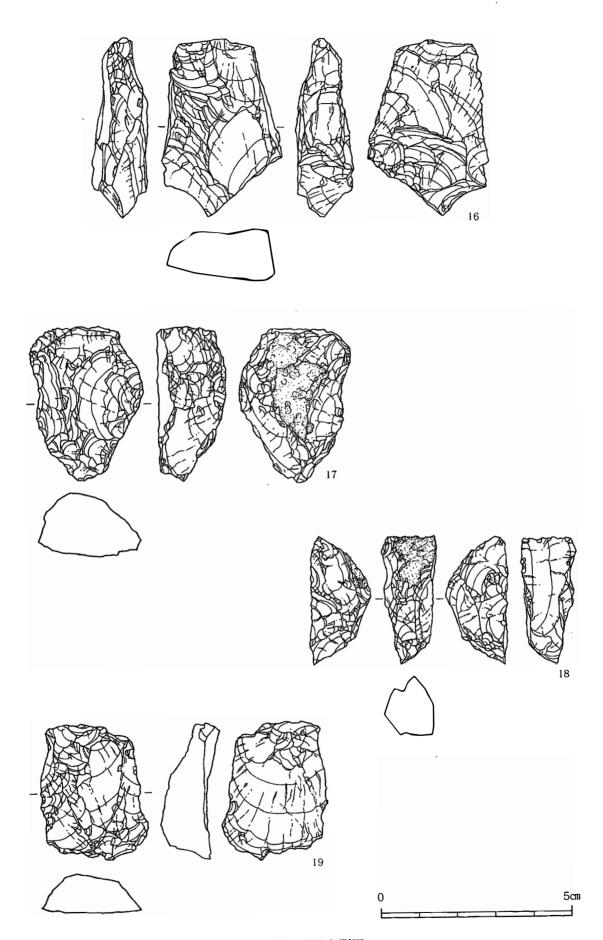
第21図 I·II区遺物分布図 (石器·IV·V層) ①



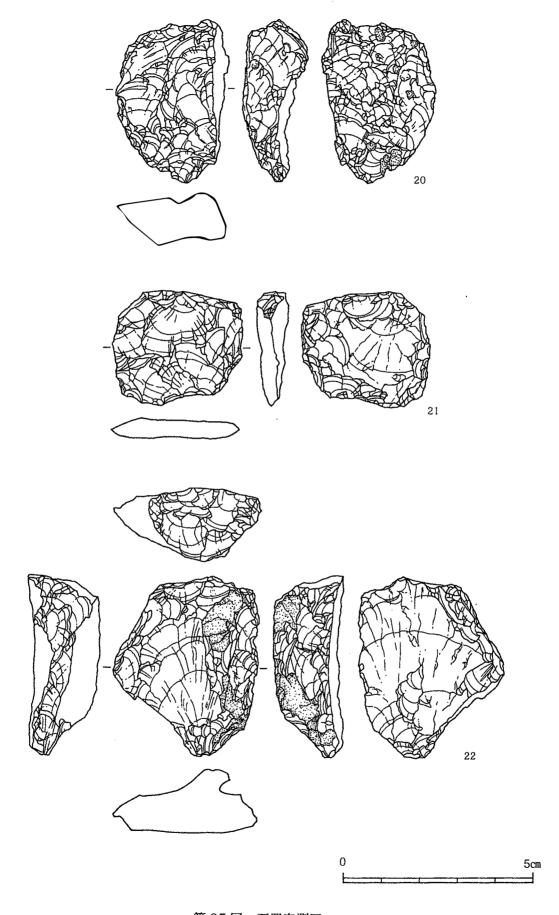
第 22 図 Ⅲ·IV区遺物分布図(石器·IV·V層)②



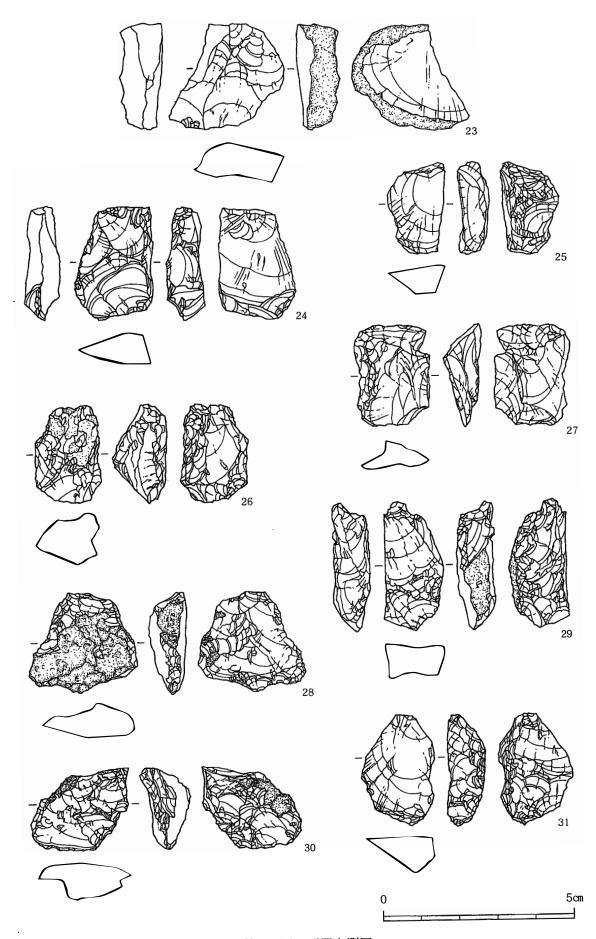
第23図 石器実測図



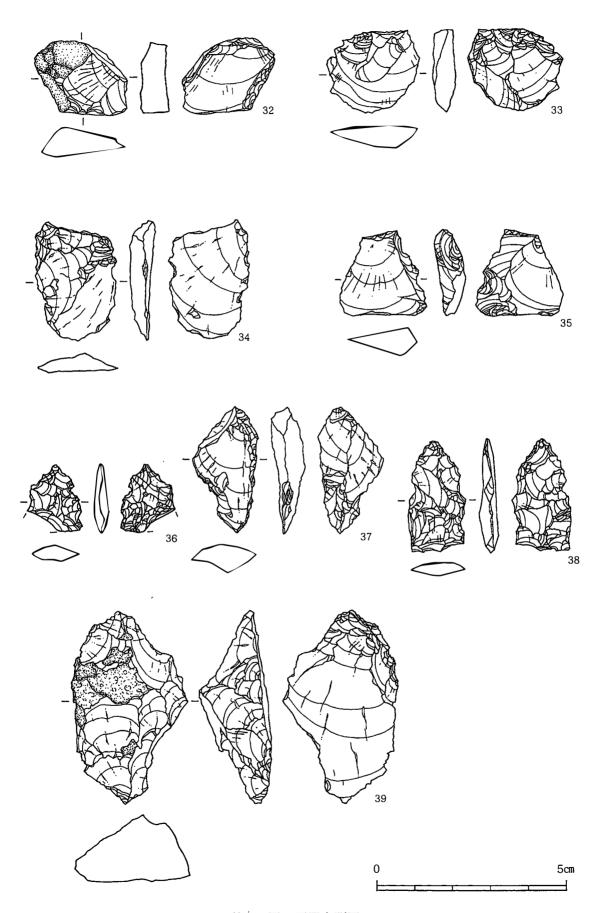
第24図 石器実測図



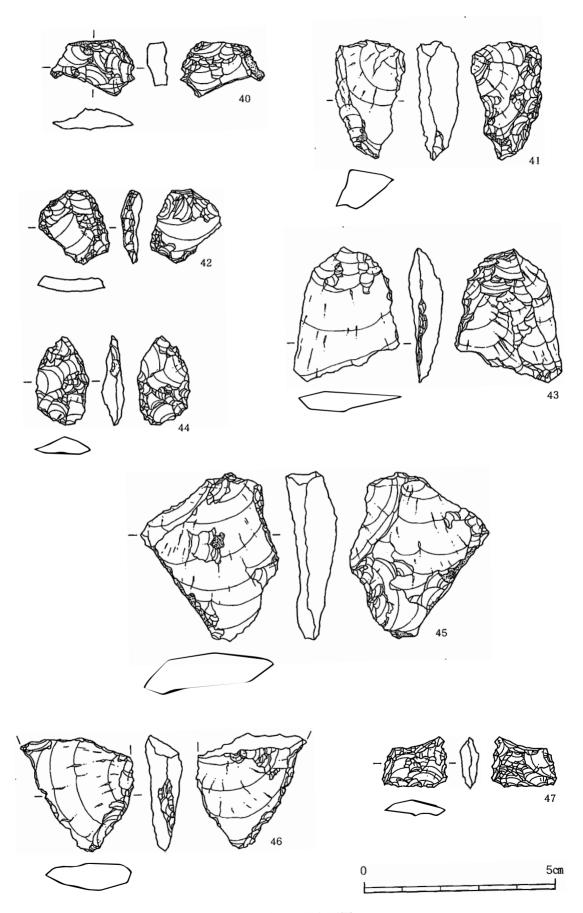
第25図 石器実測図



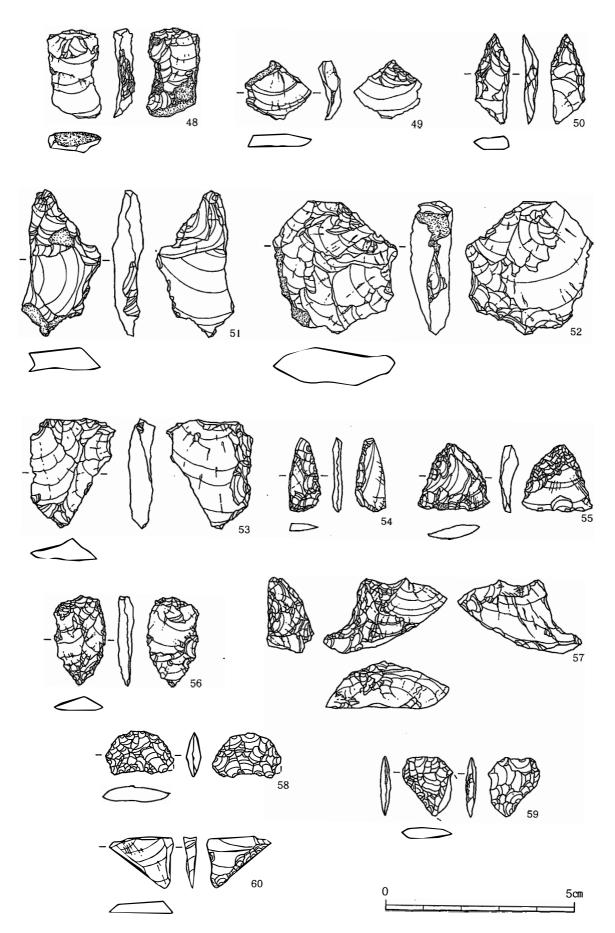
第26図 石器実測図



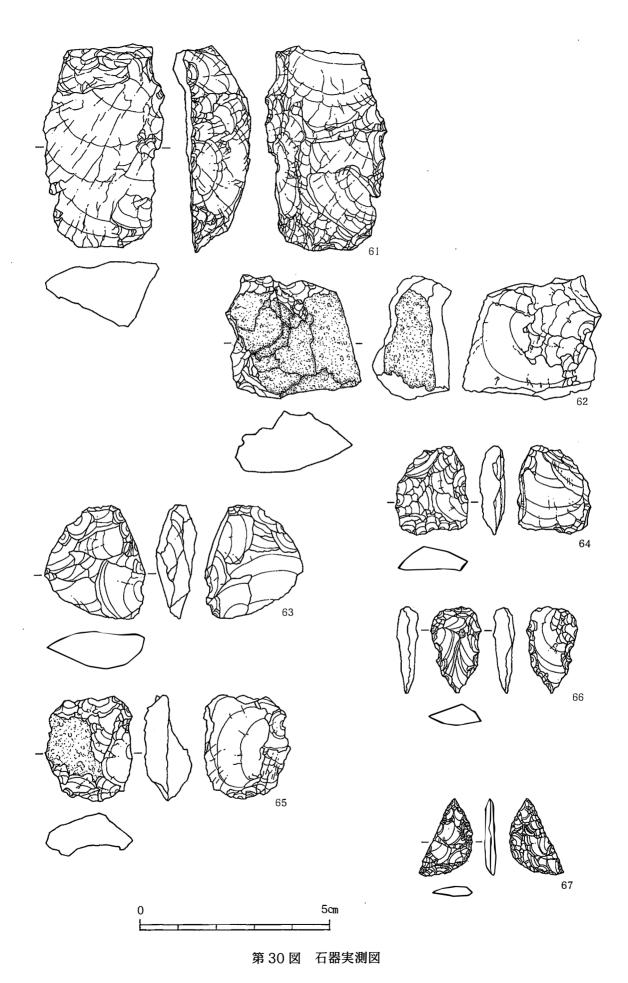
第27図 石器実測図



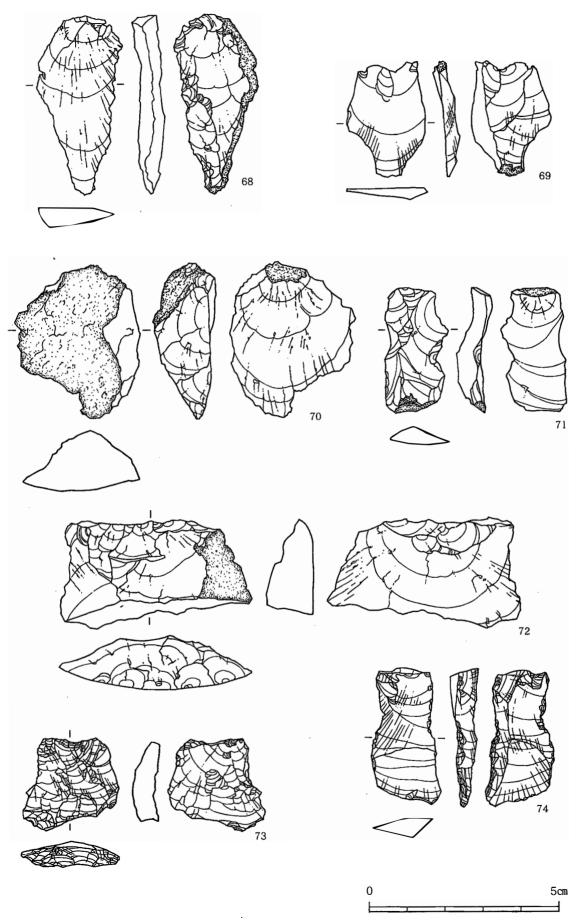
第28図 石器実測図



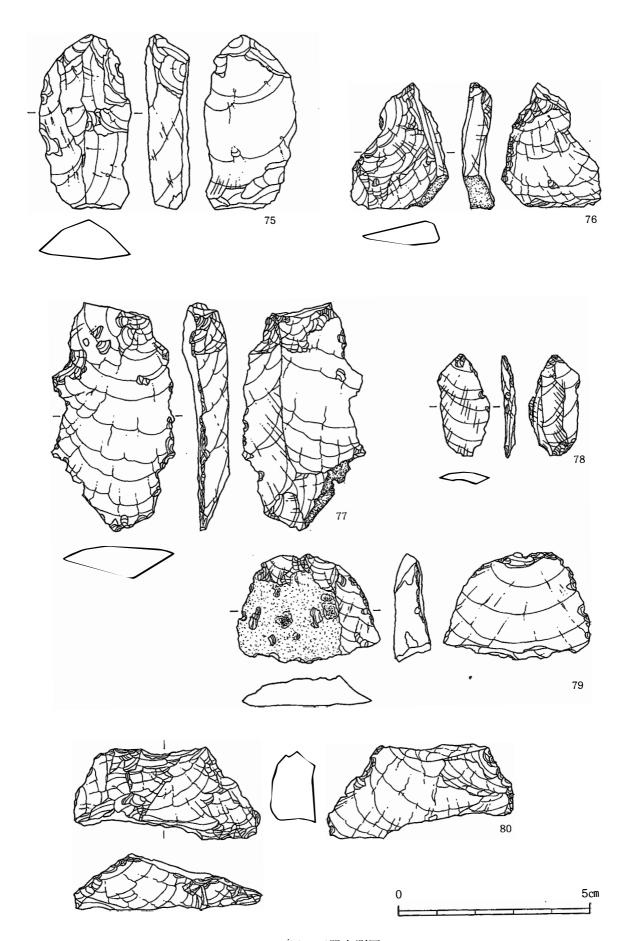
第29図 石器実測図



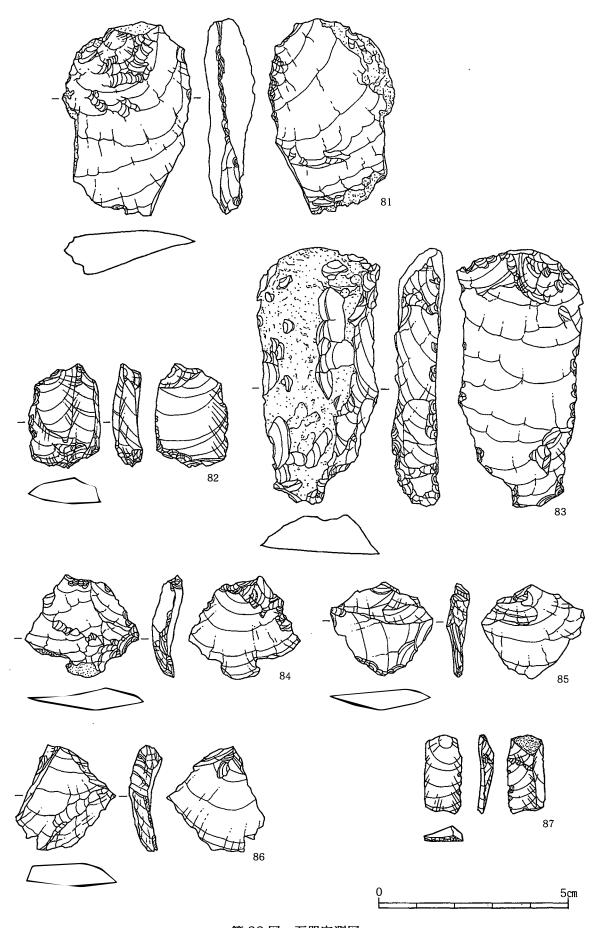
- 37 -



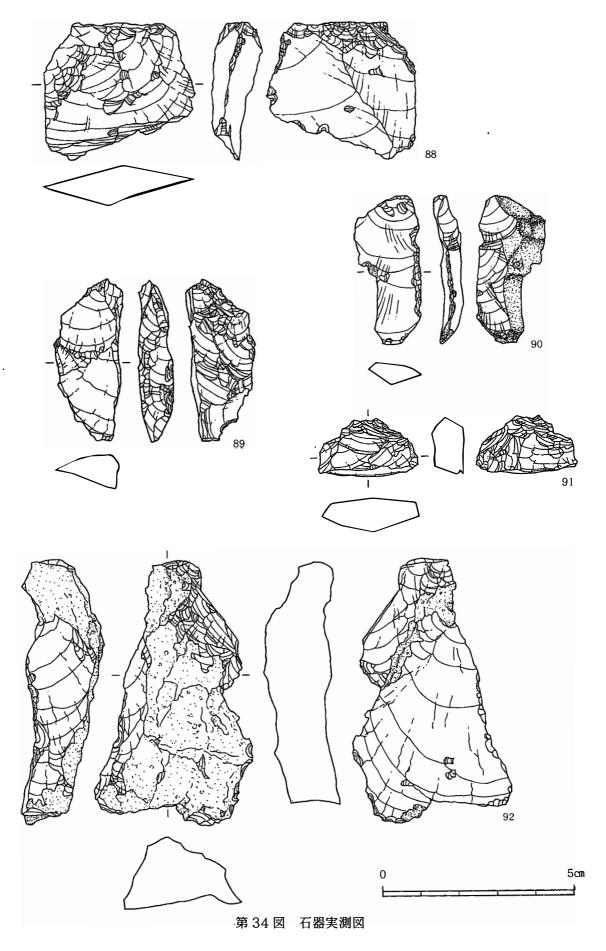
第31図 石器実測図

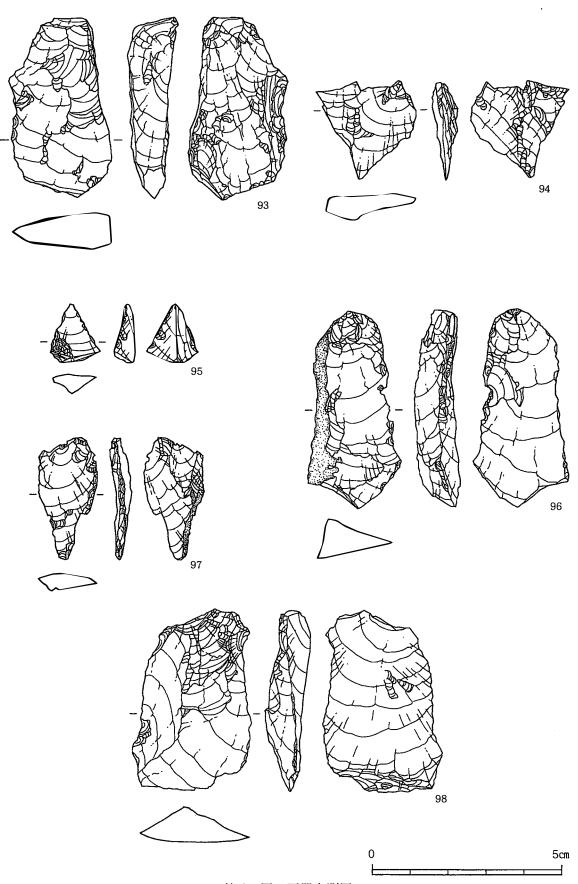


第32図 石器実測図

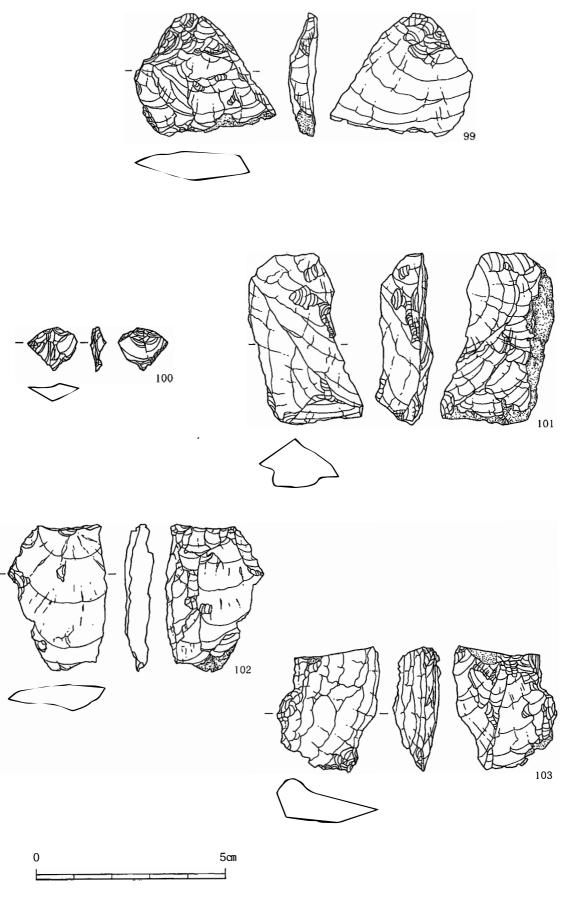


第33図 石器実測図

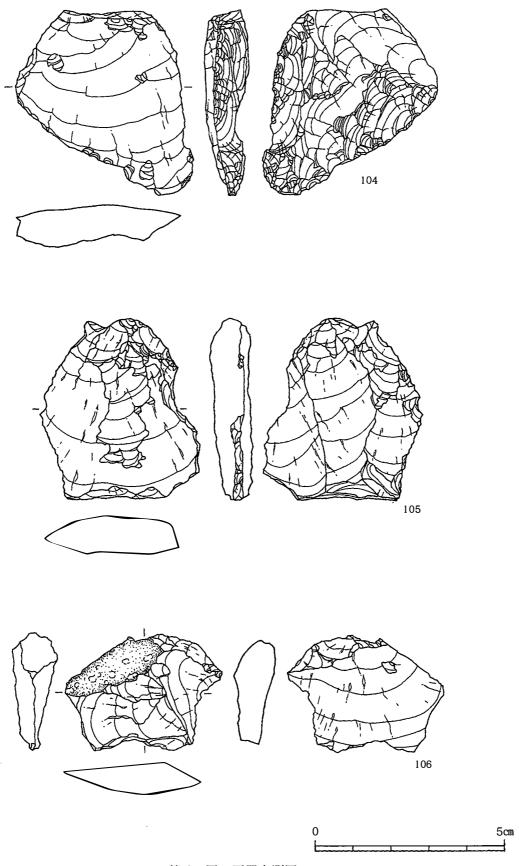




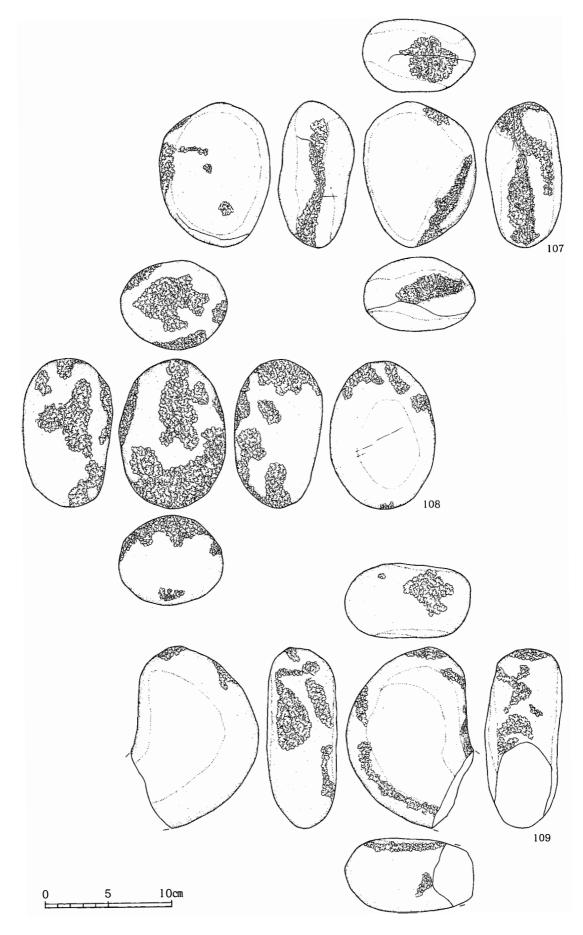
第35図 石器実測図



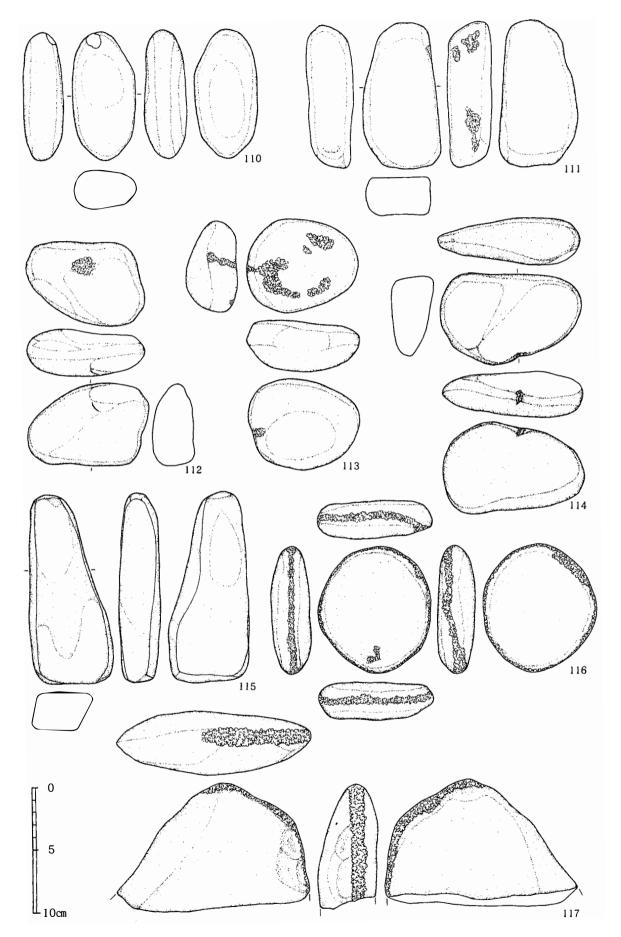
第36図 石器実測図



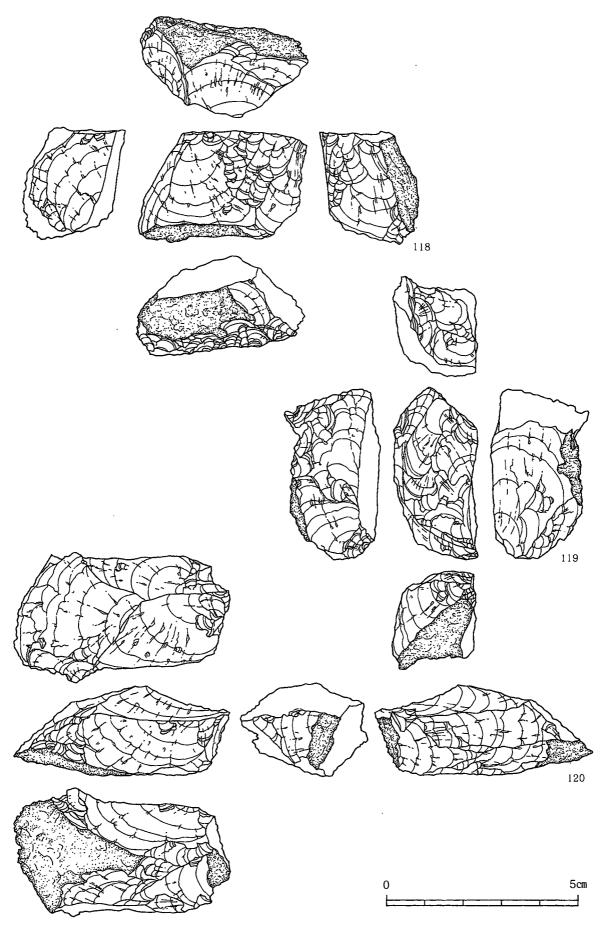
第37図 石器実測図



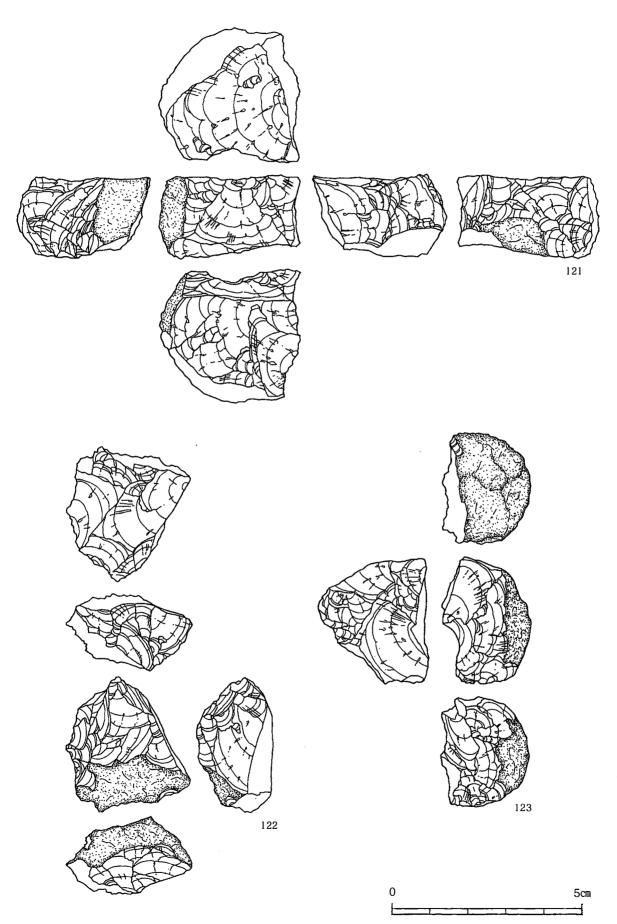
第38図 石器実測図



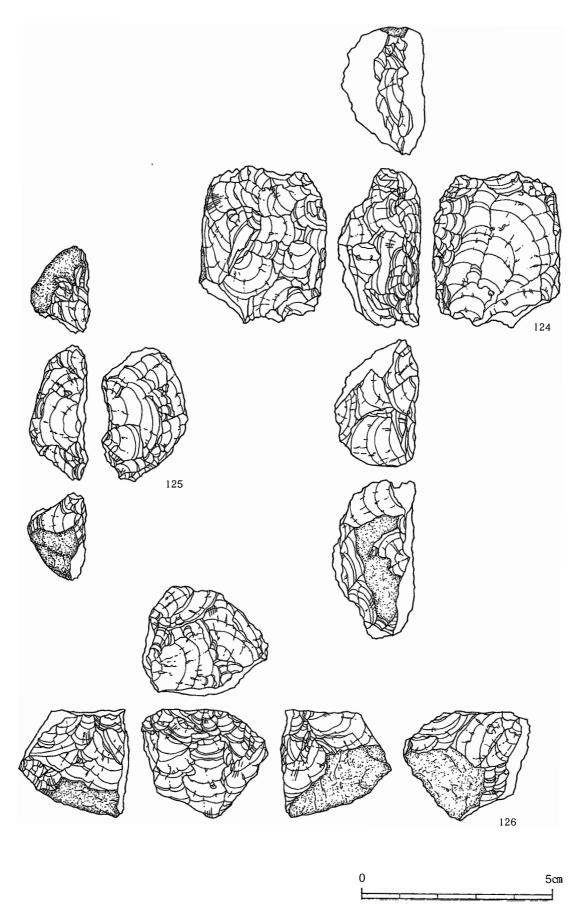
第39図 石器実測図



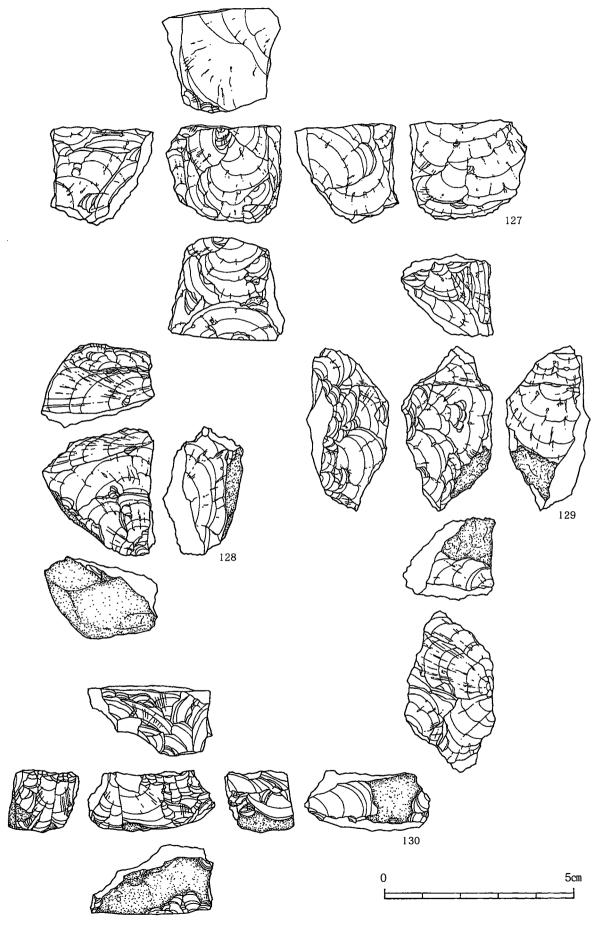
第 40 図 石器実測図



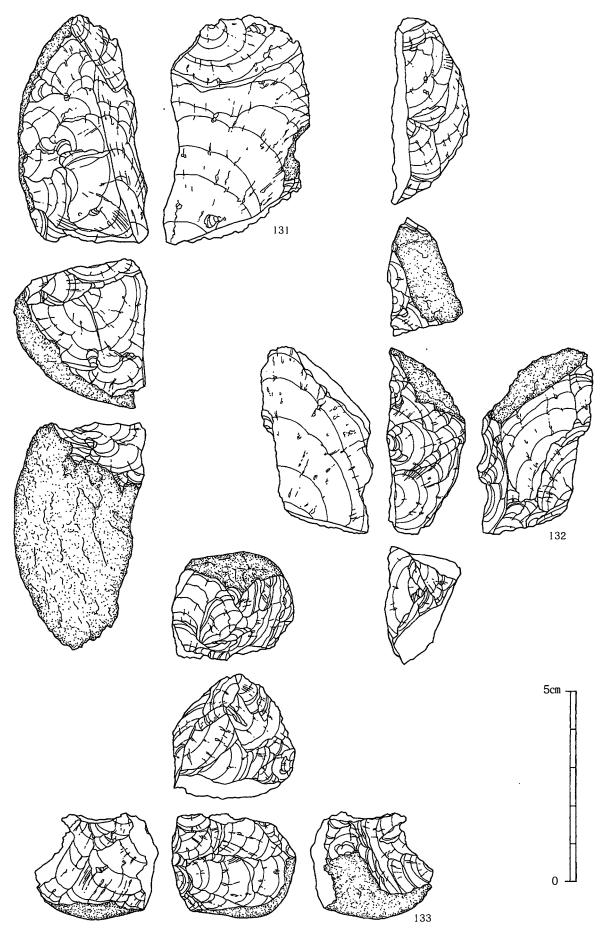
第41図 石器実測図



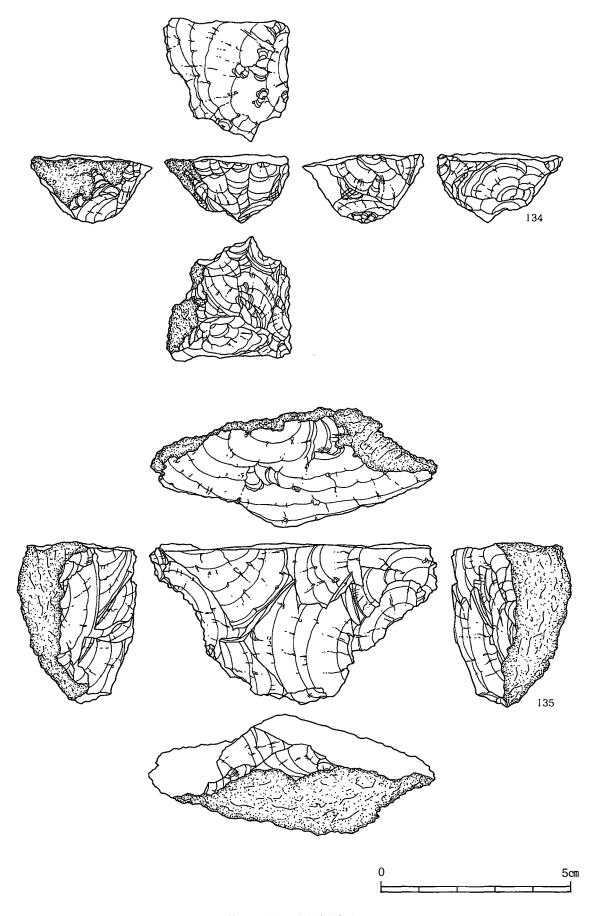
第 42 図 石器実測図



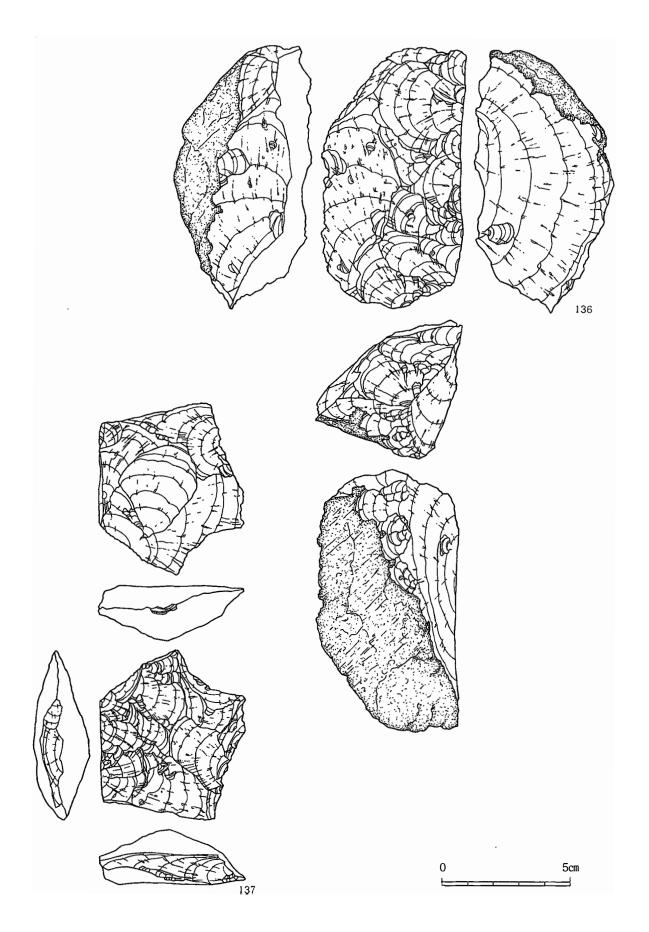
第43図 石器実測図



第 44 図 石器実測図



第 45 図 石器実測図



第 46 図 石器実測図

第5表 石器計測表①

第5	衣	白 舂 訂	測衣①							
図版	遵物	グリッ	ド層位	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
番号	番号	2 9 9	下 盾匹 			(cm)	(cm)	(cm)	(g)	
1		C-1	IV	石鏃	チャート	2.9	1.8	0.5	2.0	
1	2	B-2	IV	石鏃	チャート	2.8	2.0	0.4	1.7	
1	3	3 A-2	Ш	石鏃	黒耀石	1.8	1.4	0.4	0.8	
1	4	4 B-1	Ш	石鏃	黒耀石	2.6	1.9	0.5	2.0	
1		5 B-1	Ш	石鏃	黒耀石	1.5	1.0	0.5	0.86	
1	. (6 D-1	IV	石鏃	黒耀石	1.6	0.9	0.3	0.5	
1		7 C-1	Ш	石鏃	黒耀石	1.7	1.0	0.3	0.6	
1		8 A-2	IV	石鏃	黒耀石	1.6	1.3	0.4	0.5	
1	L :	9 A-1	IV	石鏃	黒耀石	1.9	1.4	0.3	0.6	
1		0 B-2	Ш	石鏃	黒耀石	1.2	1.7	0.3	0.5	
1		1 B-2	Ш	石鏃	黒耀石	1.4	1.8	0.4	0.7	
]		2 C-1	IV	石鏃	黒耀石	0.9	1.5	0.4	0.5	
1		3 C-2	IV	石鏃	黒耀石	2.0	1.4	0.4	0.8	
1		4 E-1	IV	石鏃	黒耀石	1.6	1.2	0.2	0.4	
		5 C-2	Ш	石鏃	黒耀石	2.4	2.2	0.9	4.0	
2		6 IV区		楔形石器	チャート	4.6	3.2	1.4	23.0	
		7 B-2	IV	楔形石器	黒耀石	4.0	2.9	1.7	21.6	
2		8 C-2	Ш	楔形石器	黒耀石	3.4	1.6	1.6	7.3	
		9 F-1	Ш	楔形石器	黒耀石	3.6	2.8	1.0	11.6	
		0 C-1	Ш	楔形石器	黒耀石	4.2	3.0	1.3	17.4	
		1 F-2	Ш	楔形石器	チャート	3.4	3.0	0.6	10.1	
		2 B-2	IV	楔形石器	黒耀石	4.7	3.9	1.7	29.5	
		3 C-1	Ш	楔形石器	黒耀石	2.8	3.0	1.0	7.2	
		4 C-1	Ш	楔形石器	黒耀石	3.0	2.1	8.0	5.4	
		5 B-2	Ш	楔形石器	黒耀石	2.4	1.5	8.0	2.6	
		6 D-1	IV	楔形石器	黒耀石	2.6	1.8	1.3	6.0	
		7 B-1	IV	楔形石器	チャート	2.7	1.9	8.0	4.0	
4		8 1区		楔形石器	黒耀石	2.6	2.9	0.9	5.7	
		9 B-2	IV	楔形石器	黒耀石	3.4	1.6	0.9	5.6	
		0 G-1	Ш	楔形石器	黒耀石	2.1	2.6	1.0	5.9	
		1 B-1	Ш	楔形石器	黒耀石	2.9	2.0	0.9	4.8	
		2 1区		二次加工ある石器	黒耀石	2.0	2.4	8.0	4.1	
		3 C-2	Ш	二次加工ある石器	黒耀石	2.2	2.5	0.6	2.8	
		4 A-2	IV	二次加工ある石器	黒耀石	3.1	2.2	0.6	3.7	
		5 C-2	Ш	二次加工ある石器	黒耀石	2.2	2.3	0.7	2.8	
		6 A-1	IV	二次加工ある石器	黒耀石	1.8	1.4	0.4	0.7	
		7 II区		二次加工ある石器	黒耀石	3.3	1.8	8.0	3.0	
		8 D-1		二次加工ある石器	黒耀石	2.9	1.5	0.4	1.8	
		9 D- 1		二次加工ある石器	黒耀石	5.1	3.0	1.8	17.1	
		0 A-1	V	二次加工ある石器	黒耀石	1.5	2.2	0.6	1.6	
		1 C-1	II	二次加工ある石器	黒耀石	3.1	1.8	1.0	5.0	
		2 C-1	IV	二次加工ある石器	黒耀石	1.9	1.9	0.4	1.5	
		3 F-1	IV	二次加工ある石器	黒耀石	3.5	2.8	0.6	6.0	
		4 C-1	IV	二次加工ある石器	黒耀石	2.4	1.4	0.5	1.4	
		5 Ⅲ区		二次加工ある石器	黒耀石	4.4	3.6	1.1	14.2	
(6 4	6 C-2	IV	二次加工ある石器	黒耀石	3.0	2.9	0.7	6.7	

第6表 石器計測表②

		山 100 声 <i>1</i> 45 	1 (C)							
図版		グリッド	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	## +v
番号	番号			ши на	1111	(cm)	(cm)	(cm)	(g)	備考
6	47	A-2	IV	二次加工ある石器	黒耀石	1.3	1.7	0.4	1.0	
7	48	II区		二次加工ある石器	黒耀石	2.3	1.4	. 0.6	1.7	
7	49	H-1	IV	二次加工ある石器	黒耀石	1.6	1.8	0.4	1.0	
7	50	B-1	${\rm I\hspace{1em}I\hspace{1em}I}$	二次加工ある石器	ガラス質安山岩	2.3	0.9	0.4	0.7	
7	51	C-1	IV	二次加工ある石器	黒耀石	3.9	2.0	0.7	4.5	
7	52	B-2	Ш	二次加工ある石器	黒耀石	3.5	3.3	1.0	12.0	
7	53	I区	II	二次加工ある石器	黒耀石	2.9	2.3	0.6	3.2	
7	54	A-2	IV	二次加工ある石器	黒耀石	1.9	0.8	0.2	0.4	
7	55	D-1	IV	二次加工ある石器	黒耀石	1.8	1.8	0.4	0.9	
7	56	D-2	IV	二次加工ある石器	黒耀石	2.3	1.4	0.4	1.2	
7	57	1	IV	二次加工ある石器	黒耀石	2.0	3.3	1.2	5.3	
7	58	A-1	IV	二次加工ある石器	黒耀石	1.8	1.2	0.4	0.7	
7		D-2	IV	二次加工ある石器	黒耀石	1.5	1.3	0.3	0.5	
7	60	Ι区	II	二次加工ある石器	黒耀石	1.3	1.7	0.3	0.6	
8		G-2	Ш	二次加工ある石器	黒耀石	5.4	3.2	1.7	26.6	
8		C-2	IV	二次加工ある石器	黒耀石	3.2	3.6	1.7	19.7	
8		B-2	IV	二次加工める石器						
					チャート	3.0	2.6	1.0	7.3	
8		E-1	II	二次加工ある石器	黒耀石	2.3	1.9	0.6	2.7	
8		C-2	IV	二次加工ある石器	黒耀石	2.8	2.3	1.1	5.0	
8		B-1	IV	二次加工ある石器	黒耀石	2.2	1.3	0.5	1.4	
8	67	C-1	IV	異形石器	黒耀石	2.0	1.4	0.3	0.5	
9	68	C-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	4.7	2.2	0.5	5.2	
9		C-2	Ш	使用痕ある剥片	黒耀石	3.0	2.1	0.3	1.7	
9		D-1	Ш	使用痕ある剥片	黒耀石	4.0	3.3	1.6	15.7	
9			IV	使用痕ある剥片	黒耀石	3.3	1.7	0.5	2.8	
9	72	C-2	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	2.9	5.1	1.4	16.4	
9	73	B-2	Ш	使用痕ある剥片	黒耀石	2.5	2.5	0.7	3.2	
9			Ш	使用痕ある剥片	黒耀石	3.6	1.8	0.5	3.0	
10	75	D-2	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	4.5	2.4	1.0	11.9	
10	76	B-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	3.3	2.5	0.7	4.8	
10	77	A-2	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	6.0	3.2	0.9	15.2	
10	78	H-1	${\rm I\hspace{1em}I}$	使用痕ある剥片	黒耀石	2.6	1.3	0.3	8.0	
10	79	B-2	${\rm I\hspace{1em}I}$	使用痕ある剥片	黒耀石	2.9	3.8	0.7	9.7	
10	80	C-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	2.3	4.8	1.5	12.4	
11	81	A-2	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	6.1	3.4	1.0	19.3	
11	82	区Ⅱ		使用痕ある剥片	黒耀石	2.7	1.9	0.7	3.5	
11	83	C-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	7.7	3.3	1.0	27.1	
11	84	D-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	2.7	2.9	0.6	3.2	
11	85	C-1	IV	使用痕ある剥片	チャート	2.5	2.7	0.6	2.6	
11	86	C-2	IV	使用痕ある剥片	チャート	2.8	2.6	0.6	4.0	
11			Ш	使用痕ある剥片	黒耀石	2.0	1.0	0.4	0.6	
12		D-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	3.6	3.9	1.1	13.0	
12		A-2	Ш	使用痕ある剥片	黒耀石	4.4	1.8	0.9	5.5	
12		C-2	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	3.9	1.8	0.6	2.9	
12		C-2	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	1.6	2.6	0.9	3.5	
	_			·						

第7表 石器計測表③

第 / 3	₹ 1	3 奋引测?						-	= •	
図版	遺物	グリッド	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
番号	番号	2991				(cm)	(cm)	(cm)	(g)	
12	92	C-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	7.1	4.1	1.9	35.3	
13	93	B-2	Ш	使用痕ある剥片	黒耀石	4.7	2.6	1.0	14.1	
13	94	B-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	2.5	2.6	0.6	2.4	
13	95	C-2	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	1.5	1.4	0.5	0.6	
13	96	C-2	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	5.2	2.5	1.0	11.1	
13		D-2	Ш	使用痕ある剥片	黒耀石	3.2	1.6	0.5	1.8	
13		C-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	4.8	3.1	1.0	11.7	
14		B-1	V	使用痕ある剥片	黒耀石	3.2	4.7	0.8	6.8	
14		B-1	Ш	使用痕ある剥片	黒耀石	1.2	1.3	0.5	0.3	
14		C-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	4.5	3.0	1.3	14.2	
14		C-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	3.8	2.6	0.7	5.9	
14		C-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	3.2	2.7	1.2	8.2	
15		A-2	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	4.9	4.6	1.1	23.8	
15		C-1	IV	使用痕ある剥片	黒耀石	4.7	4.2	1.0	21.3	
15		G-2	14	使用痕ある剥片	黒耀石	3.1	4.1	1.1	10.6	
16		B-2	IV	磨石・敲石	砂岩	11.4	8.6	5.6	723.0	
16		B-1	IV	磨石・敲石	砂岩	12.2	8.3	7.0	846.0	
16		B-1	IV	磨石・敲石	砂岩	14.2	10.0	5.7	1157.0	
17		B-2	IV	磨石・敲石	砂岩	10.1	5.0	3.2	228.0	
	111		IV IV	磨石・敲石	砂岩	11.6	5.6	3.5	419.0	
17		B-1	IV IV		砂岩	9.6	6.4	3.4	323.0	
		B-1	IV IV	磨石・敲石	砂岩			4.0	341.0	
17		1		磨石・敲石		9.0	7.3			
	114	í	IV	磨石・敲石	砂岩	11.2	6.4	3.4	357.0	
17		B-1	IV	磨石・敲石	砂岩	15.0	4.9	3.1	486.0	
17		B-2	IV	磨石・敲石	砂岩	10.0	9.0	3.0	358.0	
17		B-2	IV	磨石・敲石	砂岩	10.0	12.4	4.7	867.0	
18		C-1	IV	石核	黒耀石	2.9	4.4	2.6	27.2	
	119		IV	石核	黒耀石	2.2	4.5	2.5	25.7	
		B-1	IV	石核	黒耀石	2.4	5.7	3.4	37.1	
		D-2	IV	石核	黒耀石	2.2	3.7	3.8	33.2	
19		B-2	IV	石核	黒耀石	3.3	3.6	2.0	18.1	
		B-1	IV	石核	黒耀石	2.4	3.3	2.9	19.8	
20		C-2	IV	石核	黒耀石	2.2	4.1	3.4	31.8	
		C-1	IV	石核	黒耀石	1.6	3.5	2.3	10.7	
	126		Ш	石核	黒耀石	3.0	3.3	2.8	24.9	
21		B-1	Ш	石核	黒耀石	2.6	3.0	2.7	26.4	
21	128	B-1	Ш	石核	黒耀石	3.0	3.3	2.1	18.1	
21	129	F-2	Ш	石核	黒耀石	2.4	4.3	2.2	19.5	
21	130	C-1	Ш	石核	黒耀石	1.6	3.3	1.8	10.4	
22	131	B-2	IV	石核		3.5	5.8	3.8	76.5	
22		E-1	IV	石核	黒耀石	2.0	4.8	3.0	24.6	
22	133	C-2	IV	石核	黒耀石	3.2	3.3	3.3	31.1	
23	134	C-2	IV	石核	黒耀石	1.8	3.3	3.3	14.8	
23	135	C-2	IV	石核	黒耀石	4.2	7.6	3.2	73.5	
24		C-1	IV	石核	黒耀石	5.7	10.3	5.5	276.9	
24	137	B-2	Ш	石核	黒耀石	5.8	6.7	2.3	71.7	

第2節 弥生時代の遺物

1 出土遺物

当期の遺構は調査では発見できなかった。遺物量は、比較的多くその所属時期は、中期後半から後期前半までの時間的幅が想定できる。また、遺跡の立地が水俣川流域の低位河岸段丘上に所在するため、低湿地的な様相を呈し、遺物の表面はかなり磨滅し、器面の調整や施文等の状態が確認できにくい資料が多く含まれている。当該期の遺物の全てが土器資料であり、以下に記述する。

第47図83~90,92~104は、甕の口縁部破片である。

 $83\sim85$ は、口縁部が丁字形に近くなるもので、内側に粘土を引き延ばすように張り出させている。 $104\sim106$ は、 200 は、 200 は、 200 を 20

107~110, 113~122 は、壺形土器の口縁部破片である。外面にはヘラによる丁寧な調整が認められる。これらのうち、121, 122 は小型壺形土器の頸部~胴部にかけての資料である。110 は、頸部及び底部を欠失し全体形は不明な点が認められるが、胴部中央部に屈曲をもち「算盤の玉」状の形状を呈し、頸部及び屈曲部付近に密に沈線を施し、その間に重弧文を施す。所謂「免田式」と呼称される重弧文長頸壺である。114 は、口縁部~頸部にかけての資料である。口縁部形態は、二重口縁を呈し口縁部から頸部にかけてその中位に張り出し状の段をもつ。その段上及び頸部の屈曲部に箆状の工具による刺突文が施される。

123 は、高坏である。脚部は欠失し全体形は不明である。

125~129は、鉢であると考えられるが、底部付近を欠失しているため全体形状の詳細については不明である。

130は、碗形土器の底部資料である。

111, 112 は、胴部被片である。. ほぼ胴部最大径の外面に刻目を入れた断面三角形の突帯がめぐる。底部と口縁部の形は不明である。

2 まとめ

弥生時代の遺物は、土器資料のみ確認された。その器種組成は、甕、壺、碗、高坏である。これらの資料の底部作りだ しの特徴から、中期後半~後期前半に位置づけることができよう。

しかし、当該期に属する遺構が検出されなかったことと、接合による個体復元率が比較的低いことを特徴としてあげることができよう。つまり、当該期の資料に認められる時期幅は、遺跡形成と存続時期の時間幅を示すものと理解されよう。また、遺物のみの出土と接合による復元割合の低さ等は、当時の集落における「場の機能」に起因するものと考えられ、縄文時代晩期前半から後半と同様の様相が想定できよう。

【参考文献】

水俣市教育委員会 1990 『水俣市埋蔵文化財調査報告書』第1集

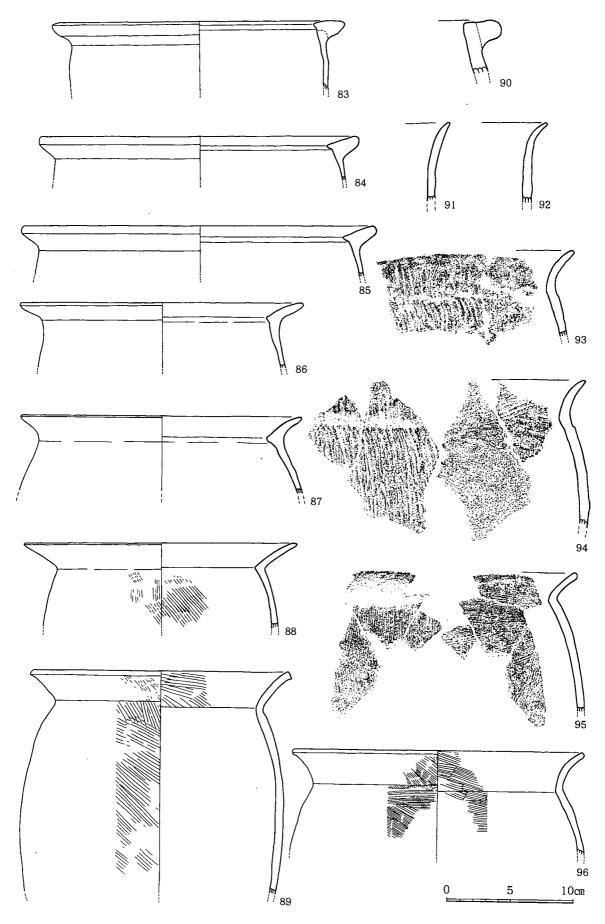
園村 辰実 1993 『夏女遺跡』熊本県文化財調査報告第 128 集 熊本県教育委員会

緒方 勉 1986 『神水遺跡「』熊本県文化財調査報告第82集 熊本県教育委員会

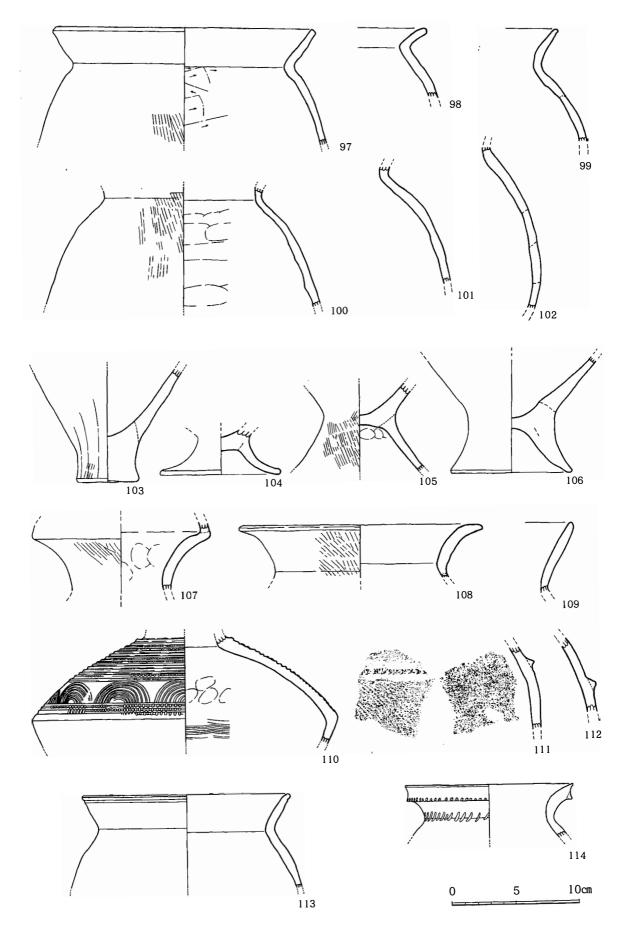
高谷 和生 1996 『西片町遺跡』熊本県文化財調査報告第153集 熊本県教育委員会

木崎 康弘 1996 『蒲生・上の原遺跡』熊本県文化財調査報告第158 集 熊本県教育委員会

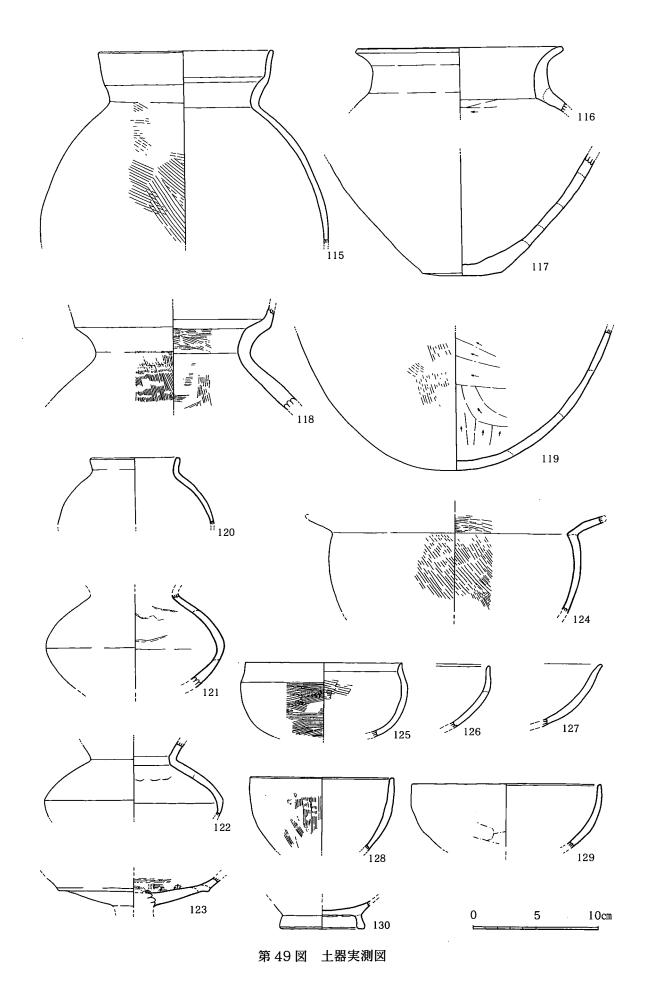
濱田 彰久 1997 『庵ノ前遺跡」』熊本県文化財調査報告第 160 集 熊本県教育委員会



第 47 図 土器実測図



第 48 図 土器実測図



- 60 **-**

第2節 弥生時代の遺物

第8表 土器観察表

冈版	遺物	グリッド	層位	器和	部位	L	現存高	口径	色記	19	胎土混入物	焼成	調整	・文様	備考
番号	番号	1					(cm)	(cm)		内面				内面	
l	83	B-2	N	型	口級部		(5.4)	(23.4)	にぶい黄橙色	浅黄橙色	角閃石・石英・玺母・赤褐色粒・砂粒	普通	ヨコナア・ナア	ヨコナデ・ナデ	外器面上部にスス付着
1	84	C-1 · C-2	Ⅲ·Ⅳ	整	口級部		(3.5)	(25.6)	浅黄橙色~にぶい黄橙色	浅黄橙色~にぶい黄橙色	角閃石・石英・赤褐色粒・砂粒・小石	普通	ナデ	ヨコナデ・ナデ	
I	85	C-1 · D-1	IV	竞	口輕部		(4.0)	(28.5)	浅黄橙色	にぶい黄橙色	角閃石・石英・赤褐色粒・砂粒・小石	普通	ヨコナア	ヨコナデ・ナデ	内器面にスス付着
1	86	H-1(一括)		軽	口級部		(5.2)	(22.6)	橙色~にぶい黄褐色	橙色~にぶい赤褐色・明赤褐色	砂粒、小石	普通	不明	ヨコナデ・ナデ	口唇部にスス付着
1	87	H-1(一括)		雅	口級部		(6.0)	(22.4)	赤褐色~褐色	明赤褐色~橙色・灰黄褐色・黒褐色	角関石・砂粒	普通	不明	不明	外器面にスス付着
ı	88	D-1	Ⅳ (一括)	臦	口縁部		(6.7)	20.9	にぶい橙色	にぶい黄橙色	角閃石・石英・砂粒	良	ヨコナア・ハケメ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	外器面頚部・内器面上部にスス付
1	89	B-2	Ш	毲	口縁部・	胸部	(17.6)		にぶい黄褐色・にぶい橙色	明赤褐色・にぶい赤褐色	石英・銀母・砂粒・小石粒	普通	ヨコナア・ハケメ後ヨコナデ・ハケ	メ ハケメ	外器面胴部にスス付前
ı	90	C-1	TI .	轣	口縁部		(4.2)		にぶい褐色~黒褐色	にぶい褐色~黒褐色	角閃石・雲母・石英・赤褐色粒・砂粒	普通	ヨコナデ・指頭圧痕	ナデ後ヨコナデ・指頭圧痕	口唇部にスス付着
1	91	D-1	Ш	不明	口綠部		(6.1)		明褐色~にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	角閃石・石英・砂粒	普通	不明	ハケメ後ヨコナデ・ヨコナラ	,
1	92	Ⅱ区(一括)		亚	口縁部		(6.3)		橙色~にぶい黄褐色	橙色	角閃石・石英・砂粒・小石粒	普通	不明	不明	
1	93		U	99E	口縁部		(6.7)		橙色~灰黄褐色	にぶい橙色・橙色~褐色	角閃石・砂粒・小石粒	普通	ハケメ	ハケメ	外器面にスス付着
î	94	1	IL	514	口縁部		(11.5)		灰黄褐色	にぶい黄橙色	角閃石・石英	發通	ハケメ・ハケメ後ナデ	ハケメ	外器面にスス付着
1	95		IV.	亚	口録部・		(10.9)		にぶい黄橙色~灰黄褐色	にぶい黄橙色~褐灰色	角閃石・石英・砂粒	普通	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	外器面にスス付着
1	96	1	m	塱	口縁部・		(8.2)	(23.4)	明赤褐色	赤褐色~にぶい赤褐色	銀母·砂粒	普通	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	ハケメ	底部外面に工具痕
2	97	1 -	ш	镀	口線部・		(9.2)		明褐色~褐色	にぶい黄松色	角閃石・石英・玺母・砂粒・小石粒	普通	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	外器面にスス付着
2	98		m	報	口数部・		(5.5)	(01.0)	にあい黄橙色	にぶい黄橙色	角関石・石英・赤褐色粒・砂粒	符通	ヨコナデ	ナデ	ける面に入入り着 口唇部にスス付着
2	99	1	II · IV	虹	口縁部・		(9.0)		没黄橙色~にぶい黄橙色	没黄橙色~にぶい黄橙色	角閃石・石英・赤褐色粒・砂粒	普通	ヨコナデ	カリ 指頭圧痕	
2	100		IV.	#Z	脳部	ичен	(9.5)		沒質權色·灰黄褐色	浅黄色 · 灰黄褐色	角閃石・石英・砂粒・小石粒	普通	ハケメ	指頭か工具によるナデ	内器面にスス付着 内器面にスス付着
2	100	E-1	m IV	20E	順部		(9.3)		淡黄橙色	浅黄色~褐灰色	角閃石·石英·砂粒·小石粒	普通	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	市頭が上共による)) ナデ・指頭圧痕	内帝山に入入刊石
2			ш	_	胸部		(12.8)		担色・にぶい橙色			普通	不明	ナデ・指頭圧痕	以 图字:2012年 - 444
	102		Щ . ш. м (—з	n/ 345 100	雌部		(8.6)		明赤褐色・にぶい褐色	褐灰色~黒褐色	角閃石・石英・雲母・砂粒	普通	ケズリ・ナデ	ナア	外器面上部にスス付着
2	103	1	III.	350	脚部		(3.5)		橙色~にぶい橙色	橙色	角閃石・石英・金雲母・微砂粒	普通	ョコナデ後ナデ・ナデ	ナデ	底部完存。底径 5.0cm
2	.04	17.2	IV.	98E	底部		(7.0)		によい褐色~褐色・明赤褐色	にぶい橙色~にぶい褐色	角閃石·雲母·砂粒·小石	普通	ココノノゼノノ ノノ	ナデ・指頭圧痕	復元底径 9.6cm
2	105		IV	35E	底部		(9.2)		にぶい黄褐色~明赤褐色	灰黄褐色	角閃石 · 石英 · 砂粒 · 小石粒	普通	ナテ	ナデ	波状口線
2	106	1	W	新	な 部 都 部				にぶい黄橙色~橙色	浅黄橙色~橙色	角閃石・石英・盤母・微砂粒・砂粒	普通	ッ/ ヨコナデ・ハケメ・ナデ		復元底径 9.6cm
2	107		ш	50E	與部 □級部		(5.3)	(10.5)	にぶい現在也~位也	にぶい橙色~橙色	角閃石·雲母·砂粒·小石粒·茶褐色粒	普通	ココナノ・ハッス・デデ	ョコナデ・指頭圧痕 ナデ	
2	108		ui .	dis	口級部		(4.2)	(19.5)	明赤褐色~にぶい赤褐色	明赤褐色~にぶい赤褐色	銀母・石英・砂粒・小石	普通	ハック ハケメ後ョコナデ		口唇部にスス付着
2	109		IV	92			(5.6)					普通		ハケメ後ョコナデ	
2		F-1	Ш	螫	胸部		(8.7)		橙色·明赤褐色	灰黄褐色・にぶい黄褐色	石英 · 砂粒 角閃石 · 石英 · 雲母 · 砂粒	普通	ヨコナデ ヨコナデ・ハケメ・突帯に刻み目	ナデ・ハケメ・重孤文	
2			0	不同			(6.5)		橙色 にぶい橙色~明赤褐色・にぶい黄橙色	橙色	円内石・石央・芸は、砂粒 石英・雲母・茶褐色粒・砂粒・小石粒	普通	ハケメ・ハケメ後ナデ・突帯	ハケメ	
2			Ш	不			(6.0)			によい橙色~橙色		世世 善遊		不明	
2		B E-1	III	ङ	口鬆部		(7.5)		浅黄橙色~にぶい黄橙色	浅黄橙色~にぶい黄橙色	角閃石・石英・赤褐色粒・砂粒	普通	不明・口録部に一条の沈線文	不明	
2	114	L C- 1	TD .	₩	口縁部		(4.4)	(13.4)		浅黄橙色~にぶい橙色	角閃石・石英・赤褐色粒・砂粒		不明・ヘラ状工具による刺突文	不明	外器面に スス付着
3	115	C-2·D-2	□ · IV · ビ:		口穀部	・胴部	(15.3)			橙色	角閃石·微砂粒·砂粒	普通	ハケメ	ナア	外器面にスス付着
3	116	6 E-1	T	靊	口縁部		(5.2)	(16.6)	浅黄橙色	浅黄橙色	角閃石・赤褐色粒・砂粒	普通	ヨコナデ	ヨコナデ・ケズリ	
3	117	7 G- 2	Ш	萤	底部		(9.5)		橙色~明赤褐色	暗灰黄色	角閃石・石英・砂粒	普通	不明	不明	底径 6.4㎝
3	118	3 C-2	H	₩.	頚部·肌	月部	(8.3)		明赤褐色	にぶい褐色〜明赤褐色	角閃石・石英・雲母・砂粒	普通	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	
3	119	9 E-1		靈	底部		(10.9)	1	にぶい黄橙色~にぶい赤褐色	にぶい黄橙色~灰黄褐色	角閃石・微砂粒・砂粒	普通	ハケメ後ナデ・ナデ	ケズリ後ナデ	口唇部にスス付着
3	120	B-1-B-2	UI	亚	口縁部		(5.3)	(7.2)	角閃石・石英・銀母・砂粒・小石料	拉 橙色	橙色	普通	不明	不明	胴部最大径 12.4cm
3	121	l F-2	TII .	小生	型盛 頚部・服	開部	(7.5)		角閃石・石英・赤褐色粒・微砂粒・砂	対 浅黄橙色~橙色	明黄褐色	西语	不明	不明	
3	122	2 F-2	ш	小	以泰 取部·服	屑部	(6.0)		角閃石・石英・赤褐色粒・微砂	粒 にぶい黄橙色~橙色	にぶい黄橙色	普通	ナア	ナデ	
3	123	3 D-2	III V	商	不 坏那底部	郅	(2.6)		角閃石・石英・赤褐色砂粒・微砂粒・	タ粒 にぶい黄橙色	にぶい黄橙色~橙色	普通	ヨコナデ	ハケメ後ヨコナデ	内外器面に赤彩
3	124	4 D- 1	Ⅳ (一括)	<u>8</u> \$	類部・服	肩部	(7.6)		角閃石・赤褐色砂粒・微砂粒・砂糖	灰黄褐色	にぶい黄橙色	普通	ヨコナア・ハケメ後ナア・ハケメ	ハケメ後ョコナデ・ハケメ	復元頭部径 19.6cm· 復元期部径 20
3			N	鉢	口録部	· 顧部	(5.9)	(12.7)	角閃石・雪母・茶褐色粒	にぶい橙色	橙色	普通	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ後ナデ	
3			m · №	24	口縁部	- 脳部	(5.0)		角閃石・石英・砂粒	明赤褐色	明赤褐色	普通	ナデ	ナデ	
3			m · IV	88	口録部		(5.0)		角閃石・雲母・砂粒	橙色~明赤褐色	橙色~明赤褐色	普通	ナデ	ナデ	
3				8k	口級部		(5.9)	() 1.6	望母·赤褐色粒·砂粒	によい褐色~によい黄橙色	にぶい褐色~にぶい黄橙色	普通	・・ ハケメ後ナデ・ヨコナデ	ナデ	
3			10		口級部		(5.1)		角閃石・砂粒	橙色・明赤褐色	橙色・明赤褐色	普通	ナデ・ヘラケズリ	} 7	内器面下部に黒斑
		D E-1	ピット50	98	底銀 口 輪 助	-F-1Dh	(2.3)	(10.2)	角閃石・石英・砂粒	浅黄橙色~浅黄橙色	浅黄橙色	普通	不明	不明	
3	130	n 52-1	C 9 1 30	198	MT LD		(2 -3)		AND UK VE		12. E. C.		1.77	1.43	復元底径 6.9cm

第3節 中世の遺構と遺物

1 遺構と遺物

検出された遺構は、掘立柱建物の柱穴遺構のみである。しかし、これらの柱穴から建物を復元することはできなかったが、直線距離で4m余離れた2つの柱穴遺構から白磁小皿が1個体と龍泉窯系の青磁碗が6個体検出された。これらの資料は、柱穴の柱痕部分のみから検出され、全ての個体が完形に復元された。その出土状態から、建物を廃棄する段階での一定の儀礼を示す事例として重要である。

接合関係の検討から全ての個体が分割され、2つの柱穴に同じ順序で埋納されていることが理解できる。 このことから両者を利用した建物は、同時期に存在し廃棄されたことが理解され、同地に存在したであろう 建物群のなかで、重要な建物であった可能性も指摘できよう。

以下、資料ごとに説明を行う。

第50図1は、口径10.0cm、底径6.5cm、器高1.9cmを計る白磁の皿である。底部外器面には、ヘラ切りの後ナデ調整を施した痕跡が認められる。釉は、全面に施され、口唇部には釉を回転ナデにより掻き取った痕跡が認められる。体部~口縁部にかけて約1/3を欠失し、検出された3破片による接合復元資料である。これらの破片は2つの柱穴から検出された。柱穴間の距離は、約4mである。

第50図2は、口径15.5cm、復元底径5.3cm、器高7.0cmを計る龍泉窯系の青磁碗である。底部外器面~高台にかけて削りにより釉の掻き取りが認められ、その他の部分には釉が施されている。胴部~口縁部にかけて約1/3余を欠失し、検出された11破片による接合復元資料である。胴部は底部付近でやや膨らみ、口縁部でやや外反ぎみに立ち上がる。胴部外面には、彫りの丁寧な蓮弁文が刻され、底部内面には片切彫りによる文様が認められる。検出状況は、同様である。

第50図3は、口径16.5cm、復元底径5.6cm、器高6.6cmを計る龍泉窯系の青磁碗である。底部外器面~高台にかけて削りにより釉の掻き取りが認められ、その他の部分には釉が施され、貫入が認められる。胴部~口縁部にかけて約1/6弱を欠失し、検出された18破片による接合復元資料である。胴部は底部付近でやや膨らみ、口縁部でやや外反ぎみに立ち上がる。胴部外面には、彫りの丁寧な蓮弁文が認められる。検出状況は、同様である。

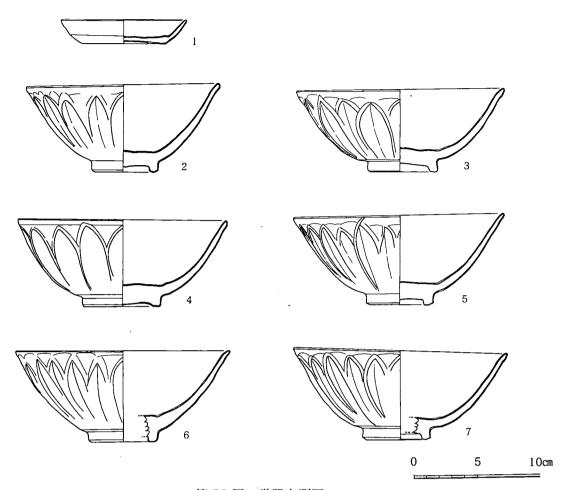
第50図4は、口径16.7cm、底径6.2cm、器高6.9cmを計る龍泉窯系の青磁碗である。底部外器面~高台にかけて削りにより釉の掻き取りが認められ、その他の部分には釉が施され、貫入が認められる。胴部の約1/6弱を欠失し、検出された20破片による接合復元資料である。胴部は底部付近でやや膨らみをもちながら口縁部へと立ち上がる。口唇部は、外器面側に僅かに肥厚する。胴部外面には、彫りの丁寧な蓮弁文が認められるが、個々の連弁に稜は認められない。検出状況は、同様である。

第50図5は、口径16.7cm、底径5.3cm、器高7.25cmを計る龍泉窯系の青磁碗である。底部外器面~高台にかけて削りにより釉の掻き取りが認められ、その他の部分には釉が施され、貫入が認められる。胴部~口縁部にかけて約1/6 弱を欠失し、検出された21 破片による接合復元資料である。胴部は底部付近でやや膨らみ、口縁部でやや外反ぎみに立ち上がる。胴部外面には、彫りの丁寧な連弁文が認められる。検出状況は、同様である。

第50図6は、口径17.1cm、復元底径5.5cm、器高7.2cmを計る龍泉窯系の青磁碗である。底部外器面~高台にかけて削りにより釉の掻き取りが認められ、その他の部分には釉が施され、貫入が認められる。底部の大半を欠失し、検出された30破片による接合復元資料である。胴部は底部付近でやや膨らみ、口縁部でやや外反ぎみに立ち上がる。胴部外面には、彫りの丁寧な蓮弁文が認められる。検出状況は、同様である。

第50図7は、口径17.0cm、復元底径5.4cm、器高7.35cmを計る龍泉窯系の青磁碗である。底部外器面 ~高台にかけて削りにより釉の掻き取りが認められ、その他の部分には釉が施され、貫入が認められる。底 部の大半を欠失し、検出された20破片による接合復元資料である。胴部は底部付近でやや膨らみ、口縁部 でやや外反ぎみに立ち上がる。胴部外面には、彫りの丁寧な連弁文が認められる。検出状況は、同様である。

良 高台部は削り出し、軸を掻き取る、部分的に貫入あり



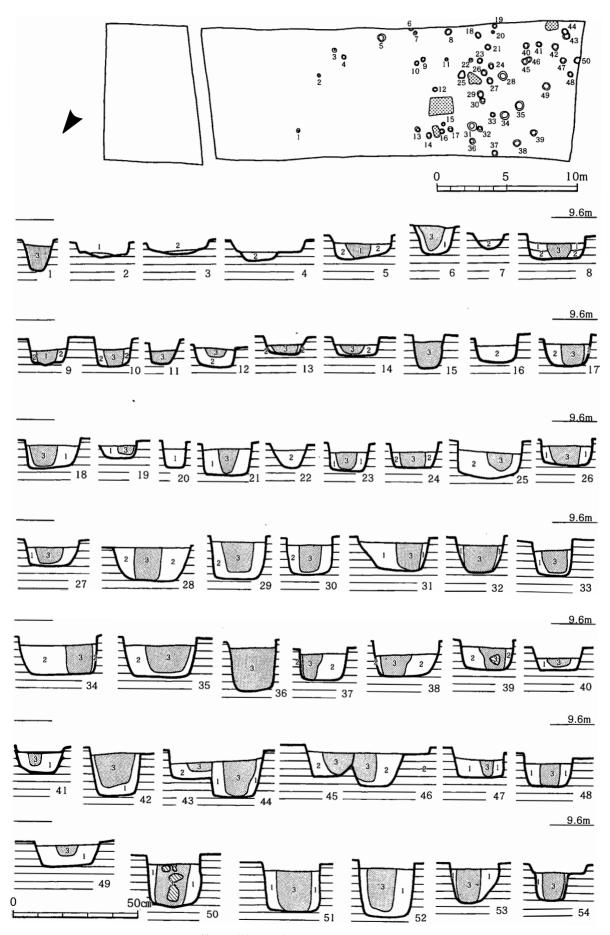
第50図 磁器実測図

第9表 磁器観察表

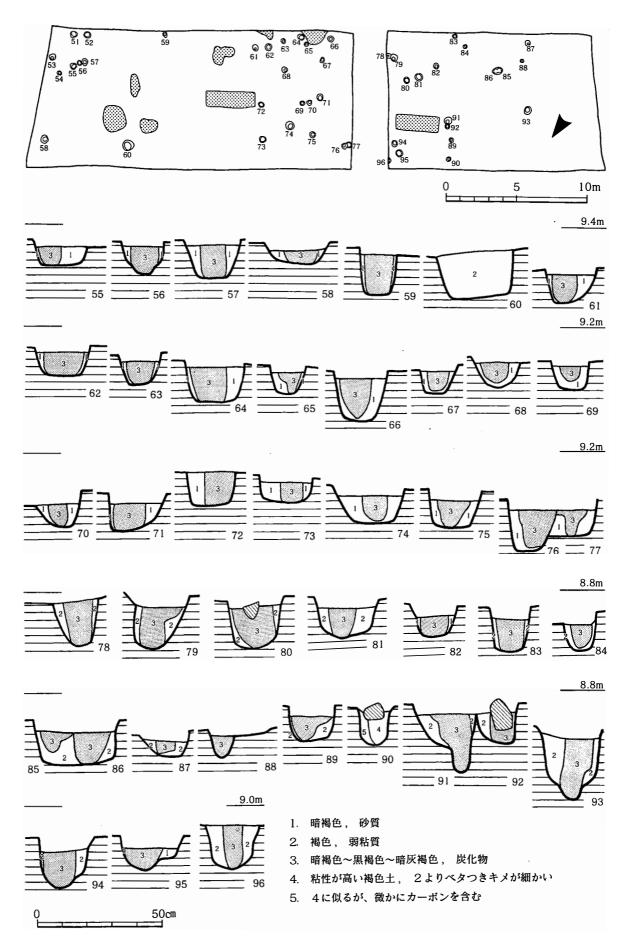
7 青磁 口縁部~底部 碗 17.0 (5.4) 7.3 オイスター 油色

迎物	織別	部位	第	口径	底径	器高	1	色調	調整・文	嶽	胎土混入物	焼成	備考		
番号	154.779	HP 11/L	ж	(cm)	(cn)	(cm)	胎土	釉	外面	内面					
1	白礁	口縁部~底部	ш	10.0	6.5	1.9	ピンクグレイ	フロステイグレイ	施釉	施釉	前砂粒	良	口幹部は回転ナア、軸を掻き取る、底部はヘラ切り後ナデ		
2	遊遊	口縁部~底部	驗	15.5	(5.3)	7.0	ねずみ色	オリーブドラブ	施制・選弁文	施釉	精砂粒	不良	高台部は削り出し、軸を掻き取る、片切彫りによる文様		
3	青磁	口縁部~底部	巍	16.5	(5.6)	6.6	ねずみ色	ミストグリーン	施釉・連弁文	施釉	微細~ 0.5㎜ の砂粒	良	高台部は削り出し、釉を掻き取る、貫入あり		
4	掛	口錄部~底部	898	16.7	6.2	6.9	シルパーグレイ	オリーブドラブ	施釉・連弁文	施釉	精砂粒	良	高台部は削り出し、釉を掻き取る、貫入あり		
5	诗磁	口縁部~底部	88	16.7	5.3	7.3	シルパーグレイ	プロンズ	施釉・連弁文	施釉	0.5㎜ の砂粒	良	高台部は削り出し、釉を掻き取る、貫入あり		
6	诗磁	口縁部~底部	98	17.1	(5.5)	7.2	ねずみ色	プロンズ	施釉・進弁文	施釉	和砂粒	良	高台部は削り出し、釉を掻き取る、貫入あり		

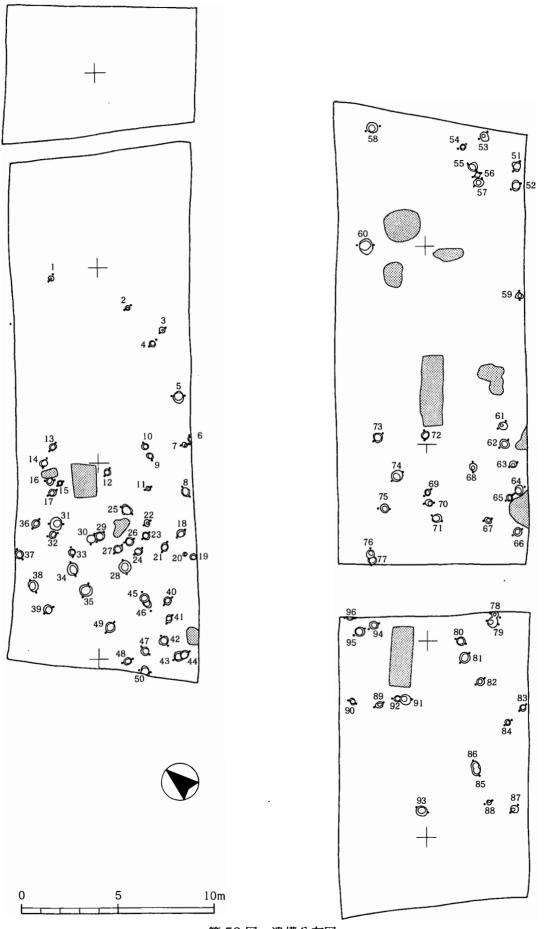
施釉·雄弁文 施釉 精砂粒



第51 図 遺構分布図·柱穴断面図



第52 図 遺構分布図·柱穴断面図



第53図 遺構分布図

2 まとめ

検出された当該期の遺構は、柱穴遺構のみであるが、建物を復元することはできなかった。しかし、2つの柱穴から 12世紀後半~13世紀前半に属する龍泉窯系の青磁が出土した。

この資料は、口縁部から底部までほぼ完形に復元できる資料である。さらに、これらの資料が柱穴の柱痕部から出土し、 柱穴間で接合関係が認められることから、建物の柱を抜きとった後に、意図的に入れられたものと考えられよう。

これらのことから、建物が廃棄される際に柱材を抜きとり、青白磁を埋納した儀礼の痕跡と考えられる。建物が廃棄された時期は、埋納された青磁碗の流通時期から13世紀前半以降と考えられよう。

また、埋納された龍泉窯系の青磁の流通時期が一定の時間幅のなかに収まることや、日常的な使用を目的とするものではないこと、日常生活に使用する土師器等の日用雑器が調査区内に認められない点には、特に留意が必要であろう。

地理的には、対岸丘陵上に「水俣城」が所在し、北側には水俣川が流れ、南側には中尾山が迫る狭小な平坦面に立地している。なお、山間部から西流してきた水俣川が南西に流れを変え、沖積地に移行する変化点付近の河畔に立地し、調査区南西側に迫地が存在することから「津」が存在した可能性も考えられよう。

今回調査を実施した範囲は、新幹線建設予定であり当該遺跡の断片的な資料の提供に止まり、その全容を窺い知ることはできないが、遺跡の範囲はさらに東方に広がり存在するものと考えられよう。

しかし、水俣地方に関する文献史料は少なく、断片的にみられるのみである。特に、14世紀初頭までの記録は少なく 不明な点が多い。

そのため、長野遺跡で検出された事例についての歴史的位置づけと評価に関しては、明確にすることができなかった。 今後の課題としたい。

【参考文献】

水俣市教育委員会 1990 『水俣市埋蔵文化財調査報告書』第1集

熊本県教育会葦北郡支会編 1926 「第三編 郷土史」「葦北郡誌」(1973 復刻) 名著出版

隈 昭志ほか 1978 『熊本県の中世城跡』熊本県文化財調査報告第30集 熊本県教育委員会

水野 哲郎 1998 『二本木前遺跡』熊本県文化財調査報告第167集 熊本県教育委員会

帆足 俊文 1999 『二本木遺跡』熊本県文化財調査報告第174集 熊本県教育委員会

中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社

「新・熊本の歴史」編集委員会編 1979 『新・熊本の歴史3 中世』 熊本日日新聞社

竹内理三編 1991 『角川 日本地名大辞典 43 熊本県』 角川書店

第Ⅳ章 総括

1 縄文時代

長野遺跡において検出された当該期の資料は、出土した全資料のなかで数量的に最も多い。その所属時期については、 出土した土器の観察から晩期前半~後半にかけての資料が主体を占めるものと考えられる。しかし、発掘調査において、 同時期の遺構等が検出されず、出土した土器についても接合による個体復元の割合が低い。このことは、調査区に残され た遺物の在り方を考える上で重要な示唆を与えるものと考えられよう。

つまり、遺跡全体のエリアの中での「場の機能」を推察する材料になるものといえ、当該調査区が東側から続く平坦面 の西側端に位置し、水俣川の現河道に近い位置に立地していることと併せて考えると、集落の主体部は東側に存在する可 能性が高く、廃棄の場としての機能が想定できよう。

また、出土した石器の組成からは打製石斧が認められず、楔形石器や石核・剥片類が多い点は留意が必要であろう。

2 弥生時代

弥生時代の遺物は、土器資料のみ確認された。その器種組成は、甕、壺、鉢、碗、高坏である。これらの資料の底部作りだしの特徴から、中期後半~後期前半に位置づけることができよう。

しかし、当該期に属する遺構が検出されなかったことと、接合による個体復元率が比較的低いことを特徴としてあげることができよう。つまり、当該期の資料に認められる時期幅は、遺跡形成と存続時期の時間幅を示すものと理解されよう。また、遺物のみの出土と接合による復元割合の低さ等は、当時の集落における「場の機能」に起因するものと考えられ、縄文時代晩期前半から後半と同様の様相が想定できよう。

3 中世

検出された当該期の遺構は、柱穴遺構のみであるが、建物を復元することはできなかった。しかし、2つの柱穴から 12世紀後半~13世紀前半に属する龍泉窯系の青磁が出土した。

この資料は、口縁部から底部までほぽ完形に復元できる資料である。さらに、これらの資料が柱穴の柱痕部から出土し、 柱穴間で接合関係が認められることから、建物の柱を抜きとった後に、意図的に入れられたものと考えられよう。

これらのことから、建物が廃棄される際に柱材を抜きとり、青白磁を埋納した儀礼の痕跡と考えられる。建物が廃棄された時期は、埋納された青磁碗の流通時期から13世紀前半以降と考えられよう。

また、埋納された龍泉窯系の青磁の流通時期が一定の時間幅のなかに収まることや、日常的な使用を目的とするものではないこと、日常生活に使用する土師器等の日用雑器が調査区内に認められない点には、特に留意が必要であろう。

地理的には、対岸丘陵上に「水俣城」が所在し、北側には水俣川が流れ、南側には中尾山が迫る狭小な平坦面に立地している。なお、山間部から西流してきた水俣川が南西に流れを変え、沖積地に移行する変化点付近の河畔に立地し、調査 区南西側に迫地が存在することから「津」が存在した可能性も考えられよう。

今回調査を実施した範囲は、新幹線建設予定であり当該遺跡の断片的な資料の提供に止まり、その全容を窺い知ることはできないが、遺跡の範囲はさらに東方に広がり存在するものと考えられよう。

しかし、水俣地方に関する文献史料は少なく、断片的にみられるのみである。特に、14世紀初頭までの記録は少なく 不明な点が多い。

そのため、長野遺跡で検出された事例についての歴史的位置づけと評価に関しては、明確にすることができなかった。 今後の課題としたい。

【参考文献】

水俣市教育委員会 1990 『水俣市埋蔵文化財調査報告書』第1集

水俣市教育委員会 1979 『水俣の文化財』

清田 純一 1998 「縄文後・晩期考―中九州の縄文後・晩期土器とその並行型式について―」 『肥後考古』 11

泉 拓良 1989 「西日本磨研土器様式」『縄文土器大観』第4巻

乙益 重隆 1965 「縄文文化の発展と地域性 九州西北部」 『日本の考古学』 第 II 巻

賀川 光夫 1965 「縄文文化の発展と地域性 九州東南部」 『日本の考古学』 第11巻

河口 貞徳 1952 「黒川洞窟発掘報告」「鹿児島県考古学会紀要」

島津 義昭 1989 「黒色磨研土器様式」「縄文土器大観」第4巻

山崎 純男・島津 義昭 1981 「4. 晩期の土器 九州の土器」『縄文文化の研究』第4巻

大田 幸博 1989 『七地水田遺跡』熊本県文化財調査報告第101集 熊本県教育委員会

古森 政次 1994 『ワクド石遺跡』熊本県文化財調査報告第144集 熊本県教育委員会

和田 好史 1993 『中堂遺跡』熊本県人吉市文化財調査報告書 人吉市教育委員会

古城 史雄 1995 『沖松遺跡』熊本県文化財調査報告第167集 熊本県教育委員会

松本 直子 1994 「認知考古学的視点から見た土器様式の空間的変異- 縄文時代後晩期黒色磨研土器様式を素 材として-」『考古学研究』第 42 巻第 4 号

丸山 伸治・濱田 彰久 1993 『大原天子遺跡』熊本県文化財調査報告第138集 熊本県教育委員会

坂田 和弘 1994 『深水谷川遺跡』熊本県文化財調査報告第141集 熊本県教育委員会

園村 辰実 1993 『夏女遺跡』熊本県文化財調査報告第128 集 熊本県教育委員会

緒方 勉 1986 『神水遺跡「』熊本県文化財調査報告第82集 熊本県教育委員会

高谷 和生 1996 『西片町遺跡』熊本県文化財調査報告第153 集 熊本県教育委員会

木崎 康弘 1996 『蒲生・上の原遺跡』熊本県文化財調査報告第 158 集 熊本県教育委員会

濱田 彰久 1997 『庵ノ前遺跡」』熊本県文化財調査報告第 160 集 熊本県教育委員会

熊本県教育会葦北郡支会編 1926 「第三編 郷土史」『葦北郡誌』(1973 復刻) 名著出版

隈 昭志ほか 1978 『熊本県の中世城跡』熊本県文化財調査報告第30 集 熊本県教育委員会

水野 哲郎 1998 『二本木前遺跡』熊本県文化財調査報告第167集 熊本県教育委員会

帆足 俊文 1999 『二本木遺跡』熊本県文化財調査報告第174集 熊本県教育委員会

中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社

「新・熊本の歴史」編集委員会編 1979 『新・熊本の歴史3 中世』 熊本日日新聞社

竹内 理三編 1991 『角川 日本地名大辞典 43 熊本県』 角川書店

写真図版



1. 遺跡遠景



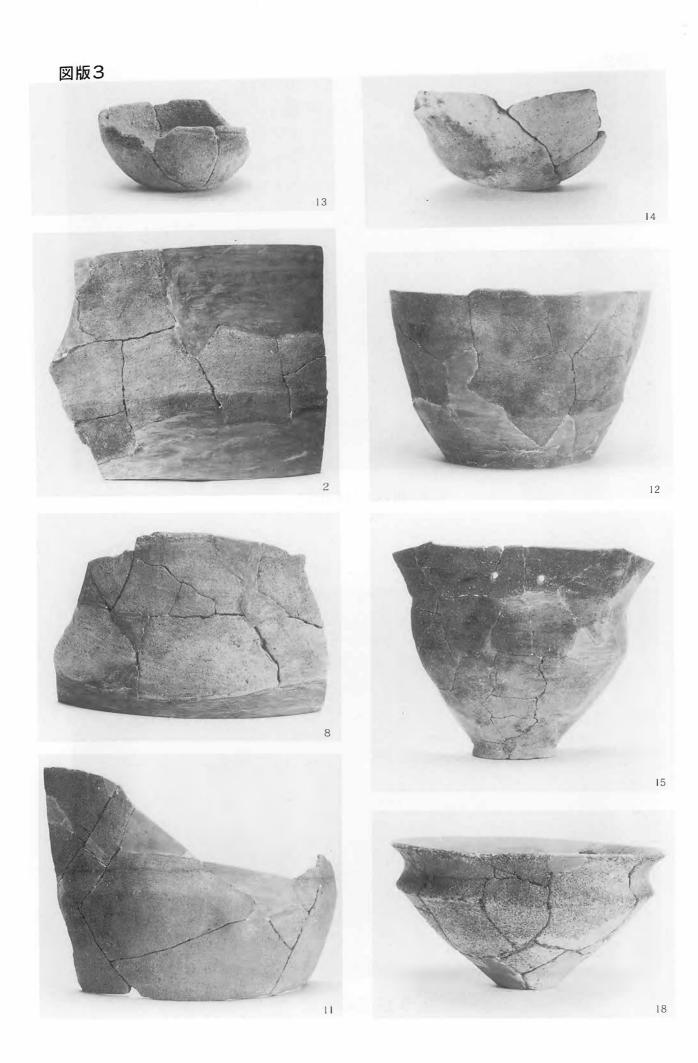
2. II 区完堀状況



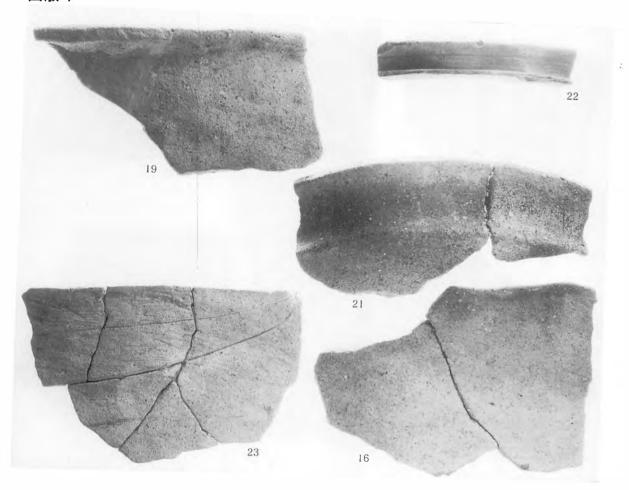
1. Ⅲ区完堀状況

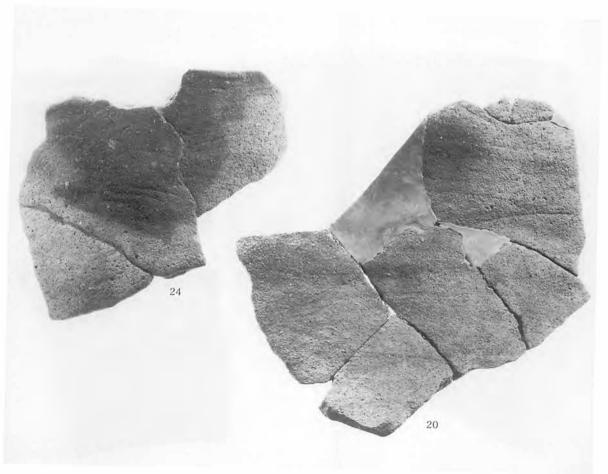


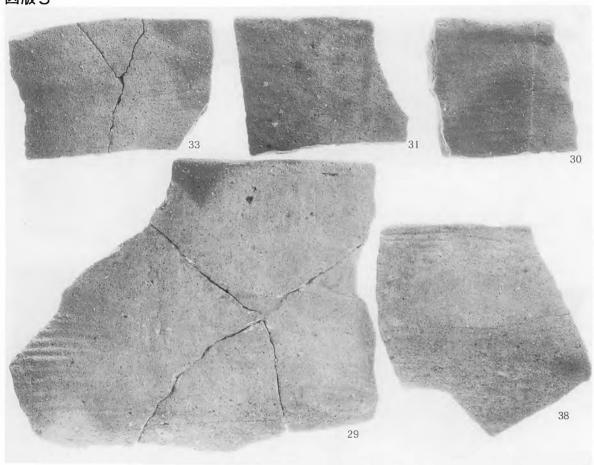
2. IV区完堀状况

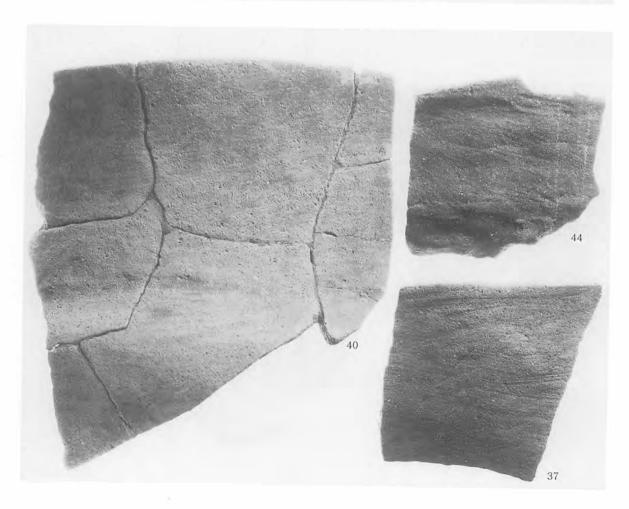


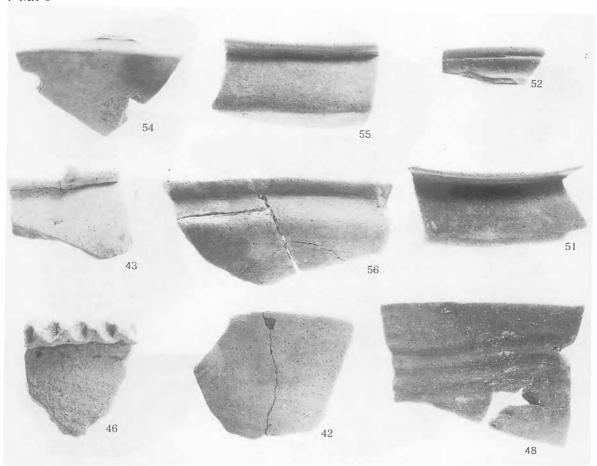
図版4

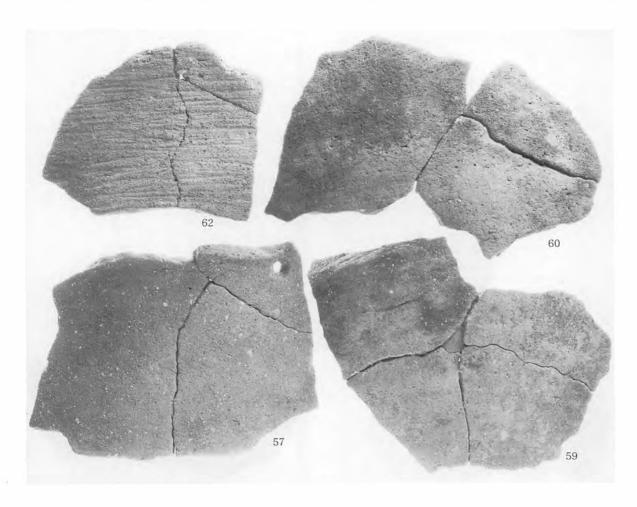


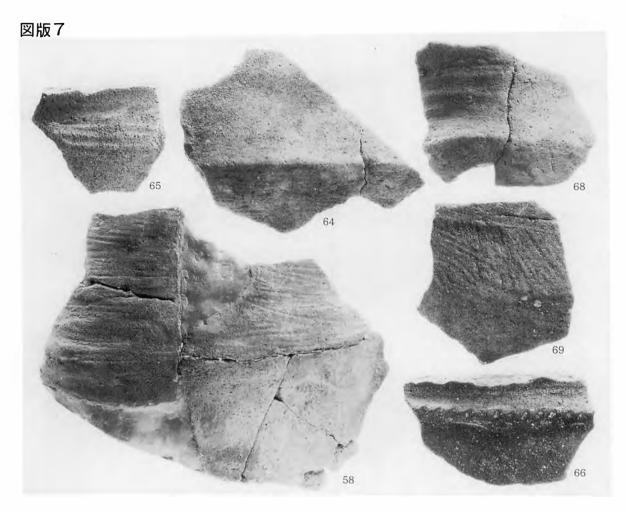




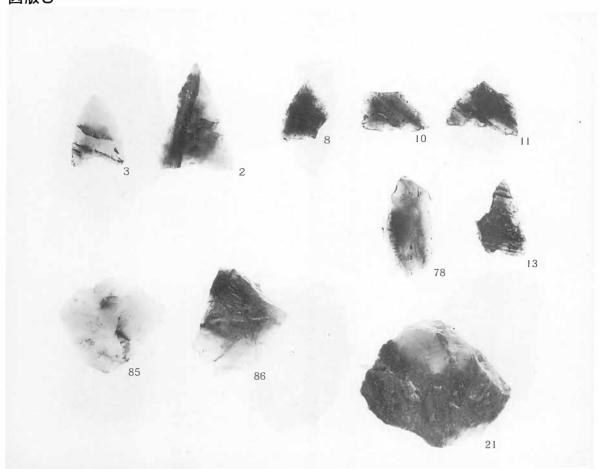


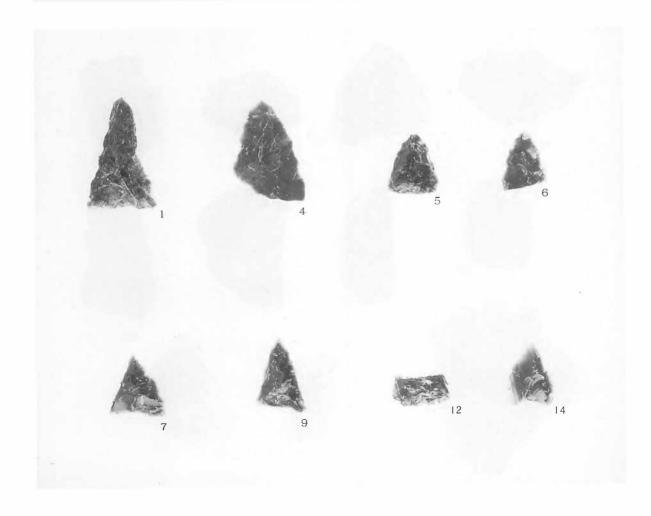


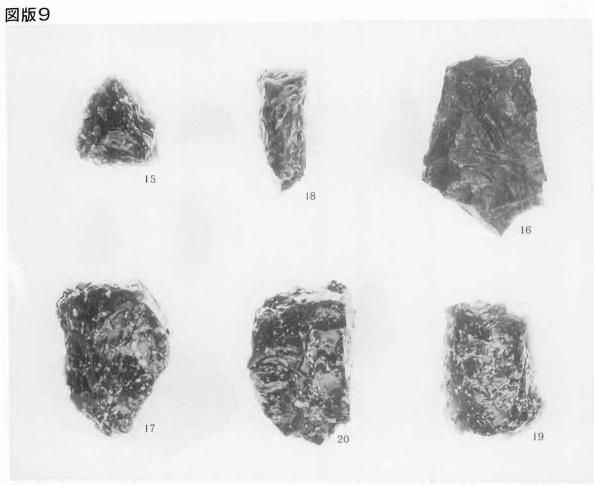


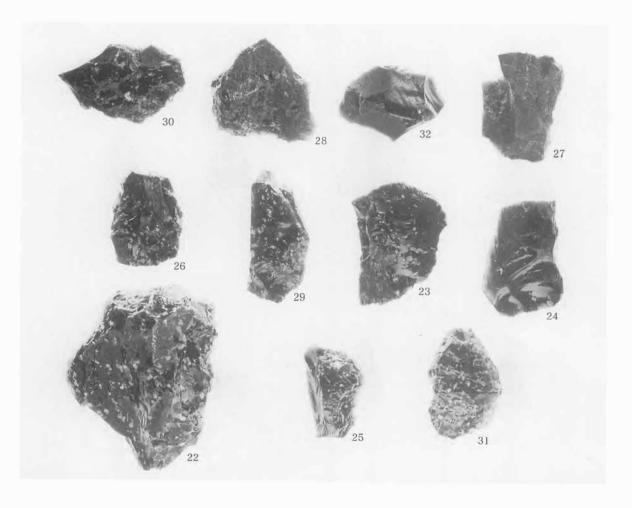


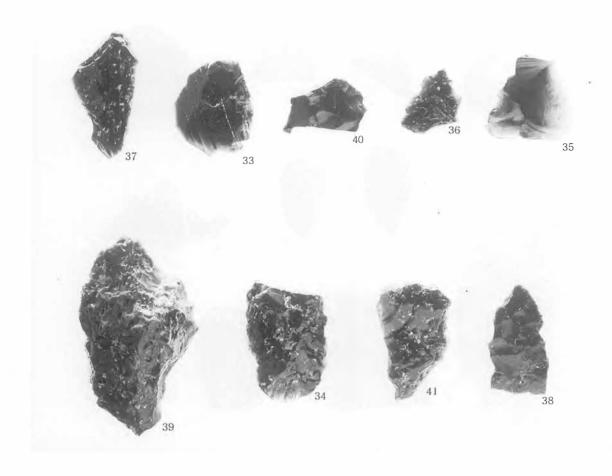


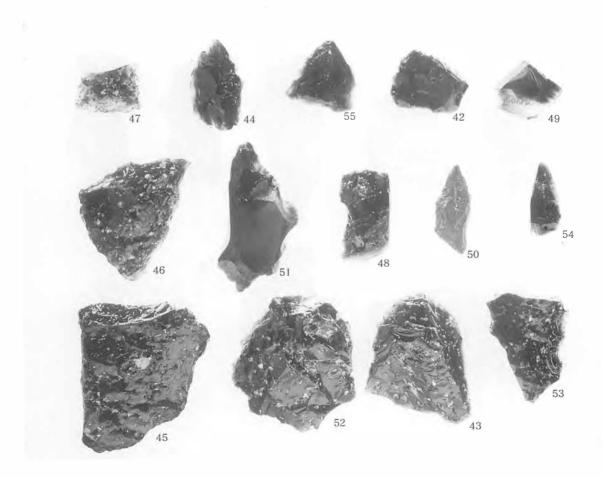


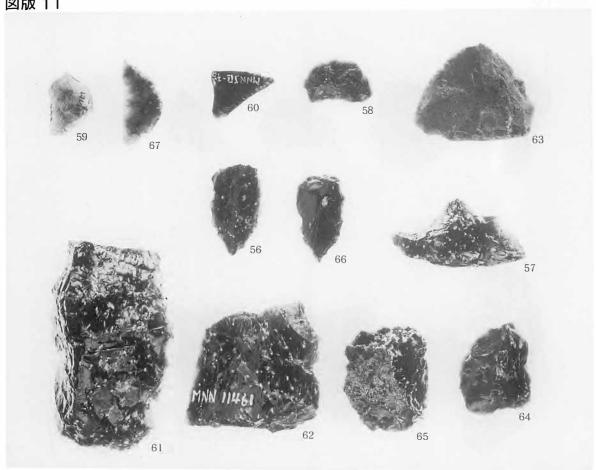


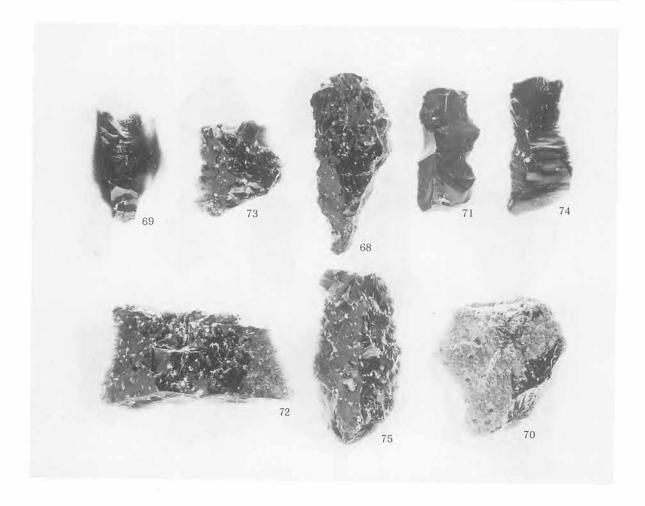




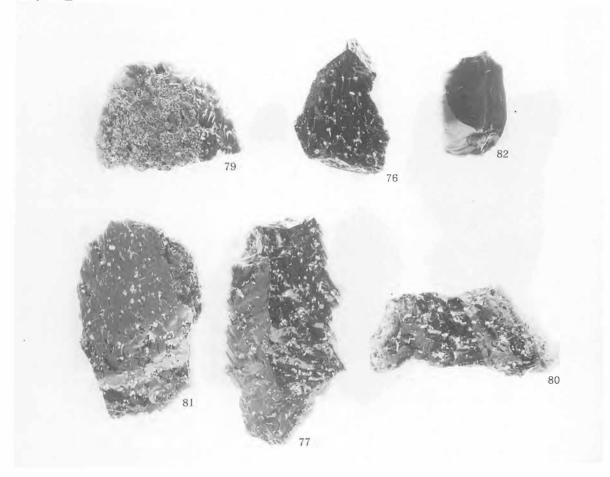


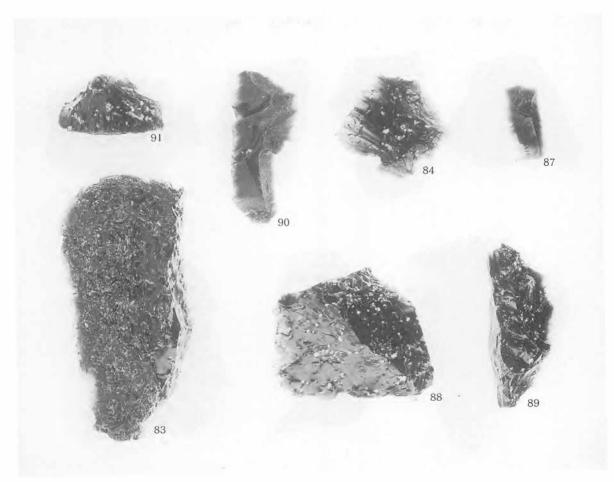


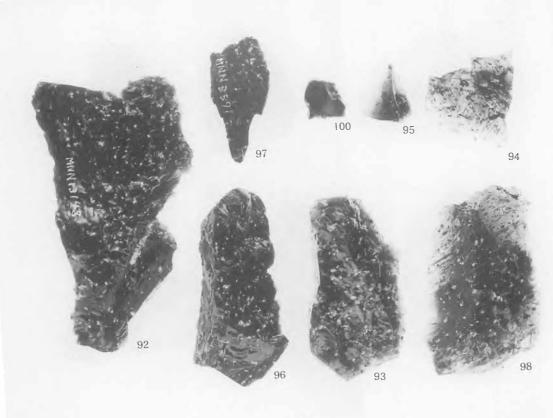


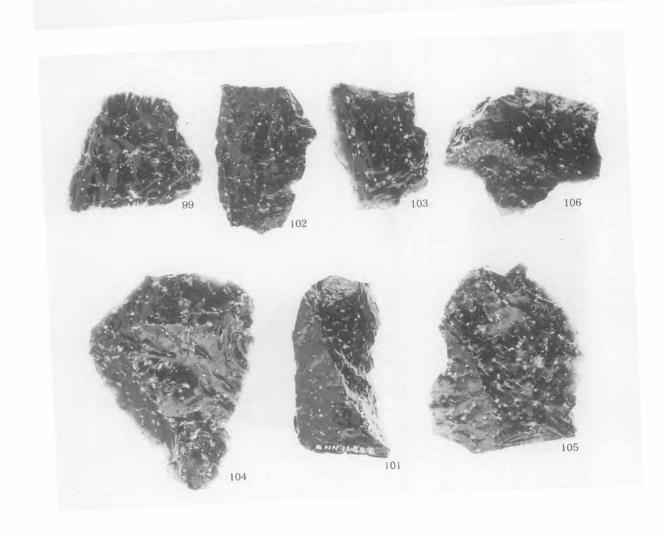


図版 12

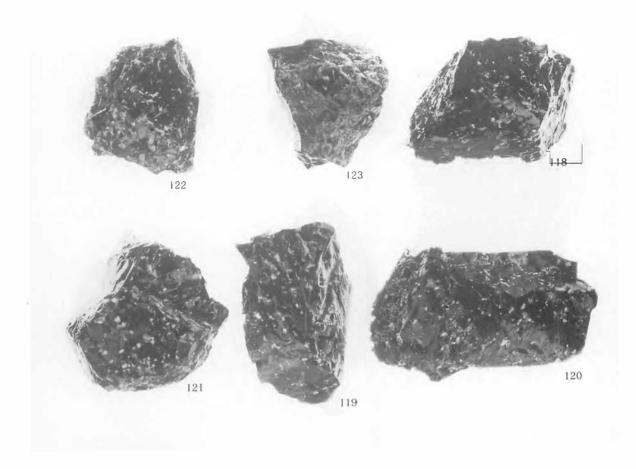


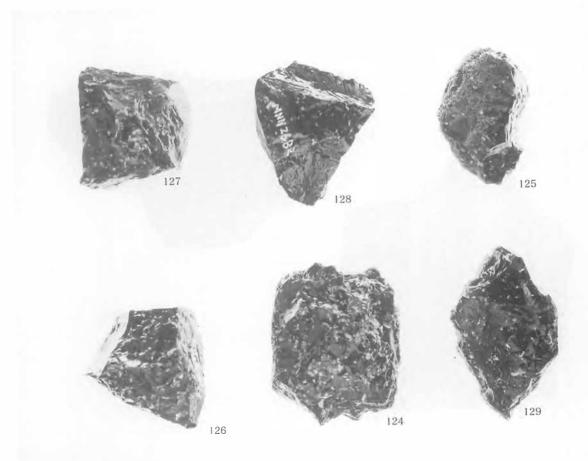


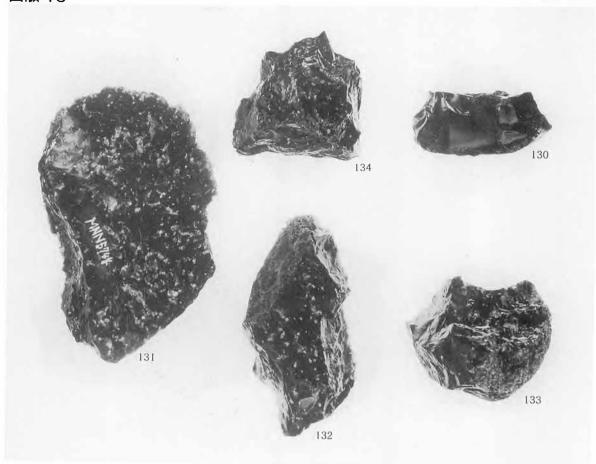


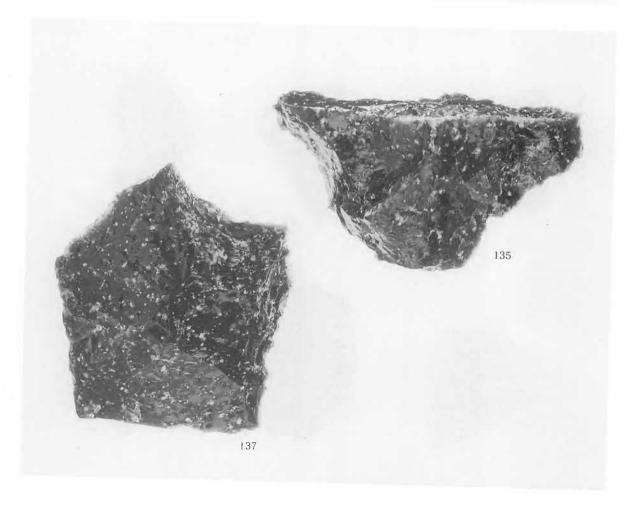


図版 14

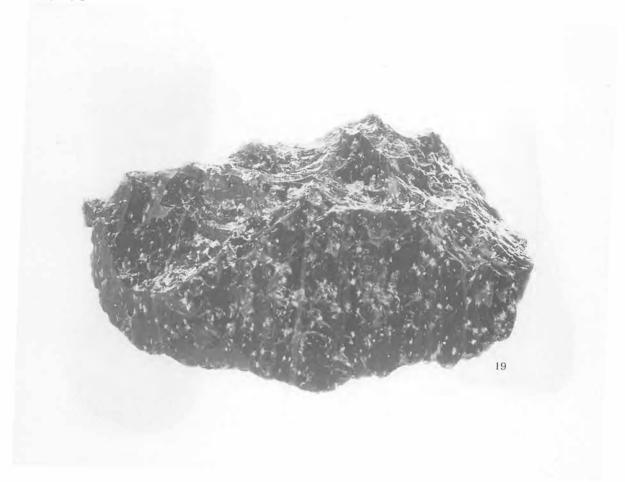




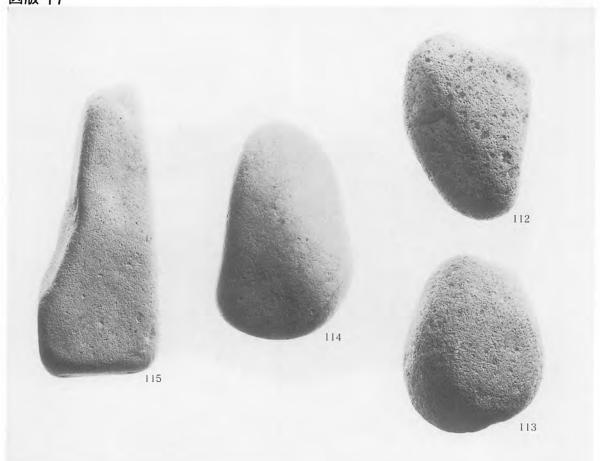




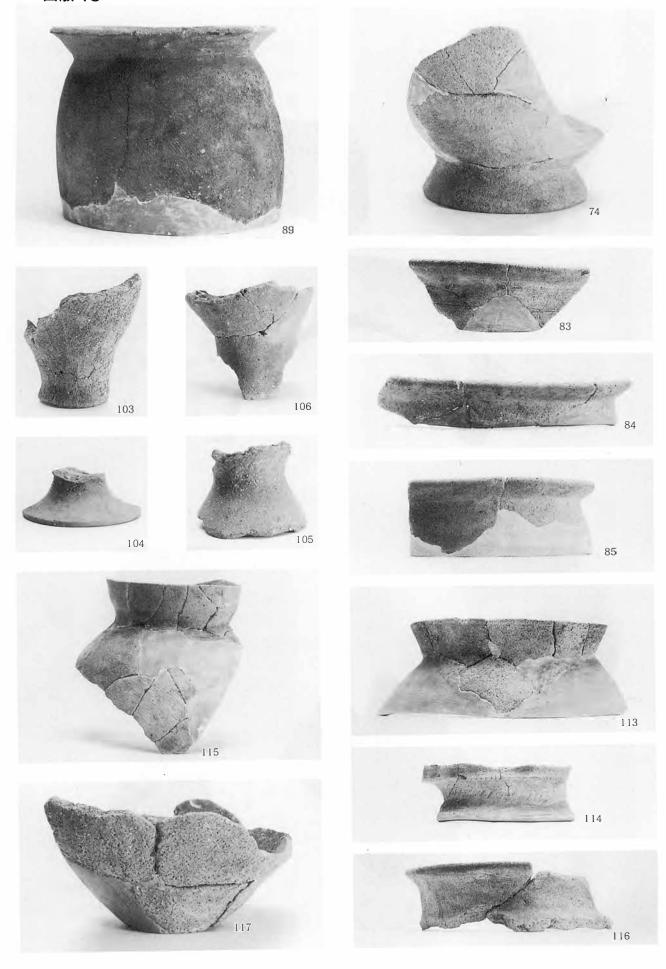
図版 16

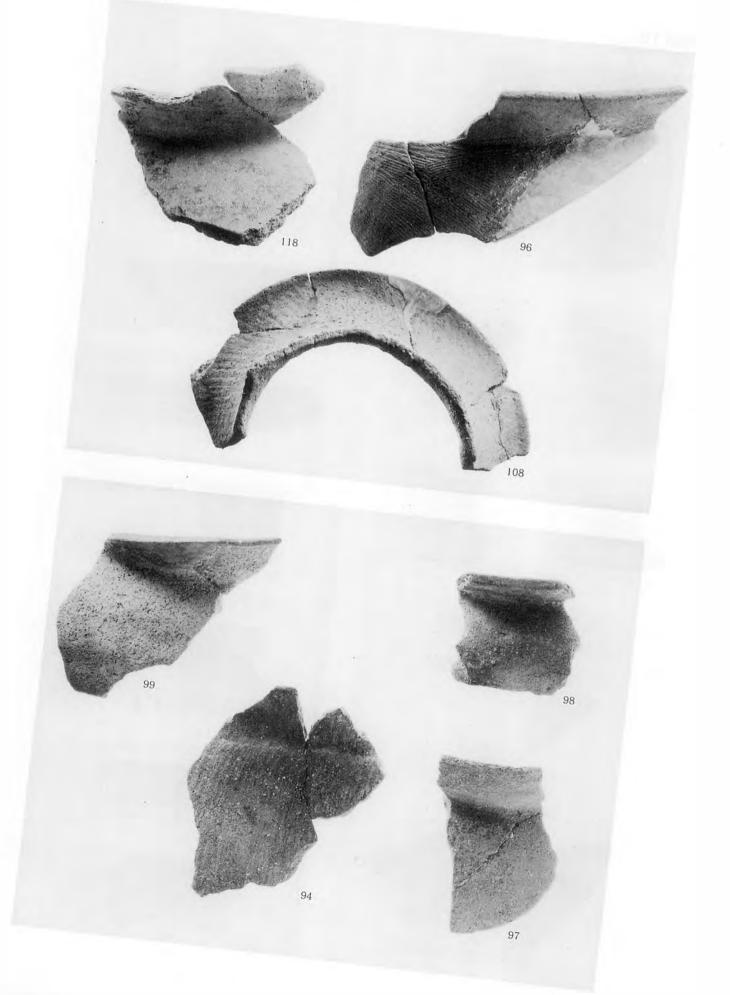


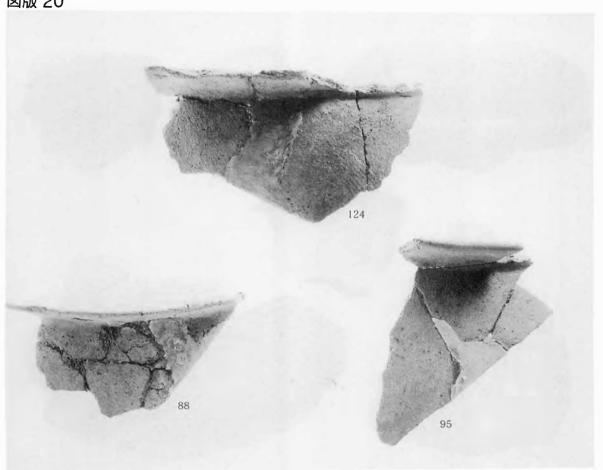


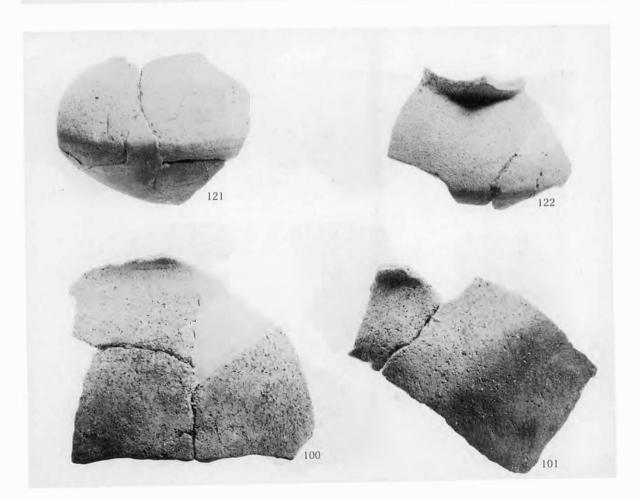


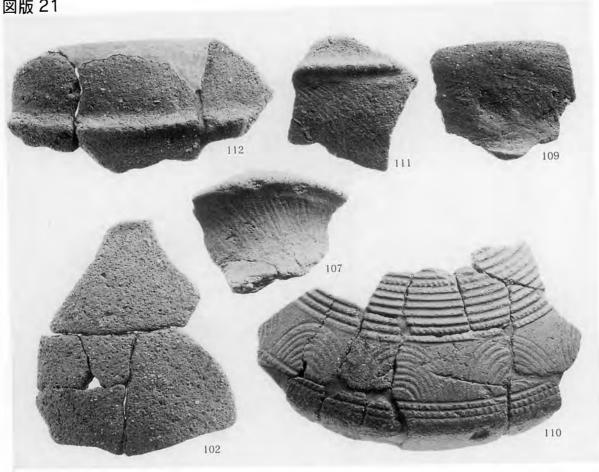


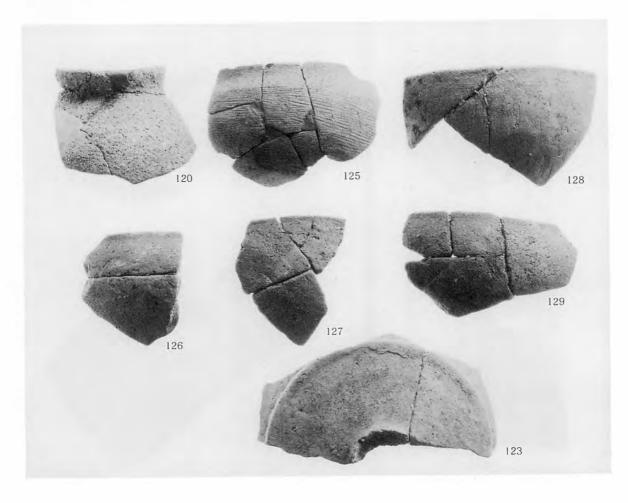


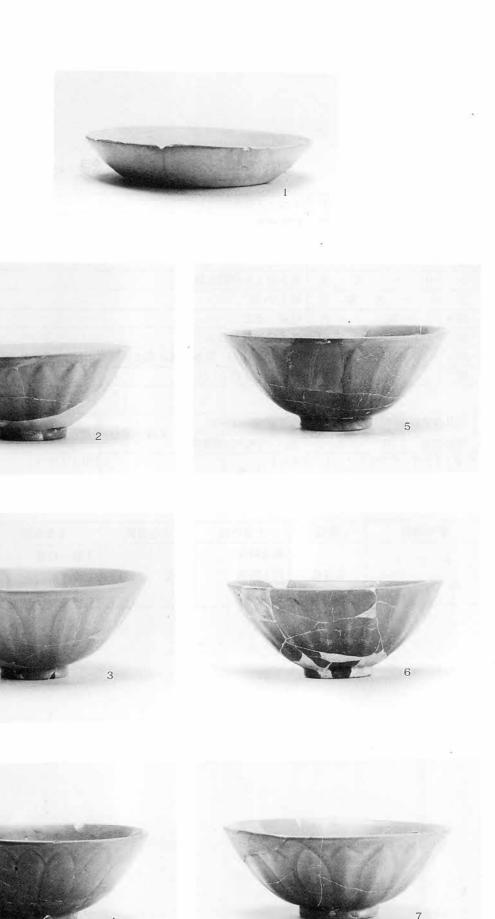












報告書抄録

フ	リガ	ナ	ナガノイセキ					
書		名	長野遺跡					
副		名	九州新幹線 (八代~西鹿児島) 建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告					
巻		次						
シ	リ ー ズ	名	熊本県文化財調査報告					
シ	リーズ番	号	第 189 集					
編	集	者	村崎 孝宏					
編	集 機 関 熊本県教育委員会		熊本県教育委員会					
所	所 在 地 〒862-86		〒862-8609 熊本県熊本市水前寺6丁目18番1号					
発	备 行 年 2000年3月31日		2000年3月31日					

フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	細木抑即	調査面積	细木百口
所収遺跡	所 在 地	市町村	遺跡番号	コレが手	果粧	調査期間	视且叫恨	調査原因
ナガノイセキ	クマモトケンミナマタシ	205				H9.12.8 ∼	1,500m²	九州新幹線
長野遺跡	熊本県水俣市					H10.3.31		建設事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特注事項
ナガノ 長 野	包含地	縄文時代 弥生時代 中世	柱穴	土器、石器 土器 青磁、白磁	

あとがき

平成9年度発掘調査を実施しました「長野遺跡」の調査報告書をようやく発行することができました。

この1冊の報告書が完成するまでには、多くの方々の御協力と御努力がありました。そこで、 その方々の御芳名を記して感謝の意を表します。

[発掘作業] 岩間ユミ子、緒方文子、勝目千代子、金子 昭、金子郁子、河野りす子、草野孝行、久保光子、斉木文子、斉木美久代、斉所幸子、作田 都、島田真知子、田淵照代、寺本 巧、徳富フキ子、福田州利、福田淑子、藤岡美恵子、淵上茂子、本田田鶴子、前田テル子、三島 順、森 照夫、森下義光、森山美則、矢幡千恵子、山下和彦、山下秀子、山本高明、吉留輝男(順不同)

[整理作業] 江島園子、荒牧陽子、益田久子、山内洋子、河崎節子、山元友子、山切律子、 早野弘子、橋本由美子(順不同)

熊本県文化財調査報告 第 189 集

長 野 遺 跡

平成12年3月31日

編集 熊本県教育委員会

〒862-8570 熊本市水前寺6丁目18番1号

印刷 (株)秀 巧 社

〒861 - 2234 熊本県上益城郡益城町古閑 106

2 006

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 189 集を底本として作成しました。 閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用 してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用 方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名:長野遺跡

発行:熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話: 096-383-1111

URL: http://www.pref.kumamoto.jp/

電子書籍制作日: 2015年12月24日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しく は熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL: http://www.kumamoto-bunho.jp/